

山形大学農学部

2016年報

2017年4月

2016年報目次

1. 管理運営

- (1) 平成28年度山形大学農学部概況（主な行事日程等）…………… 1
- (2) 農学部機構図…………… 3
- (3) 農学部現員表…………… 3
- (4) 職員組織…………… 4
- (5) 農学部各種委員会一覧…………… 6
- (6) 平成28年度農学部における発行印刷物一覧…………… 7

2. 教育・研究活動

- (1) 平成29年度入学試験実施状況…………… 8
- (2) 平成28年度在学者数…………… 8
- (3) 卒業・修了後の進路…………… 9
- (4) 平成28年度大学院農学研究科修了者について…………… 10
- (5) 教員の活動実績
 - ① 研究活動…………… 12
 - ② 学会・社会活動…………… 42
 - ③ 産学官など国内他機関との連携研究実績…………… 74
 - ④ 海外研究者との研究活動…………… 80
 - ⑤ 研究員等の受け入れ状況…………… 85
 - ⑥ その他…………… 87

3. 国際交流状況について

- (1) 学部間国際交流協定締結大学一覧…………… 89
- (2) 大学間国際交流協定締結大学一覧（農学部が提案したもの）…………… 90
- (3) 外国出張一覧…………… 90
- (4) その他の国際交流の実施…………… 92

4. 社会活動・地域貢献

- (1) 地域連携推進室に寄せられた事項一覧…………… 93
- (2) 平成28年度社会・地域等の要請により派遣した職員一覧…………… 94
- (3) 平成28年度他大学等の非常勤講師として派遣した職員一覧…………… 96
- (4) 外部資金等の受け入れ状況
 - ・ 平成28年度科学研究費補助金交付決定一覧・分担金一覧…………… 97
 - ・ 平成28年度奨学寄附金・受託研究・共同研究の受け入れ状況…………… 99
- (5) 公開講座等大学開放実施状況…………… 100

5. フィールド科学センターの概況等…………… 103

6. 農学部図書館の概要等…………… 118

7. 大型設備の設置状況…………… 119

8. 鶴岡キャンパスの名称・所在地，土地・建物の概要，配置図…………… 120

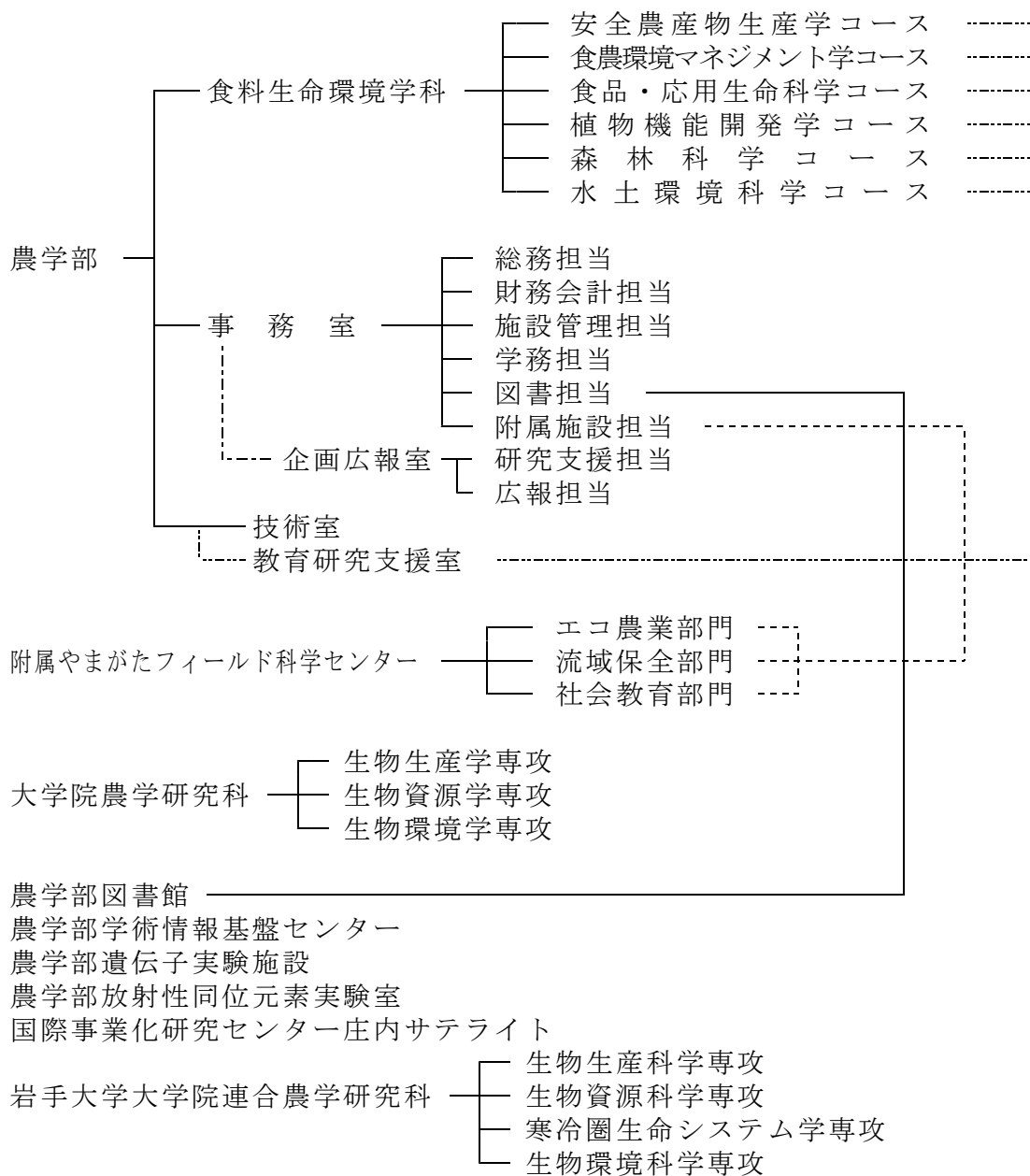
1. 管理運営

(1) 平成28年度山形大学農学部概況（主な行事日程等）

28.	4.	14	鶴岡南高等学校 S S Hガイダンス・基礎実験開始
28.	4.	15	市民交流農園開園式
28.	5.	6	演習林入山式
28.	5.	14	わんぱく農業クラブ①
28.	5.	18	学部長と研究担当理事との意見交換会
28.	6.	4	公開講座（～6月25日）
28.	6.	11	わんぱく農業クラブ②
28.	6.	28	農業・農村白書説明会
28.	6.	29	平成28年度農学部地域産学官連携協議会役員会および総会
28.	6.	30	農場市スタート
28.	7.	2	わんぱく農業クラブ③
28.	7.	5	期日前投票 in 鶴岡キャンパス
28.	7.	8	外交講座
28.	7.	11	構内環境美化活動
28.	7.	20	平成28年度農学部地域産学官連携協議会総会および役員会
28.	7.	21	庄内スマート・テロワール戦略講演会
28.	7.	23	森の学校①
28.	7.	28	メンタルヘルスケア研修会
28.	7.	31	オープンキャンパス（鶴岡キャンパス）
28.	7.	31	女性研究者裾野拡大セミナー2016 in 農学部 「農学部女子!研究者になる!! ～それってどんな?何するの?～」
28.	8.	1	夏期セミナー
28.	8.	1	農学部市民交流農園夏の交流会
28.	8.	6	わんぱく農業クラブ④
28.	8.	17	食と農のビジネス塾開講
28.	8.	18	(独)国際協力機構(JICA)課題別研修「アフリカ地域稲作収穫後 処理」コース(～9月28日)
28.	9.	9	高校教員との情報交換会
28.	9.	17	ひらめき☆ときめきサイエンス「生物の多様性を考える」
28.	9.	17	わんぱく農業クラブ⑤
28.	9.	26	山形大学ビーチサッカー大会
28.	9.	27	AFD心肺蘇生法講習会
28.	9.	29	修了証書授与式
28.	10.	6	農学紹介講座「農学の夕べ」(～11月10日)
28.	10.	8	山大農場フェスティバル
28.	10.	10	ホームカミングデー(S52年園芸科卒)
28.	10.	10	わんぱく農業クラブ⑥
28.	10.	15	つるおか大産業まつり出展(～10月16日)
28.	10.	15	森の学校②
28.	10.	18	防火訓練
28.	10.	23	酒田農林水産まつり出展
28.	10.	27	メンタルヘルス研修会
28.	11.	5	鶴寿祭(～11月6日)

28. 11. 9 学長・学部長と教職員とのワークライフバランス懇談会
28. 11. 10 ビジネスマッチ東北 2017
28. 11. 12 わんぱく農業クラブ⑦
28. 11. 14 鶴岡工業高等専門学校、山形大学工学部、山形大学農学部三機関
連携情報交換会
28. 11. 17 農学部市民交流農園秋の芋煮交流会
28. 11. 22 山形大学農学部・県立農業大学校・県内農業高校連携
「第7回農林業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム」
28. 12. 6 山形県農林水産部連携推進協議会スキルアップ研修会
28. 12. 16 日本酒シンポジウム「Oh!酒落に日本酒 de Night 5時限目」
28. 12. 18 「知の拠点庄内」第6回シンポジウム『海外からみた庄内
-SHONAI はいいのお-』
29. 1. 19 学生と学長・理事・学部長との懇談会
29. 1. 24 研究シーズ説明会・ビジネスマッチ
29. 1. 26 「燦樹(きらめき)2017」新酒発表会
29. 2. 2 留学生日本文化研修
29. 2. 3 農学部・東北森林管理局連携公開講座
29. 2. 4 森の学校③
29. 2. 13 食と農のビジネス塾修了式・ビジネス計画優秀者報告会
29. 2. 13 山形市・山大農学部・東北創生研究所による連携協定締結
29. 2. 14 平成28年度卒業・修士論文発表会(～3月1日)
29. 2. 21 山大農学部・鶴岡市連携事業「庄内水田フォーラム2017」
29. 2. 23 「食-農-環境連携を担うグローバル人材育成事業」平成28年度
報告会
29. 2. 26 個別学力試験(前期日程)
29. 2. 27 平成28年度農学部地域連携推進協議会
29. 2. 28 寄附口座『食糧自給圏「スマート・テロワール」形成講座』解説
記念実験用肥育豚舎除幕式および活動報告会
29. 3. 17 平成28年度学位記授与式

(2) 農学部機構図



(3) 農学部現員表

(平成29年3月31日現在)

	教 員				その他の職員	合 計
	教 授	准教授	助 教	計		
現 員	29	29	4	62	67	129

(4) 職員組織

(平成29年3月31日現在)

学 部 長 林 田 光 祐
副 学 部 長 小 沢 亙
副 学 部 長 村 山 秀 樹

食料生命環境学科

学 科 長	村 山 哲 也
安全農産物生産学コース主任	平 智
食農環境マネジメント学コース主任	角 田 毅
食品・応用生命科学コース主任	三 橋 亙
植物機能開発学コース主任	俵 谷 圭太郎
森林科学コース主任	高 橋 孝 悦
水土環境科学コース主任	渡 部 徹

安全農産物生産学コース

教 授	西 澤 隆
教 授	藤 井 弘 志
教 授	平 智 一
教 授	堀 口 健 一
准教授	小笠原 宣 好
准教授	角 田 憲 一
准教授	長 谷 修 隆
准教授	小 林 隆 彦
准教授	片 平 光 彦
准教授	森 静 香
准教授	佐 藤 智 城
准教授	松 山 裕 城
助 教	松 本 大 生

食農環境マネジメント学コース

教 授	岩 鼻 通 明
教 授	小 沢 亙
教 授	角 田 毅
准教授	家 串 哲 生
准教授	藤 科 智 海
准教授	渡 辺 理 絵
助 教	保木本 利 行

食品・応用生命科学コース

教 授	三 橋 涉
教 授	小 関 卓 也
教 授	豊 増 知 伸
教 授	永 井 毅
教 授	木 村 直 子
教 授	加 来 伸 夫
教 授	塩 野 義 人
准教授	渡 辺 昌 規
准教授	井 上 奈 穂

植物機能開発学コース

教 授	村 山 哲 也
教 授	俵 谷 圭太郎
教 授	村 山 秀 樹
教 授	江 頭 宏 昌
准教授	程 為 国
准教授	笹 沼 恒 男
准教授	服 部 聡 彰
准教授	及 川 彰 彰
准教授	星 野 友 紀
助 教	網 干 貴 子

森林科学コース

教授	野	堀	嘉	裕
教授	高	橋	孝	悦
教授	森		茂	太
教授	林	田	光	祐
教授	芦	谷	竜	矢
准教授	柳	原		敦
准教授	菊	池	俊	一
准教授	小	川	三四郎	
准教授	林		雅	秀
准教授	江	成	広	斗

水土環境科学コース

教授	藤	井	秀	人
教授	奥	山	武	彦
教授	安	中	武	幸
教授	渡	部		徹
准教授	石	川	雅	也
准教授	花	山		奨
准教授	渡	邊	一	哉
助教	梶	原	晶	彦

附属やまがたフィールド科学センター

エコ農業部門

教授	浦	川	修	司
准教授	池	田	和	生
准教授	佐	々	木	由
				佳

流域保全部門

准教授	ロ	ペ	ス	ラ	リ
助教	梶	原	晶	彦	
					(兼任：食料生命環境学科)

社会教育部門

教授	金	成	學	
教授	小	沢	互	
				(兼任：食料生命環境学科)
准教授	家	串	哲	生
				(兼任：食料生命環境学科)

事務職員

事務	長	滝	口	仁
副事務	長	中	山	由
総務担当	係長	加	藤	幸
研究支援担当	係長	遠	藤	文
財務会計担当	上席係長	齋	藤	敏
施設管理担当	係長	河	野	秀
学務担当	上席係長	菅	原	一
学務担当	係長	那	須	奈
附属施設担当	係長	池	田	正
図書担当	係長	齋	藤	順
				一

(5) 農学部各種委員会一覧

- ・ 農学部運営会議 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部教員人事委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部コース主任・教育ディレクター会議 (H23. 4. 1 設置)
- ・ 農学部選挙管理委員会 (S28. 2.16 設置)
- ・ 農学部利益相反マネジメント委員会 (H24. 5.24 設置)
- ・ 農学部国際交流委員会 (H 5.11.18 設置)
- ・ 鶴岡地区事業場安全衛生委員会 (H16. 4. 1 設置)
- ・ 農学部遺伝子実験室運営委員会 (H21.10. 1 設置)
- ・ 農学部放射性同位元素実験室運営委員会 (H 8. 7. 1 設置)
- ・ 農学部キャンパス・ハラスメント防止対策委員会 (H17. 7. 1 設置)
- ・ 農学部・農学研究科運営協議会 (S49.10.25 設置)
- ・ 農学部目標計画・評価分析委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部EM・広報委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部予算委員会 (H 4. 4. 1 設置)
- ・ 農学部学術情報基盤センター運営委員会 (H21.10. 1 設置)
- ・ 農学部学務委員会 (H 4. 4. 1 設置)
- ・ 農学部入学試験実施委員会 (S53. 5. 1 設置)
- ・ 農学部FD委員会 (H25. 4. 1 設置)
- ・ 附属やまがたフィールド[®]科学センター運営委員会 (H18. 7. 1 設置)
- ・ 農学部図書館運営委員会 (H21.10. 1 設置)
- ・ 農学部教育支援室運営委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 連合農学研究科代議員 (H 2. 6. 8 設置)
- ・ 学生相談室運営会議 (H27. 4. 1 設置)
- ・ 農学部食品・応用生命科学コース設置検討委員会 (H27. 6.25 設置)

(6) 平成28年度農学部における発行印刷物一覧

I 広報誌

- 1 山形大学農学部案内
受験生や関係高等学校、企業への広報関係誌
- 2 農学部研究シーズ集
農学部全教員の主要な研究テーマを紹介した民間企業等を対象とした冊子体

II 自己点検・評価報告書等

- 1 山形大学農学部2015年報

III 教育関係広報活動・報告書等

(学生向け冊子)

- 1 山形大学農学部・山形大学大学院農学研究科学生便覧

(報告書等)

- 1 学位論文抄録集

2. 教育・研究活動

(1) 平成29年度入学試験実施状況(外国人留学生を除く。)

○ 農学部入学試験

区分・学科	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
推薦入試									
食料生命環境学科	40	38	46	38	46	15	25	15	25
小計	40	38	46	38	46	15	25	15	25
一般入試(前期)									
食料生命環境学科	95	115	84	114	82	71	45	64	42
小計	95	115	84	114	82	71	45	64	42
一般入試(後期)									
食料生命環境学科	30	85	66	85	66	21	20	10	8
小計	30	85	66	85	66	21	20	10	8
合計	165	238	196	237	194	107	90	89	75

○ 農学部3年次編入学試験

学 科	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
食料生命環境学科	若干人	3	7	3	7	2	4	1	3
合計		3	7	3	7	2	4	1	3

○ 大学院農学研究科入学試験

専 攻	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
生物生産学専攻	14	6	12	6	12	6	11	6	11
生物資源学専攻	16	9	7	9	7	8	7	7	7
生物環境学専攻	12	5	5	5	5	5	4	5	4
合計	42	20	24	20	24	19	22	18	22

(2) 平成28年度 在学者数(外国人留学生を除く。平成28年5月1日現在)

○ 学 部

学 科	入学定員	現 員								合 計
		1年次		2年次		3年次		4年次		
		男	女	男	女	男	女	男	女	
食料生命環境学科	155	88	71	85	69	80	85	98	73	649
生物生産学専攻	55							1	0	1
生物資源学専攻	50							0	0	0
生物環境学専攻	50							1	0	1
合計		88	71	85	69	80	85	100	73	651

○ 大学院農学研究科

専 攻	入学定員	現 員						合 計
		1年次		2年次		合 計		
		男	女	男	女	男	女	
生物生産学専攻	14	4	2	8	2	12	4	16
生物資源学専攻	16	3	5	10	3	13	8	21
生物環境学専攻	12	4	4	6	3	10	7	17
合計	42	11	11	24	8	35	19	54

(3) 卒業・修了後の進路

卒業後の進路(学部)

学 科	卒業生数	大学院 進 学	その他	就 職 先			未決定	決定率(%)
				民間企業	公務員	計		
食料生命環境学科	158 (71)	37 (18)	3 (2)	83 (36)	35 (15)	118 (51)	0 (0)	100.0

()内の数は女子を内数で表す。

就職先の状況

食料生命環境学科	<p>全農山形県本部、トヨタカローラ山形(株)、丸松農園(株)、(株)三洋、農林中央金庫山形支店、JAてんどう、置賜農業共済組合、(株)山形銀行、(株)スズキ自販山形、JA山形おきたま、日東ベスト(株)、(株)山形銀行、日新製菓(株)、学校法人新庄東高等学校、(株)金龍、(株)おーばんホールディングス、(株)果香、東北電機鉄工(株)、自営農業、東北アヲハタ(株)、東北日本ハム(株)、日本食研ホールディングス(株)、みやぎ生活協同組合、(株)フローラ、(株)パーク・コーポレーション、株式会社熊谷組、(株)南東北クボタ(2名)、(株)サタケ、カネコ種苗(株)、深作農園(有)、(株)栗原医療器械店、(独)農林水産消費安全センター、(株)三宝、(株)シンセイ、(株)新潟クボタ、(株)明治、(株)やまひろ、(株)秋田県分析化学センター、JA全農にいがた、(株)コメリ(2名)(株)ヴィノスやまざき、(株)一条工務店、みちのく銀行、(株)KKOK、京野アートクリニック高輪、佐藤食品工業(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)大七酒造、(株)コスモビューティー、朝日工業(株)、伊藤ハムデイリー(株)、(株)ヤタロー、みなとみらい夢クリニック、三和建装(株)、(株)JR東日本商事、(株)JAグリーンとちぎ、青葉化成(株)、(株)モリタン、全農チキンフーズ(株)、(株)諸長、(株)星野リゾートマネジメント、セキスイハイム東北(株)、太子食品工業(株)、フジパン(株)、(株)マクロミル、本荘由利森林組合、永大小名浜(株)、わらべや日洋(株)、(株)ユニバーサル園芸、ライフフーズ(株)、成友興業(株)、(株)ヤマダフーズ、滝沢ハム(株)、(株)富士グリーンテック</p> <p>林野庁、山形県庁(7名)、宮城県庁(2名)、青森県庁、福島県庁(6名)、北海道庁(3名)、栃木県庁、群馬県庁、岩手県庁、新潟県庁(2名)、鶴岡市役所、酒田市役所、長岡市役所、いわき市役所、日光市役所、舟形町役場、会津坂下町役場、猪苗代町役場、広島県庁、由利本荘市役所</p>
----------	--

修了後の進路(大学院農学研究科《修士課程》)

学 科	卒業生数	大学院 進 学	その他	就 職 先			未決定	決定率(%)
				民間企業	公務員	計		
生物生産学専攻	10 (3)	1 (0)	3 (2)	3 (0)	2 (0)	5 (0)	1 (1)	83.3
生物資源学専攻	11 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (3)	0 (0)	11 (3)	0 (0)	100.0
生物環境学専攻	10 (2)	2 (0)	0 (0)	7 (1)	1 (1)	8 (2)	0 (0)	100.0
計	31 (8)	3 (0)	3 (2)	21 (4)	3 (1)	24 (5)	1 (1)	96.0

()内の数は女子を内数で表す。

就職先の状況

生物生産学専攻	<p>国立大学法人東北大学、(株)山形銀行、hone加藤珈琲店(株)</p> <p>山形県庁、秋田県庁</p>
生物資源学専攻	<p>山形県信用保証協会、JA鶴岡、鈴木食品製造(株)、東北銘醸(株)、日東ベスト(株)、テルモ(株)、(株)ジャパンコンピューターサービス、うすだレディースクリニック、エヌエス環境(株)、横浜植木(株)、一般社団法人新潟県環境衛生中央研究所</p>
生物環境学専攻	<p>前田製管(株)、ファームドゥ(株)、北越紀州製紙(株)、東北緑化環境保全(株)、(株)カンセキ、(株)建設技術研究所、東洋測量設計株式会社</p> <p>林野庁</p>

(4) 平成28年度大学院農学研究科修了者について

○生物生産学専攻

コース	氏名	論文題目	指導教員名
安全農産物生産学	菊池 芽衣子	ジャガイモ (<i>Solanum tuberosum</i> L.) 塊茎のデンプン形態および炭水化物含量に関する研究	西澤 隆
安全農産物生産学	今野 真輔	農作業の燃料消費に関する研究	片平 光彦
安全農産物生産学	佐藤 貴広	水田における作物残渣の有効利用に関する研究	角田 憲一
安全農産物生産学	佐藤 麻衣	水田転換畑での露地野菜の省力機械化作業体系の確立	片平 光彦
食農環境マネジメント学	澤田 智明	農業法人における道路除雪請負作業の事業性評価とゲーム均衡に関する実証的研究—豪雪地帯X市における取組事例を基に—	家串 哲生
安全農産物生産学	東海林 暁	水稻品種「日本晴」とその塩吸収耐性系統との塩分付着感受性の比較	森 静香
安全農産物生産学	菅原 直人	葉面濡れセンサーを用いたイネいもち病の発生予察技術の開発	小林 隆
安全農産物生産学	NGUYEN THANH TUNG	Investigation on the fertility of paddy soil under long-term application of rice straw and cow dung compost in Mamurogawa, Yamagata	佐々木 由佳
安全農産物生産学	WIDYANINGRUM KRISTANTI YUNITA	Effects of temperature on performance of three species of freshwater snail	佐藤 智
食農環境マネジメント学	小倉 拓磨	農協系プロイラーインテグレーションの方向性—岩手県S社を事例として—	小沢 互
食農環境マネジメント学	RUBASHARAZA WILLIAM	The Role and Subject of Milk Collection Centers (MCC) in Rwanda: A Case Study of Dukundamatungo MCC	角田 毅

○生物資源学専攻

コース	氏名	論文題目	指導教員名
食品・応用生命科学	石川 真衣	麹菌のフラボノイド配糖体加水分解酵素に関する研究	小関 卓也
食品・応用生命科学	伊藤 瑛	イネのジテルペン環化酵素のγドメインの活性への関与と進化	豊増 知伸
食品・応用生命科学	小倉 亮子	シロイヌナズナの細胞周期停止因子とオートファジー可溶性基質受容体との結合について	三橋 渉
食品・応用生命科学	小原 太樹	SOD1KOマウス卵におけるSACタンパク質Mps1の発現動態を指標とした染色体異数性発生機序の解析	木村 直子
植物機能開発学	武田 滉平	ホオノキ(<i>Magnolia obovata</i>)未熟果実部並びにワルナスビ(<i>Solanum carolinense</i>)に含まれる成分に関する研究	村山 哲也
食品・応用生命科学	玉田 陽集	脱脂米糠からのリン・タンパク質抽出条件の最適化による回収産物の品質に与える影響	渡辺 昌規
植物機能開発学	堀 翔太	飛島沿岸海水・海藻の網羅的細菌叢解析および新規放射菌の探索	服部 聡
植物機能開発学	本田 創一朗	リン欠乏条件における低リン耐性イネ品種の代謝応答の解明	俵谷 圭太郎
食品・応用生命科学	松浦 嵩	イネにおけるモミラクソン輸送体候補遺伝子	豊増 知伸
食品・応用生命科学	山田 知加	嫌気微生物を利用した自動車リサイクル時に発生する廃棄物の処理	加来 伸夫
食品・応用生命科学	吉田 昂平	シロイヌナズナ細胞周期停止因子とアブシジン酸信号伝達因子との結合とその役割の検討	三橋 渉

○生物環境学専攻

コース	氏名	論文題目	指導教員名
水土環境科学	金谷 祐里	水中の薬剤耐性菌による健康影響評価手法の開発	渡部 徹

森林科学	鈴木 佑梨	スギ含有テルペノイドの藍藻類 <i>Microcystis aeruginosa</i> に対する増殖抑制効果	芦谷 竜矢
森林科学	高橋 章文	被食型散布樹種であるヤマボウシ果実の成熟フェノロジーの個体内変異とその決定要因	林田 光祐
森林科学	田中 駿耶	針葉樹葉テルペノイド成分の植物発芽生長抑制効果	芦谷 竜矢
水士環境科学	仲谷 宗一郎	砂丘農地土壌の物理的環境と作物根の伸長との関係	安中 武幸
森林科学	藤原 崇	イヌワシ保全に配慮したスギ林の間伐と作業道開設が林床植生とノウサギ出現頻度に及ぼす影響	林田 光祐
森林科学	芳土戸 啓	陸上植物個体の地上部と地下部の呼吸バランス	森 茂太
森林科学	王 莫非	有限、無限成長する陸上植物地上部呼吸の収斂 —タケと樹木—	森 茂太
森林科学	張 琪欽	Evaluation of Climate Change in northeastern China by means of $\delta^{13}\text{C}$ in tree-rings in the Great Xing'an Mountains region	ロベス・ラリー
水士環境科学	木村 友祐	誘電式土壌水分センサーによる含水率測定への電気伝導度と温度の影響	安中 武幸

(5)教員の活動実績

①研究活動

安全農産物生産学コース

西澤 隆

1-① 著書

- (1) 西澤 隆. 2016. 光合成産物の転流と分配—野菜の生産性を考察する—. 宍戸良洋編著. 養賢堂. p.1-355.
第1章1-3(2)イチゴの根とクラウンからの貯蔵光合成産物の再転流. p.23-28, 第1章1-4(6)イチゴにおける転流物質と糖の蓄積. p.58-61, 第3章3-2(2)イチゴにおける葉位と光合成産物の転流・分配並びに相互遮蔽と光合成量. p.126-132, 第5章5-8イチゴの栄養生長期から休眠期にかけての光合成と光合成産物の転流. p.247-254, 第5章5-9イチゴ果実の発育と光合成産物の転流・分配. p.254-260. (分担執筆)

1-② 論文

- (1) Solaiman A.H.M., **T. Nishizawa***, S.M.A. Arefin, Md.D. Sarkar and M. Shahjahan. 2016. Effect of partially UV-blocking films on the growth, yield, pigmentation, and insect control of red amaranth (*Amaranthus tricolor*). *British Journal of Applied Science & Technology* 12(2): 1-11.
- (2) Solaiman A.H.M., **T. Nishizawa***, S.M.A. Arefin, Md.D. Sarkar and M. Shahjahan. 2016. The influence of partially UV-blocking films in the insect infestation and in the growth of broccoli and turnip seedlings. *British Journal of Applied Science & Technology* 13(2): 1-11.
- (3) Rahman Md.M., T.S. Roy, I.F. Chowdhury, **T. Nishizawa** and M. Afroj. 2016. Colour and crispness assessment of forty potato varieties for processing industry of Bangladesh. *Potato J.* 43 (1): 78-85.

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 西澤 隆・金子暁夫・後藤 楓. 2016. 環境条件がトマトにおける「つやなし果」の発生に及ぼす影響. 園学要旨 H28東北支部. 33-34.

1-④ 学会発表(国際学会)

- (1) **Nishizawa T.**, T. Okada, Y. Suzuki, Y. Motomura and T. Aikawa. 2016. VI.II.051. Postharvest enlargement of cucumber fruit associated with water movement and cell wall degradation. VIII International Postharvest Symposium. p120.

藤井弘志

1-① 論文

- (1) 片桐哲也・安藤和登・松本由美・森静香・藤井弘志(2016):ドローンによる圃場生育評価と無人ヘリによる可変追肥システムを利用した水稻の収量・品質改善について、計測と制御、公益社団法人計測自動制御学会、第55巻、125-138

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 佐藤久実・横島千剛・森静香・藤井弘志(2016): 苗質及び植付深が還元条件下の水稻の生育に及ぼす影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、62、98
- (2) 久米川和貴・森静香・松本由美・藤井弘志(2016): ケイ酸施肥位置の違いが水稻の生育・ケイ酸吸収に及ぼす影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、62、99
- (3) 東海林暁・森静香・南和希・檜原勇太・松本由美・阿部知子・藤井弘志(2016): 水稻品種「日本晴」とその塩吸収耐性系統との塩分付着害感受性の比較について、日本土壤肥料学会講演要旨集、62、100
- (4) 松本由美・高橋航平・猿田文平・片桐哲也・安藤和登・森静香・藤井弘志(2016):ドローンによる圃場生育評価と無人ヘリによる可変追肥システムを利用した水稻の収量・品質改善について、日本土壤肥料学会講演要旨集、62、103

- (5) 両角知奈・松本由美・森静香・藤井弘志(2016):大豆の葉色による早期落葉の診断指標の構築、日本土壤肥料学会講演要旨集、62、104

平 智

1-① 論文

- (1) Matsumoto, D., Y. Machida and S. Taira. 2016. *In vitro* pollen tube growth inhibition by partially purified S-RNase from styles of *Prunus avium* L.. Acta Hortic. in press.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 松本大生・渡邊勇紀・田口 将・平 智、2016、山形県におけるミツバアケビ栽培系統の交配和合性、園芸学研究、15(別冊1):96

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Taira, S., M. Awa and D. Matsumoto. 2016. Comparison between the astringency removal of 'Hiratanenashi' and 'Denkuro' persimmon applying ethanol treatment on-tree and after harvest. Abstr. 6th Int. Symposium on Persimmon. 16-20 October 2016, Valencia, Spain. p. 88.

浦川修司

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 福室絢大・菅井成毅・久保聖諒・松山裕城・堀口健一・浦川修司(2017)寒冷地水田で栽培した「たちすずか」と「たちあやか」の生育特性と飼料特性の解明, 日本草地学会誌63(別),29
- (2) 久保 聖諒・菅井 成毅・福室 絢大・松山 裕城・堀口 健一・池田 浩輔・浦川 修司(2017)寒冷地における飼料用米向け新系統「W1」,「W8」の生育特性と飼料特性の解明, 日本草地学会誌63(別),30
- (3) 室井 智陽・松山 裕城・堀口 健一・中坪 あゆみ・浦川 修司(2017)庄内地域における子実利用を目的としたトウモロコシの生産技術の検討, 日本草地学会誌63(別),35

堀口健一

1-① 著書

- (1) 松山裕城、堀口健一、浦川修司(2016): 粳米サイレージのウシ・ブタへの利用拡大に必要な飼料特性の解明に関する調査研究. 畜産の情報, 323, 44-52.

1-② 論文

- (1) 渡部 徹・倉島須美子・Pham Duy Dong・堀口健一・佐々木貴史・浦 剣(2016): 下水処理水の連続灌漑による飼料用米の栽培とその栄養特性. 土木学会論文集G(環境), 72, III 505-III 514.
- (2) Shin-ichi Tagawa, Norio Yoshida, Yukihiro Iino, Ken-ichi Horiguchi, Toshiyoshi Takahashi, Maria Watanabe, Kei Takemura, Syuhei Ito and Toyoji Mikami (2017): The effect of pelleting on in situ rumen degradability of compound feed containing brown rice for dairy cows. Animal Science Journal, 88, 185-189.

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 堀口健一・柴田瑤子・松山裕城・浦川修司・吉田宣夫・高橋敏能(2016): 森林自生植物サイレージの発酵品質とウシの嗜好性. 東北畜産学会報, 66(2), 37.
- (2) 福室絢大・菅井成毅・久保聖諒・松山裕城・堀口健一・浦川修司(2017): 寒冷地水田で栽培した「たちすずか」と「たちあやか」の生育特性と飼料特性の解明. 日本草地学会誌, 63(別号), 29.
- (3) 久保聖諒・菅井成毅・福室絢大・松山裕城・堀口健一・池田浩輔・浦川修司(2017): 寒冷地における飼料用米向け新系統「W1」,「W8」の生育特性と飼料特性の解明. 日本草地学会誌, 63(別号), 30.
- (4) 室井智陽・松山裕城・堀口健一・中坪あゆみ・浦川修司(2017): 庄内地域における子実利用を目的としたトウモロコシの生産技術の検討. 日本草地学会誌, 63(別号), 35.
- (5) 小野恵美・松山裕城・浦川修司・中坪あゆみ・堀口健一(2017): 規格外バレイショサイレージの発酵品質. 日本草地学会誌, 63(別号), 71.

1-④ 学会発表(国際学会)

- (1) Kenichi Horiguchi, Misako Yamamoto, Hiroki Matsuyama, Syuji Urakawa, Norio Yoshida, Toshiyoshi Takahashi (2016): Study of fermentation quality and in situ rumen degradability of kudzu silage. The 17th Asian-Australasian Association of Animal Production Societies Animal Science Congress, Program and Abstracts p335

1-⑤ その他の研究活動

- (1) 飼料用米の生産・給与技術マニュアル 2016年度版 農業・食品産業技術総合研究機構 2017年3月

角田 憲一

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 佐藤貴広・角田憲一・佐々木由佳(2016):積雪地帯の水田における耕起時期の違いが代かき後の稲わら浮遊に与える影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、62, 96.
- (2) Thanh Tung Nguyen, Yuka Sasaki, Ken-ichi Kakuda (2016): Investigation on fertility of paddy soil under long-term application of rice straw and cow dung compost in Mamurogawa area, Japan, Abstract of the annual meeting, Japanese society of soil science and plant nutrition, 62, 96.
- (3) 角田憲一・Aime Mutabazi Minc・佐々木由佳(2016): 水稲栽培の場所特異的養分管理と側条施肥の組合せによる施肥窒素削減、日本土壤肥料学会講演要旨集、62, 103.

長谷 修

1-① 論文

- (1) T. Kobayashi, M. Sasahara, E. Kanda, K. Ishiguro, S. Hase and Y. Torigoe. (2016) : Assessment of rice panicle blast disease using airborne hyperspectral imagery. The Open Agriculture Journal, 10: 3-10.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 菅原直人・小林 隆・長谷 修(2017). 葉面濡れセンサーの設置条件が濡れ時間に及ぼす影響. 日本植物病理学会報83(2月):28(講要). [発表2016,9,29-30.日本植物病理学会大会東北部会, 福島市]
- (2) 長谷 修・森田修介・Inggita, M.Y.C.・菅原 敬・小林 隆・西澤 隆(2017). 電解次亜塩素酸水のバラ灰色かび病に対する抑制効果. 日本植物病理学会報83(2月):34(講要). [発表2016,9,29-30.日本植物病理学会大会東北部会, 福島市]

小林 隆

1-① 論文

- (1) KOBAYASHI, T., SASAHARA, M. KANDA, E. ISHIGURO, K. HASE, S. and TORIGOE, Y. (2016): Assessment of Rice Panicle Blast Disease Using Airborne Hyperspectral Imagery. The Open Agriculture Journal. 10: 28-34

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 菅原直人、小林隆、長谷修、菅野洋光、大久保さゆり・山崎剛(2016): 葉面濡れセンサーを用いたイネいもち病の発生予察、日本植物病理学会報、82、195.
- (2) 相原光宏、加藤優、浦山俊一、福原敏行、藤晋一、小林隆、長谷修、小松健、有江力・森山裕充、寺岡徹(2016): マイコウイルスMoCV1-A感染がもたらすイネいもち病菌病原性変動の調査、日本植物病理学会報、82、259.
- (3) 大鷲友多、相原光宏、福原敏行、藤晋一、小林隆、長谷修、有江力、寺岡徹、森山裕充、小松健(2016): 日本産イネいもち病菌から検出された *Magnaporthe oryzae virus 2* の遺伝的多様性、日本植物病理学会報、82、259.
- (4) 菅原直人、小林隆、長谷修(2017): 葉面濡れセンサーの設置条件が濡れ時間に及ぼす影響、日本植物病理学会報、83、28.

- (5) 安藤杉尋、清水浩晶、小林隆、吉田重信、對島誠也、伊藤豊影、宮下脩平、高橋英樹(2017): イネ有機栽培育苗土由来の培養可能細菌を混合施用した際の病害抑制効果と微生物相変動の関係、日本植物病理学会報、83、33.
- (6) 長谷修、森田修介、Inggita, M.Y.C.、菅原敬、小林隆、西澤隆(2017): 電解次亜塩素水のバラ灰色かび病に対する抑制効果、日本植物病理学会報、83、34.
- (7) 小林隆(2017): イネいもち病発生予察システムを活用した効率的防除の現地実証、平成28年度秋田植物保護談話会(招待講演)

1-③ その他の研究活動

- (1) 小林隆(2016): 困った病害虫相談室 イモチ病、現代農業6月号、248-249
- (2) 小林隆(2016): イネいもち病防除のポイント、農村ニュース6月20日号、7面

片平光彦

1-① 論文

- (1) 寒冷地の現地圃場における水稻の無コーティング催芽種子を用いた代かき同時浅層土中直播の作業性、苗立ちおよび収量、日本作物学会紀事、85(2) 178-187, 2016年04月 共著
- (2) 施肥溝切り機を用いたネギ栽培における生産性改善に関する研究(第2報)、農業食料工学会誌、78(4) 317-325, 2016年05月 共著
- (3) Establishment of a Power Farming System in an Upland Field Converted from Paddy Field – Green soybean growth and yields in an upland field during the first year after conversion from paddy field cultivation –, 6TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TRENDS IN AGRICULTURAL ENGINEERING, 6 368-371, 2016年09月 共著
- (4) Semi-crawler tractor effectiveness for laser leveling, 6TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TRENDS IN AGRICULTURAL ENGINEERING, 6 578-582, 2016年09月 共著
- (5) Power Farming Systems for Welsh Onion Cultivation, 6TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TRENDS IN AGRICULTURAL ENGINEERING, 6 447-452, 2016年09月 共著
- (6) Fuel consumption of agricultural machines on paddy fields, 6TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TRENDS IN AGRICULTURAL ENGINEERING, 6 312-316, 2016年09月 共著
- (7) 水田転換ほ場での機械化作業体系の確立(第2報)、農業食料工学会東北支部報、63 13-16, 2016年12月 共著
- (8) 施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培に関する研究(第4報)、農業食料工学会東北支部報、63 17-20, 2016年12月 共著
- (9) 水田レーザー均平作業時におけるセミクローラトラクタの有効性、農業食料工学会東北支部報、63 1-4, 2016年12月 共著
- (10) エダマメの機械播種技術の向上に関する研究(第1報)、農業食料工学会東北支部報、63 21-24, 2016年12月 共著
- (11) UAVを利用した農作物の生育診断(第1報)、農業食料工学会東北支部報、63 33-36, 2016年12月 共著
- (12) 水田の耕うん作業時におけるトラクタの燃料消費量に関する研究、農業食料工学会東北支部報、63 5-8, 2016年12月 共著

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 農業食料工学会第74回年次大会, 国内会議, 2016年05月, 京都大学, 農業機械の作業時における燃料消費量に関する研究(第2報) -作業法の違いが燃料消費に与える影響-, 口頭(一般)
- (2) 農業食料工学会第74回年次大会, 国内会議, 2016年05月, 京都大学, 施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究(第4報) -施肥位置と土壤膨軟化がネギ根の伸長に与える影響-, 口頭(一般)
- (3) 農業食料工学会第74回年次大会, 国内会議, 2016年05月, 京都大学, 水田転換圃場での機械化作業体系の確立(第2報) -転換初年目圃場でのキャベツの生育特性-, 口頭(一般)
- (4) 農業食料工学会第74回年次大会, 国内会議, 2016年05月, 京都大学, 水田転換ほ場での機械化作業体系の確立, 口頭(一般)

- (5) 2016国際食品工業展, 国際会議, 2016年06月, 東京ビッグサイト, マメ類の選別多様性に適応した知的選別機の開発, 口頭(一般)
- (6) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2016年08月, 十和田市, 水田転換圃場での機械化作業体系の確立(第2報)-転換初年目圃場でのキャベツの生育特性-, 口頭(一般)
- (7) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2016年08月, 十和田市, UAV(無人航空機)を利用した農作物の生育診断(第1報)-馬鈴薯畑のモニタリング-, ポスター(一般)
- (8) 農業食料工学会東北支部会, 国内会議, 2016年08月, 十和田市, 施肥同時溝切り機を用いた長ネギの省力栽培技術に関する研究(第4報)-土壤槽内での作溝チゼルによる土壤破碎範囲の計測-, ポスター(一般)
- (9) 農作業学会大会, 国内会議, 2017年03月, 生研センター, アップカット畝立てマルチ播種機によるエタマメ栽培, 口頭(一般)
- (10) 農作業学会大会, 国内会議, 2017年03月, 生研センター, 施肥同時溝切り機を用いた長ネギの側条施肥栽培に関する研究-土壤槽を用いた作溝チゼルと施肥オープンナによる土壤破碎範囲の計測-, 口頭(一般)

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) 6TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TRENDS IN AGRICULTURAL ENGINEERING, 国際会議, 2016年09月, PRAGUE, Fuel consumption of agricultural machines on paddy fields, ポスター(一般)
- (2) 6TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TRENDS IN AGRICULTURAL ENGINEERING, 国際会議, 2016年09月, PRAGUE, Semi-crawler tractor effectiveness for laser leveling, ポスター(一般)
- (3) 6TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TRENDS IN AGRICULTURAL ENGINEERING, 国際会議, 2016年09月, PRAGUE, Establishment of a Power Farming System in an Upland Field Converted from Paddy Field - Green soybean growth and yields in an upland field during the first year after conversion from paddy field cultivation -, ポスター(一般)
- (4) 6TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON TRENDS IN AGRICULTURAL ENGINEERING, 国際会議, 2016年09月, PRAGUE, Power Farming Systems for Welsh Onion Cultivation, ポスター(一般)

森 静香

1-① 論文

- (1) 片桐哲也・安藤和登・松本由美・森静香・藤井弘志(2016):ドローンによる圃場生育評価と無人ヘリによる可変追肥システムを利用した水稻の収量・品質改善について、計測と制御、公益社団法人計測自動制御学会、第55巻 125-138

1-② その他の研究活動

- (1) 佐藤久実・横島千剛・森静香・藤井弘志(2016):苗質及び植付深が還元条件下の水稻の生育に及ぼす影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、62、98
- (2) 久米川和貴・森静香・松本由美・藤井弘志(2016):ケイ酸施肥位置の違いが水稻の生育・ケイ酸吸収に及ぼす影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、61、99
- (3) 東海林暁・森静香・南和希・檜原勇太・松本由美・阿部知子・藤井弘志(2016):水稻品種「日本晴」とその塩吸収耐性系統との塩分付着害感受性の比較について、日本土壤肥料学会講演要旨集、62、100
- (4) 松本由美・高橋航平・猿田文平・片桐哲也・安藤和登・森静香・藤井弘志(2016):ドローンによる圃場生育評価と無人ヘリによる可変追肥システムを利用した水稻の収量・品質改善について、日本土壤肥料学会講演要旨集、61、103
- (5) 両角知奈・松本由美・森静香・藤井弘志(2016):大豆の葉色による早期落葉の診断指標の構築、日本土壤肥料学会講演要旨集、61、104

1-③ 特許関係(特許出願、種苗登録等)

- (1) 「イネ科作物の生産性向上、特にケイ酸吸収量を増加させる資材、およびその施用方法」に関する特許出願

佐藤 智

1-① 論文

- (1) V. K. Dewi, S. Sato, H. Yasuda (2016): Effects of a mud snail *Cipangopaludina chinensis laeta* (Architaenioglossa: Viviparidae) on the abundance of terrestrial arthropods through rice plant development in a paddy field. *Applied Entomology and Zoology*.
- (2) 佐々木大介・佐藤 智 (2017) ハマエンドウフクレアブラムシ(カメムシ目, アブラムシ科)の本州本土からの新分布記録, *昆蟲(ニューシリーズ)*, 20(2): 1-3.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) Yunita K. Widyaningrum, Satoru Sato, 平成28年年10月30日、Effect of Temperature on performance of chinese mystery snail、第61回日本生態学会東北地区会
- (2) 佐藤 智、平成28年12月3日、生態系サービスと水稻栽培、日本学術会議公開シンポジウム「生態系サービスと農業生産」(招待講演)

松山裕城

1-① 著書

- (1) 松山裕城、堀口健一、浦川修司(2016) 粳米サイレージのウシ・ブタへの利用拡大に必要な飼料特性の解明に関する調査研究、畜産の情報、323、44-52

1-② 論文

- (1) M. Miyajia., S. Haguaa, H. Matsuyamab, K. Hosodac (2016) Effect of feeding brown rice instead of corn on lactation performance and blood metabolites in periparturient dairy cows, *Animal Feed Science and Technology*, 219, 234-240
- (2) 芳賀聡、中野美和、宮地慎、石崎宏、松山裕城、鈴木裕、北山峻、小林洋介、加藤和雄、盧尚建(2017) ウシ組織における α -トコフェロール体内動態関連遺伝子の発現特性に関する研究、*栄養生理研究会報*、61(1)、19-19

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 堀口健一、柴田瑤子、松山裕城、浦川修司、吉田宣夫、高橋敏能(2016) 森林自生植物サイレージの発酵品質とウシの嗜好性、第66回東北畜産学会岩手大会
- (2) 久保聖諒、菅井成毅、福室絢大、松山裕城、堀口健一、池田浩輔、浦川修司(2017) 寒冷地における飼料用米向け新系統「W1」, 「W8」の生育特性と飼料特性の解明、2017年度日本草地学会弘前大会
- (3) 福室絢大、菅井成毅、久保聖諒、松山裕城、堀口健一、浦川修司(2017) 寒冷地水田で栽培した「たちすずか」と「たちあやか」の生育特性と飼料特性の解明、2017年度日本草地学会弘前大会
- (4) 室井智陽、松山裕城、堀口健一、中坪あゆみ、浦川修司(2017) 庄内地域における子実利用を目的としたトウモロコシの生産技術の検討、2017年度日本草地学会弘前大会
- (5) 小野恵美、松山裕城、浦川修司、中坪あゆみ、堀口健一(2017) 規格外パレイショサイレージの発酵品質、2017年度日本草地学会弘前大会

1-④ 学会発表(国際学会)

- (1) Kenichi Horiguchi, Misako Yamamoto, Hiroki Matsuyama, Syuji Urakawa, Norio Yoshida, Toshiyoshi Takahashi(2016) Study of fermentation quality and in situ rumen degradability of kudzu silage, The 17th Asian-Australasian Association of Animal Production Societies Animal Science Congress, Program and Avstracts p335

佐々木由佳

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 佐々木由佳・高橋里沙・角田憲一(2016.7) 地力窒素を活用した施肥法による栄養生長期間の施肥窒素の削減. 日本土壤肥料学会東北支部大会講演要旨, 5
- (2) Nguyen Thanh Tung, Sasaki Yuka, Kakuda Ken-ichi (2016.7) Investigation on the chemical properties of paddy soil under long-term application of cow dung compost and rice straw in andosol and non-andic soil in Mogami area, Yamagata. 日本土壤肥料学会東北支部大会講演要旨, 10

- (3) 佐々木由佳・福田翔太・鮫島啓彰・John Kimani・榎原大悟・山内章 (2016.9) ケニア・ムエア地域の漏水田における代かきの浸透抑制効果. 日本土壤肥料学会講演要旨集62, 7
- (4) Thanh Tung Nguyen, Yuka Sasaki, Ken-ichi Kakuda (2016.9) Investigation on the fertility of paddy soil under long-term application of rice straw and cow dung compost in Mogami area, Yamagata. 日本土壤肥料学会講演要旨集62, 96
- (5) 角田憲一・Aime Mutabazi Minc・佐々木由佳 (2016.9) 水稻栽培の場所特異的養分管理と側条施肥の組み合わせによる施肥窒素削減. 日本土壤肥料学会講演要旨集62, 103

1-② 学会発表(国際学会)

- (1) Shouta Fukuda, Yuka Sasaki, Hiroaki Samejima, John Kimani, Daigo Makihara, Akira Yamauch (2016.12) Identification of soil water potential in alternate wetting and drying management without yield decline of rice in Mwea irrigation scheme. SATREPS International Symposium 'Tailor-made rice breeding and cultivation technology development for sub-Saharan Africa -Progress and future prospects of the SATREPS project in Kenya-', Kenya
- (2) Kei Oyoshi, Yuka Sasaki, Jun Sato, Shinichi Sobue, Yutaka Kaneko, Genya Saito (2017.1) Rice crop monitoring in Tsuruoka, Japan by using multiple satellite data. GEOSS Asia-Pacific Symposium, Japan

池田和生

1-① 論文

- (1) 池田和生・古澤由実子・山崎彩香(2017)山形県在来漬物用小ナスの生育および果実特性.山形大学紀要(農学)第17巻p311-320

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 牛島幸一郎・赤木剛士・池田和生・七條由衣・島田浩平・久保康隆・中野龍平(2016)NGS大量リードデータのサブリード比較によるアマ科植物の異形花型自家不和合性遺伝子座の解析. 園学研別2. p. 231

松本大生

1-① 論文

- (1) D. Matsumoto and R.Tao (2016) : Recognition of a wide-range of S-RNases by S locus F-box like 2, a general-inhibitor candidate in the Prunus-specific S-RNase-based self-incompatibility system. Plant Molecular Biology. 91:459-469.
- (2) D. Matsumoto*, Y. Machida and S. Taira (2017) : In vitro pollen tube growth inhibition by partially purified S-RNase from styles of Prunus avium L. Acta Horticulturae. (in press)

食農環境マネジメント学コース

岩鼻 通明

1-① 論文

- (1) 岩鼻通明(2016):「大江町における国重要文化的景観選定の意義」村山民俗30,p.73-82.
- (2) 難波耕司・岩鼻通明(2016):「セキモリ・ゲイノーの比較宗教論～羽黒山の神仏分離とイギリスの宗教改革」山形民俗30,p.21-25.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 岩鼻通明(2016):「西の伊勢参り・東の奥参り」は歴史地理学的真正性を有するか?、東北地理学会春季大会(宮教大)
- (2) 岩鼻通明(2016):「霊山と地域おこしー羽黒山と戸隠山を事例として」東北地方合同民俗学研究会(秋田市)

1-③ その他の研究活動

- (1) 岩鼻通明(2016):書評・紹介:淡野明彦編著『観光先進地ヨーロッパ』季刊地理学68-3,p.194-195.

小沢 互

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 土屋正幸・小沢互・藤科智海、2016年8月27日、外食・中食事業者の仕入動向から見た産地農協の対応方向、東北農業経済学会2016年青森大会
- (2) 吉野晃弘・藤科智海・小沢互、2016年8月27日、コントラクターの発展過程とオペレーターの個別経営との関係ー山形県室川町における飼料作コントラクターを事例としてー、東北農業経済学会2016年青森大会
- (3) 藤科智海・下館千尋・小沢互、2016年9月17日、学校給食へ地場産農産物を供給する農家の特徴ー鶴岡市藤島地域のサンサン・畑の会を事例にー、日本農業経営学会平成28年度研究大会

1-② その他の研究活動

- (1) 小沢互(2016)「地方創生と農村振興に向けた取り組みの現状と課題ー平成27年度農業白書を踏まえてー」月刊NOSAI、2016年9月号、12-21

角田 毅

1-① 論文

- (1) 鈴木洋、角田毅*(2016):集落営農法人における経営多角化の意義と課題ー山形県複合農業地域における集落営農法人を事例にー農村経済研究、第34巻第2号:79-86
- (2) 藤井吉隆、角田毅、中村勝則、上田賢悦(2016):農業法人における雇用人材の離職に関する考察 農林業問題研究、第52巻第4号:223-228

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 鈴木洋、角田毅(2016):集落営農法人における果樹作導入の意義と課題、東北農業経済学会講演要旨集.
- (2) Kagenza Jean Marie Vianney, Tsuyoshi SUMITA(2016):Impact of farmer Field Schools in Rwanda- Case study of Potato farmers in Musanze district-、東北農業経済学会講演要旨集.
- (3) William Rubasharaza, Tsuyoshi SUMITA(2016):The role and subject of Milk Collection Centers (MCC) in Rwanda- A Case study of Dukundamatungo、東北農業経済学会講演要旨集
- (4) 中村勝則、藤井吉隆、上田賢悦、角田毅(2016):集落営農法人における従業員雇用と収益分配ー東北地域の特性を踏まえた検討、日本農業経営学会講演要旨集
- (5) 上田賢悦、角田毅、藤井吉隆、中村勝則(2016):集落型農業法人雇用就農者を対象としたPAC分析による組織社会化の検討、日本農業経済学会講演要旨集

家串哲生

1-① 論文

- (1) 家串哲生(2016)「時間主導型活動基準原価計算による環境保全型家族農業経営の農産物別環境原価の算出」、『農林業問題研究』、第52巻・第3号、pp142-147.

藤科智海

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 土屋正幸・小沢互・藤科智海(2016): 外食・中食事業者の仕入動向から見た産地農協の対応方向、第52回東北農業経済学会青森大会報告要旨、K4
- (2) 吉野晃弘・藤科智海*・小沢互(2016): コントラクターの発展過程とオペレーターの個別経営との関係—山形県真室川町における飼料作コントラクターを事例として—、第52回東北農業経済学会青森大会報告要旨、K5
- (3) 陳奥飛・金成学・藤科智海(2016): 中国プロイラー産業における合作社の役割、第52回東北農業経済学会青森大会報告要旨、K26
- (4) 藤科智海・下館千尋・小沢互(2016): 学校給食へ地場産農産物を供給する農家の特徴—鶴岡市藤島地域のサンサン・畑の会を事例に—、平成28年度日本農業経営学会研究大会報告要旨、130-131

渡辺理絵

1-① 著書

- (1) 小林茂・渡辺理絵・鳴海邦匡(2017): 東アジアの土地調査事業研究へのもう一つの視角、片山剛編『近代東アジア土地調査事業研究』大阪大学出版会、3-22
- (2) 渡辺理絵・小林茂(2017): 20世紀初頭の清国学生の陸地測量部修技所への留学—地図作製技術の移転の視角から、片山剛編『近代東アジア土地調査事業研究』大阪大学出版会、23-51
- (3) 小林茂・渡辺理絵・山近久美子・鳴海邦匡・藤山友治(2017): アメリカ議会図書館蔵「清國二十萬分一圖」、小林茂編『近代日本の海外地理情報収集と初期外邦図』大阪大学出版会、243-259
- (4) 小林茂・山近久美子・渡辺理絵・鈴木涼子・波江彰彦(2017): アメリカ議会図書館蔵「初期外邦測量原図」、小林茂編『近代日本の海外地理情報収集と初期外邦図』大阪大学出版会、214-242
- (5) 小林茂・山近久美子・渡辺理絵・鳴海邦匡・山本健太(2017): アメリカ議会図書館蔵「初期外邦測量原図データベースの構築」、小林茂編『近代日本の海外地理情報収集と初期外邦図』大阪大学出版会、198-211
- (6) 山近久美子・渡辺理絵・小林茂(2017): 広開土王碑文を将来した酒匂景信の中国大陸における活動—アメリカ議会図書館蔵の手描き外邦図を手掛かりに、小林茂編『近代日本の海外地理情報収集と初期外邦図』大阪大学出版会、169-196
- (7) 渡辺理絵・山近久美子・小林茂(2017): 朝鮮半島における初期外邦測量の展開と「朝鮮二十萬分一圖」の作成、小林茂編『近代日本の海外地理情報収集と初期外邦図』大阪大学出版会、120-163
- (8) 小林茂・渡辺理絵・山近久美子・(2017): 中国大陸における初期外邦測量の展開と日清戦争、小林茂編『近代日本の海外地理情報収集と初期外邦図』大阪大学出版会、76-111
- (9) 小林茂・岡田郷子・渡辺理絵・鳴海邦匡(2017): 東アジア地域に関する初期外邦図の編集と刊行、小林茂編『近代日本の海外地理情報収集と初期外邦図』大阪大学出版会、14-41

1-② 論文

- (1) 高橋悠・渡辺理絵*(2016): 棚田景観の効用-山形県朝日町「榎平の棚田」を例にして-、茨城地理、17,13-28

食品・応用生命科学コース

三橋 涉

1-① 論文

- (1) T. Toyomasu, K. Miyamoto, M. R. Shenton, A. Sakai, C. Sugawara, K. Horie, H. Kawaide, M. Hasegawa, M. Cuga, W. Mitsuhashi, H. Yamane, N. Kurata, K. Okada (2016): Characterization and evolutionary analysis of *ent*-kaurene synthase lile genes from the wild rice species *Oryza rufipogon*. *Biochemical and Biophysicao Research Communications*. 480, 402-408
- (2) K. Miyamoto, M. Fujita, M. R. Shenton, S. Akashi, C. Sugawara, A. Sakai, K. Horie, M. Hasegawa, H. Kawaide, W. Mitsuhashi, H. Nojiri, H. Yamane, N. Kurata, K. Okada and T. Toyomasu(2016): Evolutionary trajectory of phytoalexin biosynthetic gene clusters in rice. *Plant Journal*. 87, 293-304

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 宮本皓司、藤田雅丈、Shenton Matthew、坂井亜莉里、菅原千都、川出洋、長谷川守文、三橋涉、山根久和、倉田のり、岡田憲典、豊増知伸(2016)イネのジテルペン系ファイトアレキシン生合成遺伝子クラスターの進化過程 日本農芸化学会2016年度大会(札幌)
- (2) 中川和也、菅井佳宣、千葉康隆、三橋 涉、夏目雅裕、豊増知伸、川出 洋(2016) 13C同位体を用いた微生物由来ジテルペノイド環化機構の解明 日本農芸化学会2016年度大会(札幌)
- (3) 小倉亮子、関史恵、大熊康仁、豊増知伸、三橋涉(2016): 高等植物由来の細胞周期停止因子はファゴソームで分解されるのか? 日本農芸化学会東北支部第151回大会講演要旨集 p.36
- (4) 吉田昂平、原 遵、二村美恵、阿部央樹、高橋伸明、豊増知伸、三橋 涉(2016): 高等植物の細胞周期停止因子は種々のタンパク質と結合し得る? 日本農芸化学会東北支部第151回大会講演要旨集 p.35

小関卓也

1-① 著書

- (1) M. Alauddin, J. Islam, H. Shirakawa, T. Koseki, Ardiansyah and M. Komai (2017): Rice Bran as a Functional Food: An Overview of the Conversion of Rice Bran into a Superfood/Functional Food. In: *Superfood and Functional Food – An Overview of Their Processing and Utilization* (Eds. V. Waisundara and N. Shiomi), p291-305, InTech. DOI: 10.5772/66298.

1-② 論文

- (1) Y. Shiono, N. R. Arieftha, C. Anwar, S. Matsjeh, R. Sappapan, T. Murayama, T. Koseki, T. Kawamura, S. Uesugi, K. Kimura (2016): New metabolites produced from *Fusarium solani* T-13 isolated from a dead branch. *Phytochemistry Letters*, 17, 232-237. DOI: 10.1016/j.phytol.2016.08.003.
- (2) Tchoukoua A, Kuate Tabopda T, Uesugi S, Kimura K-I, Kwon E, Momma H, Ngadjui B.T, Koseki T, Shiono Y (2016): Two new 5-deoxyflavan-3,4-diol glucosides from roots of *Albizia chevalieri*. *Magn Reson Chem*. 2016 Aug 22. doi: 10.1002/mrc.4504.
- (3) M. Alauddin, H. Shirakawa, T. Koseki, N. Kijima, Ardiansyah, S. Budijanto, J. Islam, T. Goto, M. Komai (2016): Fermented rice bran supplementation mitigates metabolic syndrome in stroke-prone spontaneously hypertensive rats. *BMC Complementary and Alternative Medicine*, 16, 442. DOI: 10.1186/s12906-016-1427-z.
- (4) Y. Shiono, N. Miyazaki, T. Murayama, T. Koseki, Harizon, D. G. Katja, U. Supratman, J. Nakata, Y. Kakiyama, M. Saeki, J. Yoshida, S. Uesugi, K. Kimura (2016): GSK-3 β inhibitory activities of novel dichlororesorcinol derivatives from *Cosmospora villor* isolated from a mangrove plant. *Phytochemistry Letters*, 18, 122-127. DOI: 10.1016/j.phytol.2016.09.007.
- (5) T. Koseki, H. Handa, Y. Watanabe, M. Ohtsuka, Y. Shiono (2016): An unusual feruloyl esterase from *Aspergillus oryzae*: two tryptophan residues play a crucial role for the activity. *Journal of Molecular Catalysis B: Enzymatic*, 133, S560-S568. DOI: 10.1016/j.molcatb.2016.11.008.
- (6) T. Koseki, M. Otsuka, T. Mizuno, Y. Shiono (2017): Mutational analysis of Kex2 recognition sites and a disulfide bond in tannase from *Aspergillus oryzae*. *Biochemical and Biophysical Research Communications*, 482, 1165-1169. DOI: 10.1016/j.bbrc.2016.12.006.

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 石川真衣, 塩野義人, 小関卓也 (2016): 麹菌 *Aspergillus oryzae* 由来 α -L-ラムノシダーゼ(AoRhaA) の酵素学的諸性質, 日本農芸化学会東北支部第151大会, 10/9(鶴岡)
- (2) 鈴木拓馬, 吉田誠也, 村山哲也, 小関卓也, 塩野義人 (2016): 流木より分離した糸状菌 *Cylindrocarpon* sp. SY-37株が生産する物質について, 日本農芸化学会東北支部第151大会, 10/9(鶴岡)
- (3) 加藤亜美, 白川仁, 小関卓也, 後藤知子, 駒井三千夫 (2016): II型糖尿病マウスにおける発酵米糠の抗糖尿病活性の評価, 日本栄養・食糧学会東北支部大会, 11/5(盛岡)
- (4) 石川真衣, 塩野義人, 小関卓也 (2016): 麹菌 *Aspergillus oryzae* 由来6-O- α -L-rhamnosyl- β -D-glucosidase (AoRut)の諸性質, 第16回糸状菌分子生物学コンファレンス, 11/17(京都)
- (5) 鈴木拓馬, 吉田誠也, 網干貴子, 村山哲也, 小関卓也, 上杉祥太, 木村賢一, 塩野義人 (2017): 流木より分離した糸状菌 *Cylindrocarpon* sp. SY-39株が生産する物質について, 日本農芸化学会2017年度大会, 3/18-3/20(京都)

1-④ 学会発表(国際学会)

- (1) T. Koseki, N. Kijima, N. Katsumi, Y. Shiono (2016): Extraction of ferulic acid from fermented rice bran with the fungus *Aspergillus*, The 3rd International Conference on Rice Bran Oil 2016, October 24 (Tokyo).
- (2) J. Islam, H. Shirakawa, T. Koseki, K. Watanabe, H. Aso, M. Komai (2016): Protective role of fermented rice bran in dextran sodium sulfate induced experimental colitis mice, The 3rd International Conference on Rice Bran Oil 2016, October 24 (Tokyo).

1-⑤ その他の研究活動

- (1) R. Okouchi, A. Kagohashi, S. Asai, Y. Shiono, T. Koseki (2016): Functional analysis of a gene encoding ester hydrolase belonging to tannase family from *Aspergillus oryzae*. First International Symposium on Health-Care Technology 2016 in Yamagata, December 1 (Yonezawa).
- (2) Nanang Rudianto Ariefita, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Yoshihito Shiono (2016): Secondary Metabolites Produced by *Aspergillus stellatus* T-5 and *Fusarium solani* T-13 Isolated from a Dead Branch. First International Symposium on Health-Care Technology 2016 in Yamagata, December 1 (Yonezawa)
- (3) Takuma Suzuki, Seiya Yoshida, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Yoshihito Shiono (2016): New Secondary Metabolites Produced by Fungus *Cylindrocarpon* sp. SY-39 Isolated from a Driftwood. First International Symposium on Health-Care Technology 2016 in Yamagata, December 1 (Yonezawa)

豊増知伸

1-① 論文

- (1) Toyomasu, T.*, Miyamoto, K., Matthew R. Shenton, R.S., Sakai, A., Sugawara, C., Horie, K., Kawaide, H., Hasegawa, M., Chuba, M., Mitsuhashi, W., Yamane, H., Kurata, N. and Okada, K.: Characterization and evolutionary analysis of ent-kaurene synthase like genes from the wild rice species *Oryza rufipogon*. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 480: 402-408 (2016).
- (2) Miyamoto, K., Fujita, M., Matthew, R.S., Akashi, S., Sugawara, C., Sakai, A., Horie, K., Hasegawa, M., Kawaide, H., Mitsuhashi, W., Nojiri, H., Yamane, H., Kurata, N., Okada, K., and Toyomasu, T.*: Evolutionary trajectory of phytoalexin biosynthetic gene clusters in rice. *Plant J.* 87: 293-304 (2016).
- (3) Chen, M., Chou, W.K.W., Toyomasu, T., Cane, D.E., Christianson, D.W.: Structure and function of fusicoccadiene synthase, a hexameric bifunctional ditrepane synthase. *ACS Chem. Biol.* 11: 889-899 (2016).

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 伊藤瑛, 手塚大介, 三橋渉, 今井亮三, 豊増知伸 (2016年10月9日) イネのent-KAURENE SYNTHASE 2の特徴付け, 日本農芸化学会東北支部第151回大会.
- (2) 湊志帆, 宮本皓司, 三橋渉, 山根久和, 岡田憲典, 豊増知伸 (2016年10月9日) ミナトカモジグサのジテルペン環化酵素遺伝子, 日本農芸化学会東北支部第151回大会.
- (3) 坂井優生, 菅原かほり, 川本望, 松浦嵩, 千葉光浩, 三橋渉, 荒木崇, 深澤壽太郎, 加藤修雄, 豊増知伸 (2016年10月9日) フシコクシン処理による花成関連bZIP転写因子FD1と14-3-3タンパク質相互作用の人為制御, 日本農芸化学会東北支部第151回大会.

- (4) 小倉亮子、関 史恵、大熊康仁、豊増知伸、三橋 渉 (2016年10月9日) 高等植物由来の細胞周期停止因子はファゴソームで分解されるのか?、日本農芸化学会東北支部第151回大会.
- (5) 吉田昂平、原 遵、二村美恵、阿部央樹、高橋伸明、豊増知伸、三橋 渉 (2016年10月9日) 高等植物の細胞周期停止因子は種々のタンパク質と結合し得る?、日本農芸化学会東北支部第151回大会.
- (6) 豊増知伸、伊藤瑛、宮本皓司、Matthew R. Shenton、今井亮三、三橋渉、倉田のり、山根久和、岡田憲典 (2017年3月18日) *Oryza*属におけるジベレリン生合成 ent-カウレン合成酵素遺伝子、日本農芸化学会2017年度大会 (京都).
- (7) 富山詩歩、川原玲香、宮本皓司、山根久和、Matthew R. Shenton、倉田のり、豊増知伸、野尻秀昭、岡田憲典 (2017年3月18日) 野生イネのファイトアレキシン生合成遺伝子クラスター領域における転写動態と制御の進化、日本農芸化学会2017年度大会 (京都).

1-③ 学会発表 (国際学会)

- (1) Tomonobu Toyomasu, Koji Miyamoto, Matthew R. Shenton, Morifumi Hasegawa, Hiroshi Kawaide, Wataru Mitsuhashi, Hisakazu Yamane, Nori Kurata and Kazunori Okada (2016年6月22~23日) Evolution of biosynthetic gene clusters of diterpene phytoalexins in rice. 21th International Conference on Plant Growth Substances (トロント大学、カナダ).

永井 毅

1-① その他の研究活動

- (1) 遊佐産お米のグラノーラの開発、商品化

加来伸夫

1-① 論文

- (1) Atsuko Ueki, Yoshimi Ohtaki, Nobuo Kaku and Katsuji Ueki (2016) Descriptions of *Anaerotaenia torta* gen. nov., sp. nov. and *Anaerocolumna cellulositytica* gen. nov., sp. nov. isolated from a methanogenic reactor of cattle waste and reclassification of *Clostridium aminovalericum*, *Clostridium jejuense* and *Clostridium xylanovorans* as *Anaerocolumna* species. International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology, 66(8), 2936-2943.
- (2) 森勇人・高橋弘・加来伸夫・西村宏之 (2016) 繊維質固化処理土工法に用いるセルロース繊維の生分解性に関する実験的研究, Journal of MMIJ, 132(12), 182-189.
- (3) Misa Watanabe, Nobuo Kaku, Katsuji Ueki and Atsuko Ueki (2017) *Falcatimonas natans* gen. nov., sp. nov., a strictly-anaerobic, amino-acid-decomposing bacterium isolated from a methanogenic reactor of cattle waste. International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology, 66(11), 4639-4644.
- (4) Toru Watanabe, Takuma Mashiko, Rizki Maftukhah, Nobuo Kaku, Dong Duy Pham and Hiroaki Ito (2017) Nitrogen removal and power generation from treated municipal wastewater by its circulated irrigation for resource-saving rice cultivation. Water Science and Technology, 75(4), 898-907.

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 山田知加・加来伸夫・菅原弘紀・上木厚子・上木勝司, クーラントおよび廃油含有廃水からのメタンの回収. 日本微生物生態学会31回大会, 平成28年8月29~31日, 横須賀市.
- (2) 渡部徹, Pham Duy Dong, 倉島須美子, 堀口健一, 加来伸夫, 佐々木貴史, 浦剣, 下水処理水の掛け流し灌漑による飼料用米栽培に関する研究, 土木学会第71回年次学術講演会, 平成28年9月7~9日, 仙台市.
- (3) 加来伸夫, 微生物燃料電池-電流発生微生物を利用した発電装置-, 日本化学会東北支部講演会, 平成29年2月4日, いわき市.(招待講演)

1-③ その他の研究活動

- (1) 天津・東大・山形大「持続可能な発展のための都市と農村の融合」に関するセミナーで「微生物燃料電池技術を利用した水田からの電気エネルギーの回収」という演題で発表

塩野義人

1-① 論文

- (1) Y. Shiono, N. Miyazaki, T. Murayama, T. Koseki, Harizon, D. G. Katja, U. Supratman, J. Nakata, Y. Kakihara, M. Saeki, J. Yoshida, S. Uesugi, K. Kimura (2016). GSK-3 β inhibitory activities of novel dichlororesorcinol derivatives from *Cosmospora vilior* isolated from a mangrove plant. *Phytochemistry Lett.* 18, 122-127.
- (2) Y. Shiono, N.R. Arieftha, C. Anwar, S. Matsjeh, R. Sappapan, T. Murayama, T. Koseki, T. Kawamura, S. Uesugi, K. Kimura. (2016). New metabolites produced by *Fusarium solani* T-13 isolated from a dead branch. *Phytochemistry Lett.* 17, 232-237.
- (3) Tchoukoua A, Kuate Tabopda T, Uesugi S, Kimura K-I, Kwon E, Momma H, Ngadjui B.T, Koseki T, Shiono Y (2016). Two new 5-deoxyflavan-3,4-diol glucosides from roots of *Albizia chevalieri*. *Magn Reson Chem.* 2016 Aug 22. doi: 10.1002/mrc.4504.
- (4) S. Uesugi, N. Fujisawa, J. Yoshida, M. Watanabe, S. Dan, T. Yamori, Y. Shiono, K. Kimura. (2016). Pyrrocidine A, a metabolite of endophytic fungi, has a potent apoptosis-inducing activity against HL60 cells through caspase activation via the Michael addition. *J Antibiot.* 69, 133-40.
- (5) Uesugi S, Muroi M, Kondoh Y, Shiono Y, Osada H, Kimura KI. (2017). Allantopyrone A activates Keap1-Nrf2 pathway and protects PC12 cells from oxidative stress-induced cell death. *J Antibiot.* 70, 429-434
- (6) T. Koseki, H. Handa, Y. Watanabe, M. Ohtsuka, Y. Shiono (2017): An unusual feruloyl esterase from *Aspergillus oryzae*: two tryptophan residues play a crucial role for the activity. *Journal of Molecular Catalysis B: Enzymatic*, in press. DOI: 10.1016/j.molcatb.2016.11.008.
- (7) T. Koseki, M. Otsuka, T. Mizuno, Y. Shiono (2017): Mutational analysis of Kex2 recognition sites and a disulfide bond in tannase from *Aspergillus oryzae*. *Biochemical and Biophysical Research Communications*, 482, 1165-1169. DOI: 10.1016/j.bbrc.2016.12.006.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 上杉祥太、室井 誠、近藤恭光、山下哲郎、塩野義人、橋本 勝、長田裕之、木村賢一 (2016) : 糸状菌由来の共有結合性抗がん物質による細胞応答と標的分子の比較, 第89回大会生化学会大会 (平成28年9月25日~27日)
- (2) 鈴木拓馬、吉田誠也、村山哲也、小関卓也、塩野義人(2016): 流木より分離した糸状菌 *Cylindrocarpon* sp. SY-37 株が生産する物質について、平成28年度 日本農芸化学会 東北支部 第151回大会 (平成28年10月9日)
- (3) 石川真衣、塩野義人、小関卓也 (2016): 麹菌 *Aspergillus oryzae* 由来 α -L-ラムノシダーゼ(AoRhaA) の酵素学的諸性質, 日本農芸化学会東北支部第151大会, 鶴岡(10月)
- (4) 石川真衣、塩野義人、小関卓也 (2016): 麹菌 *Aspergillus oryzae* 由来6-O- α -L-rhamnosyl- β -D-glucosidase (AoRut)の諸性質, 第16回糸状菌分子生物学コンファレンス, 京都(11月)
- (5) Shota Uesugi, Makoto Muroi, Yasumitsu Kondoh, Tetsuro Yamashita, Yoshihito Shiono, Masaru Hashimoto, Hiroyuki Osada, Ken-ichi Kimura (2017) : Identification of the molecular targets and electrophilic properties of covalent-binding anti-cancer compounds, 平成28年度岩手連大国際シンポジウム (平成28年12月17日、18日)
- (6) 鈴木拓馬、吉田誠也、網干貴子、村山哲也、小関卓也、上杉祥太、木村賢一、塩野義人(2017): 流木より分離した糸状菌 *Cylindrocarpon* sp. SY-39 株が生産する物質について、日本農芸化学会2017年度大会 (平成29年3月17日~20日)
- (7) 青木聡樹、塩野義人、網干貴子、村山哲也(2017) : ツキヨタケ (*Ompharotus guepiniformis*) 子実体に含まれる成分について、日本農芸化学会2017年度大会(平成29年3月17日~20日)
- (8) 加茂万莉奈、寺石政義、村山哲也、石原亨、奥本裕、森直樹、網干貴子(2017) : 障害を受けたイネにおけるisopentylamineの蓄積、日本農芸化学会2017年度大会(平成29年3月17日~20日)
- (9) Hue Tu QUACH, Junpei YOKOIGAWA, Yoshihito SHIONO, Ken-ichi KIMURA, Takao KATAOKA (2017): Allantopyrone A binds or crosslinks TNF receptor 1 and inhibits TNF- α -induced signaling pathway. 日本農芸化学会2017年度大会 (平成29年3月17日~20日)

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) T. Koseki, N. Kijima, N. Katsumi, Y. Shiono (2016): Extraction of ferulic acid from fermented rice bran with the fungus *Aspergillus*, The 3rd International Conference on Rice Bran Oil 2016, Tokyo.

1-④ その他の研究活動

- (1) R. Okouchi, A. Kagohashi, S. Asai, Y. Shiono, T. Koseki (2016): Functional analysis of a gene encoding ester hydrolase belonging to tannase family from *Aspergillus oryzae*. First International Symposium on Health-Care Technology 2016 in Yamagata, December 1 (Yonezawa).
- (2) Takuma Suzuki, Seiya Yoshida, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Yoshihito Shiono (2016) New Secondary Metabolites Produced by Fungus *Cylindrocarpus* sp. SY-39 Isolated from a Driftwood. First International Symposium on Health-Care Technology 2016, Yamagata
- (3) Nanang Rudianto Ariefita, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Yoshihito Shiono (2016): Secondary Metabolites Produced by *Aspergillus stellatus* T-5 and *Fusarium solani* T-13 Isolated from a Dead Branch. First International Symposium on Health-Care Technology 2016, Yamagata

渡辺昌規

1-① 論文

- (1) M. Watanabe*, C. Techapun, A. Kuntiya, N. Leksawasdi, P. Seesuriyachan, T. Chaiyaso, S. Takenaka, I. Maeda, M. Koyama, K. Nakamura and K. Sasano (2017): Extracellular protease derived from lactic acid bacteria stimulates the fermentative lactic acid production from the by-products of rice as a biomass refinery function. *Journal of Bioscience and Bioengineering*, 123(2), 245-251
- (2) W. Srisuwan, C. Techapun, P. Seesuriyachan, M. Watanabe, T. Chaiyaso (2016): Screening of oleaginous yeast for lipid production using rice residue from food waste as a carbon source. *KKU Res. J.*, 22(1), 116-126

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 渡辺昌規、西山航生、塩野忠彦、楠信行 (2016年9月29日): 茹で麵排水への酵素添加による固形成分への凝集・沈降性付与機構の解明、第68回日本生物工学会大会講演要旨集、pp. 41
- (2) 玉田陽集、遠藤修二郎、渡辺昌規 (2017年3月19日): 脱脂米糠からのリン・タンパク質抽出条件の最適化による回収産物の品質に与える影響、日本農芸化学会大会講演要旨集、pp. 1495

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) M. Watanabe, C. Techapun, N. Leksawasdi, A. Kuntiya, P. Seesuritachan, T. Chaiyaso, S. Takenaka (2016): Recovery of protein and phosphorus compound and fermentative lactic acid production from defatted rice bran by using pilot scale plant. JSPS Core to core program A (CCP), Advanced research networks, the 2nd joint seminar, Chonburi, Thailand (招待講演)
- (2) S. Takenaka, U. Osaka, A. Kuntiya, C. Techapun, N. Leksawasdi, P. Seesuritachan, M. Watanabe, T. Chaiyaso (2016): Characterization of lipase from thermotolerant *Streptomyces thermoviolaceus* strain TCW. JSPS Core to core program A (CCP), Advanced research networks, the 2nd joint seminar, Chonburi, Thailand
- (3) T. Chaiyaso, P. Boonchuay, S. Takenaka, M. Watanabe, A. Kuntiya, C. Techapun, N. Leksawasdi, P. Seesuritachan (2016): Purification and characterization of thermostable cellulase-free endo-xylanase from *Streptomyces thermovulgaris* TISTR1948 and its application on xylooligosaccharide production. JSPS Core to core program A (CCP), Advanced research networks, the 2nd joint seminar, Chonburi, Thailand
- (4) T. Chaiyaso, A. Manowattana, C. Techapun, N. Leksawasdi, P. Seesuritachan, M. Watanabe (2016): High efficiency bioconversion of crude glycerol into lipids and carotenoids by *Sporidiobolus pararoseus* operating in the airlift bioreactor. The 5th International Conference on Biomass Energy & Exhibition (ICBE 2016), China National Convention Center, Beijing, People Republic of China
- (5) M. Watanabe, S. Endo, T. Kashiwamura, M. Makino (2016): Simultaneous recovery and purification of rice protein and phosphorus compound from rice bran with organic solvent-free process. The 3rd International conference on rice bran oil (ICRBO 2016), Tokyo, Japan

1-④ その他の研究活動

- (1) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会連携研究成果発表会(平成28年6月17日) 講演「米の食味・物性評価用マーカーの開発」

井上奈穂

1-① 論文

- (1) Ikeda I, Tamakuni K, Sakuma T, Ozawa R, Inoue N, Kishimoto Y (2016): Resistant Maltodextrin Decreases Micellar Solubility of Lipids and Diffusion of Bile Salt Micelles and Suppresses Incorporation of Micellar Fatty Acids into Caco-2 Cells. J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo). 2016;62(5):335-340.
- (2) Harigae T, Nakagawa K, Miyazawa T, Inoue N, Kimura F, Ikeda I, Miyazawa T (2016): Metabolic fate of poly-(lactic-co-glycolic acid)-based curcumin nanoparticles following oral administration. Int J Nanomedicine. 2016 Jun 28;11:3009-22. doi: 10.2147/IJN.S107442. eCollection 2016.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 井上奈穂(平成28年9月8日):「機能性脂質による病態発症改善機能に関する研究」、日本油化学会第55回年会、平成27年度進歩賞 受賞講演
- (2) 奥野綾夏、太田聡、橘伸彦、加藤真晴、井上奈穂、池田郁男(平成28年9月8日):「安定化DHA・EPA含有油脂の吸収と生理作用」、日本油化学会第55回年会
- (3) 井上奈穂、池田英介、池田郁男(平成28年10月8日):「マウスの食事誘発性熱産生に及ぼす魚油添加大豆油の影響」、第37回日本肥満学会
- (4) 井上奈穂(平成29年3月18日):「植物性機能性成分による病態発症改善機能に関する研究」、日本農芸化学会、平成29年度農芸化学女性研究者賞 受賞講演
- (5) 池田 郁男、池田 英介、奥野 綾夏、佐藤 歩実、中村 珠子、中野 卓、井上 奈穂(平成29年3月19日):「db/dbマウスにおける等カロリーの大豆油および魚油含有大豆油を含む低脂肪食と高脂肪食のエネルギー代謝および腹腔内脂肪に与える影響」、日本農芸化学会2017年度大会

植物機能開発学コース

村山哲也

1-① 論文

- (1) Y. Shiono, N. Miyazaki, T. Murayama, T. Koseki, Harizon, D. G. Katja, U. Supratman, J. Nakata, Y. Kakihara, M. Saeki, J. Yoshida, S. Uesugi, K. Kimura (2016). GSK-3 β inhibitory activities of novel dichlororesorcinol derivatives from *Cosmospora vilior* isolated from a mangrove plant. *Phytochemistry Lett.* 18, 122-127.
- (2) Y. Shiono, N.R. Arieftha, C. Anwar, S. Matsjeh, R. Sappapan, T. Murayama, T. Koseki, T. Kawamura, S. Uesugi, K. Kimura. (2016). New metabolites produced by *Fusarium solani* T-13 isolated from a dead branch. *Phytochemistry Lett.* 17, 232-237.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 鈴木拓馬、吉田誠也、村山哲也、小関卓也、塩野義人(2016): 流木より分離した糸状菌 *Cylindrocarpon* sp. SY-37 株が生産する物質について、平成28年度 日本農芸化学会 東北支部 第151回大会(平成28年10月9日)
- (2) 鈴木拓馬、吉田誠也、網干貴子、村山哲也、小関卓也、上杉祥太、木村賢一、塩野義人(2017): 流木より分離した糸状菌 *Cylindrocarpon* sp. SY-39 株が生産する物質について、日本農芸化学会 2017年度大会(平成29年3月17日-20日)
- (3) 青木聡樹、塩野義人、網干貴子、村山哲也(2017): ツキヨタケ(*Ompharotus guepiniformis*)子実体に含まれる成分について、日本農芸化学会2017年度大会(平成29年3月17日-20日)
- (4) 加茂万莉奈、寺石政義、村山哲也、石原亨、奥本裕、森直樹、網干貴子(2017): 障害を受けたイネのおけるisopentylamineの蓄積、日本農芸化学会2017年度大会(平成29年3月17日-20日)

俵谷圭太郎

1-① 論文

- (1) Wulandari D, Saridi, Cheng WG & Tawaraya K 2016: Arbuscular mycorrhizal fungal inoculation improves *Albizia saman* and *Paraserianthes falcataria* growth in post-opencast coal mine field in East Kalimantan, Indonesia. *Forest Ecol Manag* 376, 67-73.
- (2) Cheng WG, Padre AT, Sato C et al. 2016: Changes in the soil C and N contents, C decomposition and N mineralization potentials in a rice paddy after long-term application of inorganic fertilizers and organic matter. *Soil Science and Plant Nutrition* 62, 212-219.
- (3) Tang SR, Cheng WG, Hu RG et al. 2016: Simulating the effects of soil temperature and moisture in the off-rice season on rice straw decomposition and subsequent CH₄ production during the growth season in a paddy soil. *Biol Fert Soils* 52, 739-748.
- (4) Narimatsu M, Koiwa T, Sakamoto Y et al. 2016: Estimation of novel colony establishment and persistence of the ectomycorrhizal basidiomycete *Tricholoma matsutake* in a *Pinus dendiflora* forest. *Fungal Ecol* 24, 35-43.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 本田創一朗、丸山隼人、和崎淳、程為国、中場勝、岡咲洋三、及川彰、斉藤和季、我妻忠雄、俵谷圭太郎(2016) リン欠乏条件におけるイネ品種の葉のリピドーム解析 日本土壤肥料学会2016年度佐賀大会
- (2) Ahdiar Fikri Maulana 程為国、俵谷圭太郎(2015) Nutrient concentration in growth media affect relationship between host plant and fungal endophytes 日本土壤肥料学会2016年度佐賀大会
- (3) 佐藤匠、程為国、俵谷圭太郎(2016) 圃場の殺菌による土着および接種したアーバスキュラー菌根菌の評価 日本土壤肥料学会2016年度佐賀大会
- (4) 湯水栄、程為国、俵谷圭太郎、常田岳志、福岡峰彦、吉本真由美、酒井英光、臼井靖浩、長谷川利拓(2016) Effect of all-year-around paddy soil warming on C and N mineralization potentials is eliminated after an aerobic pre-inoculation 日本土壤肥料学会2016年度佐賀大会
- (5) D.M.S.B. dissanayaka, Hayato Maruyama, Sho Nishida, Keitaro Tawaraya, Jun Wasaki (2016) Landrace of Japonica rice, Akamai (Yamagata) exhibits enhanced root growth and efficient leaf phosphorus remobilization in response to limited phosphorus availability 日本土壤肥料学会2016年度佐賀大会

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Keitaro Tawaraya, Ryota Horie, Tadao Wagatsuma, Kazuki Saito, Akira Oikawa (2016) Metabolite profiling of shoot extracts, root extracts, and root exudates of rice under nitrogen and phosphorus deficiency *Metabolomics* 2016, Ireland
- (2) Takumi Sato, Tatsuhiro Ezawa, Weiguo Cheng and Keitaro Tawaraya (2016) Release of acid phosphatase from extraradical hyphae of arbuscular mycorrhizal fungus *Rhizophagus clarus* under low P condition *Organic Phosphorus* 2016 United Kingdom

村山秀樹

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 藤井美希・羽生剛・村山秀樹・児玉基一郎・板井章浩(2016): ナシ果実の成熟エチレン生成におけるシステム I からシステム II への移行関連遺伝子の探索. *園芸学研究*, 15別2.

1-② 学会発表(国際学会)

- (1) B. Nugraha, N. Bintoro, J. Nugroho, A. Itai, and H. Murayama. 2016. Effects of 1-Methylcyclopropene and Ethylene Treatment on Ripening Characteristics of the 'Silver Bell' Pears. The 2nd International Symposium on Agricultural and Biosystem Engineering -ISABE- 2016, Lombok, Indonesia.

江頭宏昌

1-① 著書

- (1) 江頭宏昌編著(2016)「人間と作物」、ドメス出版

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 江頭宏昌・船見真佑(2016)「山形県と新潟県を中心とした在来食用ギクの抗酸化能に関する系統間差異」、第11回東北育種研究集会要旨集、p38 (2016年11月12日山形大学農学部にて開催)

1-③ その他の研究活動

- (1) 江頭宏昌(2016):「庄内地方の在来野菜に関する最近の話題」、松柏6月号(909号)
- (2) 江頭宏昌(2016):「自然災害と飢饉の記録から」、松柏9月号(912号)
- (3) 江頭宏昌(2017):「山形の在来作物」、山形大学環境保全センター広報誌「環境保全」No.20:27-52

程 為国

1-① 論文

- (1) Cheng, W., Padre, A.T., Shiono, H., Sato, C., Nguyen-Sy, T., Tawaraya, K., Kumagai, K. (2017) Changes in the pH, EC, available P, SOC and TN stocks in a single rice paddy after long-term application of inorganic fertilizers and organic matters in a cold temperate region of Japan. *Journal of Soils and Sediments*, DOI: 10.1007/s11368-016-1544-9 (Published online on 17 September 2016)
- (2) Nakajima, M., Cheng, W., Hanayama, S., Okada, M. (2017) Shallow autumn tillage does not reduce CH₄ emission from an Andisol paddy field in Morioka, a cold region in Japan. *Journal of Agricultural Meteorology*, Accepted on Oct. 25, 2016
- (3) Tang, S., Cheng, W., Hu, R., Nakajima, M., Guigue, J., Kimani, S.M., Sato, S., Tawaraya, K., Xu, X. (2017) Decomposition of soil organic carbon influenced by soil temperature and moisture in Andisol and Inceptisol paddy soils in a cold temperate region of Japan. *Journal of Soils and Sediments*, DOI: 10.1007/s11368-016-1607-y (Published online on 28 November 2016).
- (4) Tang, S., Cheng, W., Hu, R., Guigue, J., Kimani, S.M., Tawaraya, K., Xu, X. (2016) Simulating the effects of soil temperature and moisture in the off-rice season on rice straw decomposition and subsequent CH₄ production during the growth season in a paddy soil. *Biology and Fertility of Soils*, 52: 739-748.

- (5) Wu, H., Xu, X., Duan, C., Li, T., Cheng, W. (2015) Effect of vegetation type, wetting intensity, and nitrogen supply on external carbon stimulated heterotrophic respiration and microbial biomass carbon in forest soils. *Science China: Earth Sciences*, 58: 1446–1456
- (6) Wulandari, D., Saridi, S., Cheng, W., Tawaraya, K. (2016) Arbuscular mycorrhizal fungal inoculation improves *Albizia saman* and *Paraserianthes falcataria* growth in post-opencast coal mine field in East Kalimantan, Indonesia. *Forest Ecology and Management*, 376: 67–73.
- (7) Cheng, W., Padre, A.T., Sato, C., Shiono, H., Hattori, S., Kajihara, A., Aoyama, M., Tawaraya, K., Kumagai, K. (2016) Changes in the soil C and N contents, C decomposition and N mineralization potentials in a rice paddy after long-term application of inorganic fertilizers and organic matters. *Soil Science and Plant Nutrition*, 62: 212–219.
- (8) 谷山一郎・浅川 晋・奈良吉則・程 為国・斎藤雅典・陽 捷行(2016)土壌と東西の神々、*日本土壌肥学雑誌* 87: 147–152.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 程 為国・佐々木祐太・鳥山和伸・俵谷圭太郎・小林和彦・安定同位体を用いた長期有機栽培水田土壌における窒素固定と脱窒の同時測定、*日本土壌微生物学会2016年大会、岐阜、講演要旨集* p.32、(2016年6月)、土と微生物、70巻2号p73も掲載。
- (2) Nguyen Sy Toan・程 為国・塩野宏之・俵谷圭太郎・熊谷勝巳: Effect of long-term organic matter and mineral fertilizers application on the potentials of carbon decomposition and nitrogen mineralization in a rice paddy、*日本土壌肥料学会2016年大会、佐賀、講演要旨集 第62集*、p.169、(2016年9月)
- (3) Shuirong Tang, Weiguo Cheng, Keitaro Tawaraya, Takeshi, Tokida, Minehiko Fukuoka, Mayumi Yoshimoto, Hidemitsu Sakai, Yasuhiro Usui, Toshihiro Hasegawa: Effect of all-year-around paddy soil warming on C and N mineralization potentials is eliminated after an aerobic pre-incubation、*日本土壌肥料学会2016年大会、佐賀、講演要旨集 第62集*、p.174、(2016年9月)
- (4) Samuel M. Kimani , Takamori Kanno, Keitaro Tawaraya, Weiguo Cheng: Influence of phosphorous and flooding water depth on *Azolla* growth and its significance in mitigating evapotranspiration、*日本土壌肥料学会2016年大会、佐賀、講演要旨集 第62集*、p.173、(2016年9月)
- (5) Valensi Kautsar, Weiguo Cheng, Keitaro Tawaraya, Kazunobu Toriyama, Kazuhiko Kobayashi: Long-term organic rice farming affected the air-drying effect on soil C decomposition and N mineralization in Andisol paddies、*日本土壌肥料学会2016年大会、佐賀、講演要旨集 第62集*、p.173、(2016年9月)
- (6) 程 為国:近代日中土壌学交流の先駆者(1)板野新夫、昭和初期にあった「板野博士式新堆肥製造法」について、*日本土壌肥料学会2016年大会、佐賀、講演要旨集 第62集*、p.182、(2016年9月)
- (7) 程 為国:水田圃場における多形態的な土地利用変化が土壌炭素・窒素の量と質に与える影響:庄内町熊谷神社周辺の例として、*日本土壌肥料学会2016年大会水田着の会第3回プレ懇談会、佐賀*、(2016年9月)
- (8) 中嶋美幸・程 為国:秋耕起の浅化による黒ボク土水田からのメタン放出量の削減、*2016年度土壌物理学大会講演要旨集(京都)*、p.114–115、(2016年10月)

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Weiguo Cheng (2016) Interactions of elevated [CO₂] and night temperature in rice growth, yield and CH₄ emission from the paddy soil, 1st UGAS, Iwate University International Symposium, 17–18 December, 2016, Morioka, Japan

1-④ その他の研究活動

- (1) Editor, *Journal of Wetlands Environmental Management*

笹沼恒男

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 平山可奈、赤池隆亮、高田兼則、Tamara N. Smekalova, Olga N. Kovaleva、笹沼恒男 (2016年9月25日):コーカサス地方で収集したパンコムギ遺伝資源の基本農業の形質及び製パン性関連形質の評価、*日本育種学会第130回講演会要旨集*、198.
- (2) 鶴巻啓一、稲葉有紀、松本幸也、笹沼恒男 (2016年9月25日):トウガラシのカロテノイド合成経路遺伝子 *Psy*、*Ccs* の変異型アリル特異的なDNAマーカー、*日本育種学会第130回講演会要旨集*、239.

- (3) 笹沼恒男、小寺真純、Tamara N. Smekalova、Olga N. Kovaleva (2016年9月25日): コーカサス及びキルギスで収集した野生ペニバナ属遺伝資源の系統・多様性解析、日本育種学会第130回講演会要旨集、76.
- (4) 平山可奈、赤池隆亮、高田兼則、Tamara N. Smekalova、Olga N. Kovaleva、笹沼恒男 (2016年11月12日): コーカサス地方で収集したパンコムギ遺伝資源の製パン性及び収量に関する評価、第11回東北育種研究集会要旨集、33.
- (5) 畠山春奈、青柳沙緒莉、高橋優利佳、相澤由佳里、笹沼恒男 (2016年11月12日): ペニバナの花弁収量及び花弁色素合成関連遺伝子に関する研究、第11回東北育種研究集会要旨集、35.
- (6) 齋藤美帆、田中裕之、佐藤和広、朱明靖、龍春林、笹沼恒男 (2016年11月12日): 中国青海省チベット高原で採集した *Elymus* 属遺伝資源の遺伝的特徴の解明、第11回東北育種研究集会要旨集、36.
- (7) 鶴巻啓一、笹沼恒男 (2016年11月12日): トウガラシ新規辛味欠失系統の遺伝学的解析価、第11回東北育種研究集会要旨集、39.
- (8) 鶴巻啓一、笹沼恒男 (2017年3月30日): 未知遺伝子座の変異による辛味の欠失が示唆された甘味トウガラシ系統の遺伝学的解析、日本育種学会第131回講演会要旨集、159.
- (9) 笹沼恒男、西田英隆、Olga N. Kovaleva、Ivan Gabrielyan、Gayane Melyan、Alvina Avagyan、Aghvan Sahakyan (2017年3月30日): アルメニアにおける野生コムギ及び野生ペニバナ遺伝資源の探索と収集、日本育種学会第131回講演会要旨集、31.

1-② 学会発表(国際学会)

- (1) Tsuneeo Sasanuma, Yuki Inaba (2016年6月15-17日): Reconsideration of inheritance of pepper fruit color based on three loci model of *y*, *c1* and *c2*. 23rd International Pepper Conference in Trujillo, Peru.
- (2) Keiichi Tsurumaki, Yuki Inaba, Yukiya Matsumoto, Tsuneeo Sasanuma (2016年6月15-17日): Biochemical and molecular analyses of white fruit pepper variety "Cheiro White". 23rd International Pepper Conference in Trujillo, Peru.

1-③ その他の研究活動

- (1) トウガラシの研究・国際学会優秀賞受賞に関するテレビ放送、記事掲載、NHK山形のニュース2016年8月4日、山形新聞2016年8月3日(第24面)、他

星野友紀

1-① 論文

- (1) Nishizawa-Yokoi A, Cermak T, Hoshino T, Sugimoto K, Saika H, Mori A, Osakabe K, Hamada M, Katayose Y, Starker C, Voytas DF, Toki S (2016): A defect in DNA ligase4 enhances the frequency of TALEN-mediated targeted mutagenesis in rice. *Plant Physiol.*, 170: 653-666.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 川上珠恵・吉田拓也・後藤元・阿部洋平・中場勝・星野友紀(2016): 「つや姫」突然変異集団から単離したwaxy突然変異体の利用による食味評価向上への試み、東北植物学会第6回大会研究発表記録、L04、pp24.
- (2) 星野友紀(2016): 山形ブランド米「つや姫」の良食味強化、平成28年度戸部眞紀財団交流発表会、招待講演、pp11.
- (3) 飯島信繁・畑昌和・渡辺杏里・滝口可菜・上村千穂・川上珠恵・穴井豊昭・星野友紀(2016): X線照射によって得られた高ステアリン酸ダイズ突然変異体におけるGmSACPD遺伝子の転写後発現抑制、日本育種学会第130回講演会要旨集、P043、pp159.
- (4) 川上珠恵・吉田拓也・後藤元・阿部洋平・中場勝・星野友紀(2016): TILLING法による「つや姫」突然変異集団からの低アミロース変異体の単離、日本育種学会第130回講演会要旨集、P073、pp189.
- (5) 川上珠恵・吉田拓也・後藤元・阿部洋平・中場勝・星野友紀(2016): 「つや姫」の食味評価向上を目指した突然変異集団からの低アミロース変異体の探索、第11回東北育種研究集会要旨集、P04、pp13.
- (6) 飯島信繁・畑昌和・渡辺杏里・滝口可菜・上村千穂・川上珠恵・穴井豊昭・星野友紀(2016): GmSACPD-2a遺伝子の1塩基欠損によって生じた重複遺伝子群の転写後発現抑制、第11回東北育種研究集会要旨集、P05、pp14.
- (7) 畑昌和・飯島信繁・上村千穂・川上珠恵・太田千恵・五十嵐徹・石山秀峰・星野友紀(2016): エダマメ生産力強化に向けた突然変異による「秘伝」開花期の改変、第11回東北育種研究集会要旨集、P06、pp15.

- (8) 飯島信繁・川上珠恵・畑昌和・粟野莉奈・高橋弘紀・杉本和彦・星野友紀(2016): コシヒカリとノナボクラの染色体断片置換系統群から見出された穂発芽耐性qSdr6のファインマッピング、東北植物学会第6回大会研究発表記録、P14、pp52.
- (9) 畑昌和・飯島信繁・上村千穂・川上珠恵・太田千恵・五十嵐徹・石山秀峰・星野友紀(2016): エダマメ品種「秘伝」突然変異集団の作出と開花期突然変異体の単離、東北植物学会第6回大会研究発表記録、P15、pp53.
- (10) 飯島信繁・杉本和彦・星野友紀(2017): インド稲品種Nona Bokraの第1染色体短腕に座乗する穂発芽耐性遺伝子座Sdr6aとSdr6bのファインマッピング、日本育種学会第131回講演会要旨集、P060、pp189.

及川 彰

1-① 論文

- (1) Piao, X., Yamazaki, S., Komazawa-Sakon, S., Miyake, S., Nakabayashi, O., Kurosawa, T., Mikami, T., Tanaka, M., Rooijen, N.V., Ohmuraya, M., Oikawa, A., Kojima, Y., Kakuta, S., Uchiyama, Y., Tanaka, M., Nakano, H. Depletion of myeloid cells exacerbates hepatitis and induces an aberrant increase in histone H3 in mouse serum. *Hepatology*, 65, 237–252, 2016. doi: 10.1002/hep.28878.
- (2) Hashidume, T., Kato, A., Tanaka, T., Miyoshi, S., Itoh, N., Nakata, R., Inoue, H., Oikawa, A., Nakai, Y., Shimizu, M., Inoue, J., Sato, R. Single ingestion of soy β -conglycinin induces increased postprandial circulating FGF21 levels exerting beneficial health effects. *Sci Rep*, 17, 28183, 2016. doi: 10.1038/srep28183.
- (3) Bunsupa, S., Hanada, K., Maruyama, A., Aoyagi, K., Komatsu, K., Ueno, H., Yamashita, M., Sasaki, R., Oikawa, A., Saito, K., Yamazaki, M. Molecular Evolution and Functional Characterization of a Bifunctional Decarboxylase Involved in Lycopodium Alkaloid Biosynthesis. *Plant Physiol*, 171(4), 2432–2444, 2016. doi: 10.1104/pp.16.00639.
- (4) Reuscher, S., Fukao, Y., Morimoto, R., Otagaki, S., Oikawa, A., Isuzugawa, K., Shiratake, K. Quantitative Proteomics-Based Reconstruction and Identification of Metabolic Pathways and Membrane Transport Proteins Related to Sugar Accumulation in Developing Fruits of Pear (*Pyrus communis*). *Plant Cell Physiol*, 57(3), 505–518, 2016. doi: 10.1093/pcp/pcw004.
- (5) 及川彰(2016)“成分からみたエダマメの特徴”272, 29–35. 香料

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 及川彰(2016): オーストラリアシヤジクモ節間細胞を用いた細胞内代謝動態解析、メタボロームシンポジウム

服部 聡

1-① 論文

- (1) W.Chen, AT.Padre, C.Sato, H.Shiono, S.Hattori, A.Kajihara, M.Aoyama, K.Tawaraya, K.Kumagai (2016): Changes in the soil C and N contents, C decomposition and N mineralization potentials in a rice paddy after long-term application of inorganic fertilizers and organic matter. *Soil Science and Plant Nutrition*, 62, 212–219

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 堀 翔太, 羽田 来留美, 入江 佳奈, 服部 聡 (2016): 山形県飛鳥沿岸海水および海藻に生息する放線菌の探索、日本微生物生態学会第31回大会, P-053
- (2) 佐々木 捺実, 曾田 直紀, 塩澤 圭介, 服部 聡 (2016): 山形県庄内沿岸汽水域堆積物に生息する嫌氣的メタン酸化微生物の活性および多様性評価、日本微生物生態学会第31回大会, P-159

1-③ その他の研究活動

- (1) 服部 聡(2016): 絶対嫌気環境下における共生微生物系の生理生態、東北大学大学院生命科学研究科セミナー(講演)

網干貴子

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 石栗詩歩、村山哲也、網于貴子 (2016年10月9日): ツルムラサキの葉に含まれるハスモンヨトウ幼虫に対する成長阻害物質の探索、2016年度日本農芸化学会東北支部大会
- (2) 網于貴子 (2016年10月8日): イネ葉における β -チロシンの蓄積とその生合成遺伝子の同定、2016年度日本農芸化学会東北支部大会若手の会(招待講演)
- (3) 網于貴子、加茂万莉奈、寺石政義、石原亨、奥本裕、森直樹 (2017年3月7日): イネ傷害葉におけるisopentylamineの蓄積、日本農薬学会第42回大会
- (4) 加茂万莉奈、寺石政義、村山哲也、石原亨、奥本裕、森直樹、網于貴子 (2017年3月20日): 傷害を受けたイネにおけるisopentylamineの蓄積、日本農芸化学会2017年度大会
- (5) 鈴木拓馬、吉田誠也、網于貴子、村山哲也、小関卓也、上杉祥太、木村賢一、塩野義人 (2017年3月19日): 流木より分離した糸状菌Cylindrocarpon sp. SY-39株が生産する物質について、日本農芸化学会2017年度大会
- (6) 青木聡樹、塩野義人、網于貴子、村山哲也 (2017年3月19日): ツキヨタケ(*Ompharotus guepiniformis*)の子実体に含まれる成分について、日本農芸化学会2017年度大会

森林科学コース

野堀嘉裕

1-① 論文

- (1) 白旗 学・園崎貴嗣・野堀嘉裕(2016) 岩手県吉浜地区クロマツ海岸林における2011年東北地方太平洋沖地震津波被害前後の成長—地上LiDARによる樹形測定および肥大成長の変化—. 海岸林学会誌 15巻1号:15-20.
- (2) 今村百太・武田一夫・火ノ川祐貴・野堀嘉裕・木村賢人・瀧誠志郎(2016) 年輪解析による少積雪寒冷地域におけるカラマツの成長に及ぼす土壤凍結の影響評価. 日本雪氷学会誌 78巻5号:269-279.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 野堀嘉裕・齊藤 岳・高橋雅彦(2016) 林床処理によるクロマツ林内へのショウロの誘導実験. 東北森林科学会大会要旨集 21回:9-9.
- (2) 石井達也・岡野達也・沼澤葉月・野堀嘉裕(2016) 青森県内真部国有林におけるヒバ林バイオマスの動態解析. 東北森林科学会大会要旨集 21回:10-10.
- (3) 岡野達也・石井達也・沼澤葉月・野堀嘉裕(2016) ブナ豊作年における年輪幅変動と非結実要因について. 東北森林科学会大会要旨集 21回:11-11.
- (4) 沼澤葉月・石井達也・岡野達也・野堀嘉裕(2016) スギ林の林地残材バイオマスに対する一考察. 東北森林科学会大会要旨集 21回:12-12.

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Nobori, Y., Taki, S., Takeda, K., Lopez, CML., Ishida, S. and Mizota, C.(2017) Dynamics of Forest swamp ecotone in northern Mongolia. Fourth Joint Symposium: "Impact of recent climate and socio-economical changes on natural ecosystems in Mongolia"

1-④ その他の研究活動

- (1) 野堀 嘉裕 (2017) 森林整備によるクロマツ林内へのショウロの誘導と特産品化. 公益財団法人マエタテクノロジーリサーチファンド 2016 年(平成28年)度 研究開発部門 成果報告書

森 茂太

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 芳賀由晃, 森茂太, 2016年10月29日、吸水で始まる種子～実生の個体呼吸の急速な変化、日本生態学会東北地区第61回大会
- (2) 相澤拓, 芳士戸啓, 王莫非, 芳賀由晃, 森茂太, 2016年10月29日、「系統、環境」のどちらが生物機能を定めるか? -菌類・陸上植物・沈水植物の呼吸-, 日本生態学会東北地区第61回大会
- (3) 王莫非, 芳士戸啓, 相澤拓, 芳賀由晃, 森茂太, 2016年10月29日、Convergence of shoot respiratory scaling among bamboo and trees、日本生態学会東北地区第61回大会
- (4) 黒澤陽子, 森茂太, 2016年10月29日、ブナは根、葉のどちらから成長するか;ライゾトロンによる観察、日本生態学会東北地区第61回大会
- (5) Citra Gilang Qur'ani, Shigeta Mori, 2016年10月29日、How dose shading affect the energy use allocation Convergence of shoot respiratory scaling among bamboo and trees、日本生態学会東北地区第61回大会
- (6) 森茂太 2017年2月11日「さまざまな陸上植物に共通の個体呼吸スケーリング」文部科学省科学研究費補助金 新学術領域「植物発生ロジックの多元的開拓」第4回メタボローム研究会(招待講演)
- (7) 黒澤陽子, 森茂太, 2017年3月15日、生まれたばかりのブナ実生は根量と葉質を高める方向に成長する、日本生態学会64回大会
- (8) Wang Mofei, Hoshito Hiromu, Aizawa Taku, Haga Yoshiaki, Mori Shigeta, 2017年3月15日、Convergence of shoot respiratory scaling among bamboo and trees 日本生態学会64回大会
- (9) 芳賀由晃, 森茂太, 2017年3月15日、吸水で始まる種子～実生の個体呼吸の急速な変化、日本生態学会64回大会

- (10) 相澤拓, 芳士戸啓, 王莫非, 森茂太, 2017年3月15日、「系統と環境」どちらが個体機能を決めるのか? -個体呼吸スケーリングによる比較-, 日本生態学会64回大会
- (11) 森茂太, 芳士戸啓, 王莫非, 相澤拓, 芳賀由晃, Gilang Citra, 黒澤陽子, 小山耕平, 山路恵子, 石田厚, Juan Pedro Ferrio, 2017年3月16日、陸上植物個体の地上/根系呼吸比はサイズでおおむね決まる—系統と環境を超えた傾向— 日本生態学会64回大会

林田光祐

1-① 著書

- (1) 林田光祐(2016): タネを運ぶ動物とその調査方法、「木のタネ検索図鑑—同定・生態・調査法—」、小南陽亮・田内裕之・八木橋勉編著、文一総合出版、268-281

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 林田光祐・本田詩織(2016): 三陸南部の津波浸水地の海岸林を構成する広葉樹種間のサイズと樹冠の浸水程度を考慮した耐塩水性の比較. 日本海岸林学会平成28年度大会講演要旨集、28、10-

1-③ その他の研究活動

- (1) 林田光祐ほか(2017): 大山上池・下池、都沢湿地における植生に関する研究報告書(平成28年度). 26pp. 2017年3月、庄内自然博物園構想推進協議会.

菊池俊一

1-① 論文

- (1) 飯塚眞成・菊池俊一(2016): 2013年7月豪雨による山形大学上名川演習林の林道被害状況のGIS解析とハザードマップの作成、山形大学紀要(農学)、17(4)、373-381

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 菊池俊一(2016): 飯豊連峰と朝日連峰における協働型山岳環境修復・保全の試み、東北森林科学会第21回大会講演要旨集、24.
- (2) 菊池俊一(2017): 荒れた登山道表面の天然素材被覆に期待される効果とは?、第128回日本森林学会大会学術講演集、180.

1-③ その他の研究活動

- (1) 菊池俊一(2017): 定期調査から垣間見える知床1987年択伐林の25年間、北方林業、68巻1号、14-17、北方森林学会(札幌市)

芦谷竜矢

1-① 著書

- (1) 芦谷竜矢(2016), 大平辰朗, 宮崎三雄(監修), テルペン利用の新展開, 第7章 テルペンの抗菌性, 防虫性, シーエムシー出版, 74-81

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 久保智裕, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2016), スギ樹皮抽出成分がPEG・バイサルファイト法による液化に与える影響, 東北森林科学会第21回大会講演要旨集, 46
- (2) 渡部大寛, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2016), 山形県庄内地方に植林されたスギ針葉の化学成分分析, 東北森林科学会第21回大会講演要旨集, 47
- (3) 遠藤麻由香, 西條裕美, 田中駿耶, 横須賀龍彦, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2016), 福島県産ヒノキ葉ヘキサノ抽出物の成分分析, 東北森林科学会第21回大会講演要旨集, 48
- (4) 二宮七海, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2016), メタセコイアとスギの心材ノルリグナンについて, 東北森林科学会第21回大会講演要旨集, 49
- (5) 芦谷竜矢(2016), 樹木成分の利用-抽出成分から材料調製まで-, 第46回木材の化学加工研究会シンポジウム講演集, 25-30
- (6) 井上里咲, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2017), オオバクロモジ(Lindera umbellata Tunb. Ver membranacea (Maxim.) Momiyama)とタムシバ(Magnolia salifolia)枝葉の低極性成分, 第67回日本木材学会大会発表要旨集, M18-P1-04

- (7) 向井堯徳, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2017), Thujopseneの加熱による自動酸化生成物の抗蟻活性, 第67回日本木材学会大会発表要旨集, M18-P1-05
- (8) 田中駿耶, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2017), 針葉樹熱水蒸留残渣水溶液の植物成長抑制効果, 第67回日本木材学会大会発表要旨集, M18-P1-06
- (9) 遠藤麻由香, 西條裕美, 楠本倫久, 田中駿耶, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2017), ヒノキ葉n-ヘキサン抽出物の成分変異, 第67回日本木材学会大会発表要旨集, M18-P1-07
- (10) 渡部大寛, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2017), スギ針葉の化学成分変異, 第67回日本木材学会大会発表要旨集, M18-P1-08
- (11) 鈴木佑梨, 西條裕美, 城内智行, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2017), 藍藻類Microcystis aeruginosaのスギ樹皮による増殖抑制, 第67回日本木材学会大会発表要旨集, M18-P1-09
- (12) 二宮七海, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2017)メタセコイアとスギのノルリグナンについて, 第67回日本木材学会大会発表要旨集, M18-P1-10
- (13) 久保智裕, 高橋孝悦, 芦谷竜矢(2017), スギ樹皮抽出成分がPEG・バイサルファイト法液化に与える影響II, 第67回日本木材学会大会発表要旨集, Q18-P2-16

ロペス・ラリー

1-① 論文

- (1) Fujiyoshi L., Sugimoto A., Tsukuura A., Kitayama A., Lopez C.M.L., Byambasuren M., Ariunaa S., Tsujima M., 2016. Spatial variations in larch needle and soil $\delta^{15}\text{N}$ at a forestgrassland boundary in northern Mongolia. *Isotopes in Environmental and Health Studies* 53(11): 54-69.
- (2) Fedorov A.N., Iwahana G., Konstantinov P.Y., Machimura T., Argunov R., Lopez C.M.L., Takakai F., 2016. Variability of permafrost and landscape conditions following clear-cutting in Central Yakutia. *Permafrost and Periglacial Processes* 28 (1): 331-338.
- (3) Seidel F., Lopez C.M.L., Guggenberger G., Nobori Y., 2017. Impact of low severity fire on soil organic carbon and nitrogen characteristics in Japanese cedar forest, Yamagata Prefecture, Japan. *Open Journal of Forestry* 7:270-284. [Corresponding Author]

1-② 学会発表(国際学会)

- (1) **Lopez C.M.L.**, Zhang Q., Nobori Y., Byambasuren M. Effect of warming on larch trees in the Asian southern border of the boreal forest, Mongolia and China in the 20th century. *European Geosciences Union General Assembly 2017*. Vienna, Austria, April 17-23, 2016.
- (2) **Lopez C.M.L.**, Nakano S., Ferrio J.P., Hayashi M., Nakatsuka T., Sano M., Yamanaka T., Nobori Y.. Evaluation of the effect of the 2011 Tsunami on coastal forests by means of multiple isotopic analyses on tree-rings. *First UGAS Iwate International Symposium*. Morioka, Japan, December 16-17, 2016.
- (3) **Lopez C.M.L.**, Yamazaki S., Hayashi M., Batbuyan B. Evaluation of recent desertification in the Mongolian steppe by means of tree-ring $d^{13}\text{C}$. *International Symposium on "Differentiating the impact of climate and socio-economical changes on natural ecosystems in Mongolia: prevention vs Adaptation"*. Ulaanbaatar, Mongolia March 6-8, 2017.

林 雅秀

1-① 著書

- (1) 林雅秀(2017)家族による保有山林経営の多変量解析, 藤掛一郎・田村和也編, ミクロデータで見る林業の実像(日本林業調査会), 175-196

1-② 論文

- (1) 三須田善暢・林雅秀・庄司知恵子・高橋正也(2016)石神調査をめぐる土屋・布施論争について, *村落社会研究ジャーナル*22(2), 1-12
- (2) 林雅秀(2017)林業経営の組織形態の変化についての新制度学的検討:1960年代以降を対象として, *林業経済研究*63(1), 25-36

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 林雅秀(2017)林業経営の組織形態の変化についての新制度学的検討. *林業経済学会春季大会*

江成広斗

1-① 論文

- (1) 鈴木克哉, 江成広斗, 山端直人, 清野紘典, 宇野壮春, 森光由樹, 滝口正明(2016)人とマカクザルの軋轢解消にむけた統合的アプローチを目指して. 哺乳類科学 56(2) 241-249
- (2) 江成広斗, 江成はるか(2016)多種共存の仕組みから考えるニホンザルの生態学的役割: 多雪地の事例から. 霊長類研究 32(1) 3-16

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 鈴木克哉, 江成広斗, 宇野壮春, 清野紘典, 滝口正明, 森光由樹, 山端直人(2016)ニホンザルの地域個体群を検討する—保護管理の単位・基準策定にむけて—(自由集会). 日本哺乳類学会
- (2) 横畑泰志, 江成広斗, 亘悠哉, 梶光一(2016)これからの野生哺乳類管理 —2015年度奨励賞受賞者に聞く(自由集会). 日本哺乳類学会
- (3) 奥田加奈, 奥田圭, 江成広斗(2016)農山村地域におけるイノシシ捕獲個体の行方(自由集会). 日本哺乳類学会
- (4) 江成広斗, 角田裕志, 江成はるか, 豊田光世, 桜井良(2016)人口減少時代における野生生物の保護と管理: 合意形成について考える. 「野生生物と社会」学会
- (5) 江成広斗(2017)生物多様性保全から考える鳥獣対策の課題(シンポジウム: 生物多様性に関わる様々な政策課題を広く俯瞰する). 日本生態学会

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) 江成はるか, 江成広斗(2016)Impacts of abandoned conifer plantations on habitat conservation of Japanese macaques in snowy areas. Conservation Asia 2016. Singapore.
- (2) 江成 広斗, 江成はるか(2016) Primates in heavy snow regions: ecological functions and conservation issues. Conservation Asia 2016. Singapore.
- (3) 奥田加奈, 奥田圭, 江成広斗(2016) Who uses eliminated wild boar (*Sus scrofa*) contaminated by radioactivity materials?. Conservation Asia 2016. Singapore.

水土環境科学コース

藤井秀人

1-① 論文

- (1) Keisuke Hoshikawa, Yoichi Fujihara, Hideto Fujii, Shigeki Yokoyama(2016):Detecting Flooding Trends in the Mekong Delta through Flood Ranking Based on a MODIS-derived Time-series Water Index, International Journal of Remote Sensing Applications (IJRSA),Volume 6,136-145

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 横村茉莉花・藤原洋一・田中健二・星川圭介・藤井秀人(2016):カンボジア・トンレサップ湖における水温変動解析:MODISデータを活用して、日本農業気象学会北陸支部大会、新潟
- (2) 小野寺雄治・藤井秀人(2016):赤川上流域の積雪面積と積雪水量, H28年度農業農村工学会大会講演会, 仙台

奥山武彦

1-① 論文

- (1) 奥山武彦(2017):明治期以降の六十里越街道の変遷, 山形大学紀要(農学)17(4), 301-310

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 奥山武彦(2016):大深度観測孔での温度検層, 第55回日本地すべり学会研究発表会講演集, 105-106
- (2) 奥山武彦(2016):月山北西麓の石礫調査, 平成28年度農業農村工学会大会講演会概要集, 9-8

安中武幸

1-① 論文

- (1) K.Sasaki, C.Sasaki, A. Endo, T. Annaka, S. Moritani, N.Matsuyama (2016): Studies on reducing cadmium uptake of paddy rice (*Oryza sativa* L.) by both soil dressing and mixing tillage. Internal Journal of Environmental and Rural Development, 7-1, 6-14.
- (2) K.Sasaki, C.Sasaki, C. Kato, T. Annaka, N.Matsuyama (2016): Effects of the percolation patterns and the thickness of soil dressing on reducing cadmium uptake and yields of rice plants (*Oryza Sativa* L.). Journal of Environmental Science and Engineering A 5, 259-266.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 安中武幸・花山 奨(2016):電気伝導度・温度依存性評価のための砂層誘電率のモデル化、H28農業農村工学会大会講演会講演要旨集、4-13(P)
- (2) 花山 奨・安中武幸(2016):水田土壌中の窒素動態が土壌表面上の付着藻類の増殖におよぼす影響、H28農業農村工学会大会講演会講演要旨集、2-25(P)

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) S. Li, C. Sasaki, C. Kato, N. Matsuyama, T. Annaka, A. Endo (2016): Reducing cadmium and copper uptake of soybeans by controlling groundwater level and its impacts on growth and yield. The 8th International Conference on Environmental and Rural Development.

渡部 徹

1-① 著書

- (1) Dong Duy Pham* and Toru Watanabe. Municipal Wastewater Irrigation for Rice Cultivation. In: Current Perspective on Irrigation and Drainage, edited by Suren Kulshreshtha and Amin Elshorbagy, pp.37-52, InTech, February 2017

1-② 論文

- (1) Daisuke Sano, Mohan Amarasiri*, Akihiko Hata, Toru Watanabe, Hiroyuki Katayama. Risk management of viral infectious diseases in wastewater reclamation and reuse: Review. *Environment International*, 91, 220-229, 2016
- (2) 渡部徹*, 下水処理水を連続灌漑による飼料用米栽培, *土づくりとエコ農業*, 48(532), 2-5, 2016
- (3) 夏池真史*, 菊地哲郎, Lee Ying Ping, 伊藤紘晃, 藤井学, 吉村千洋, 渡部徹, 自然水中における鉄の化学種と生物利用性—鉄と有機物の動態からみる森・川・海のつながり—, *水環境学会誌*, 39(6), 197-210, 2016
- (4) Fuminari Miura*, Toru Watanabe, Kozo Watanabe, Kazuhiko Takemoto, Kensuke Fukushi, Comparative assessment of primary and secondary infection risks in a norovirus outbreak using a household model simulation. *Journal of Environmental Sciences*, 50, 13-20, 2016
- (5) 渡部徹*, 倉島須美子, Pham Duy Dong, 堀口健一, 佐々木貴史, 浦剣, 下水処理水の連続灌漑による飼料用米の栽培とその栄養特性, *土木学会論文集G(環境)*, 72(7), III.505-III.514, 2016
- (6) 伊藤絵里香*, 伊藤紘晃, 浦剣, Nguyen Thanh Gia, 渡部徹, トウガラシ微斑ウイルスおよびアイチウイルスの牡蠣への蓄積とノロウイルス汚染指標としての利用可能性, *土木学会論文集G(環境)*, 72(7), III.295-III.304, 2016
- (7) Jian Pu*, Shinobu Kazama, Takayuki Miura, Nabila Dhyana Azraini, Yoshimitsu Konta, Hiroaki Ito, You Ueki, Ermaya Eka Cahyaningrum, Tatsuo Omura, Toru Watanabe, Pyrosequencing Analysis of Norovirus Genogroup II Distribution in Sewage and Oysters: First Detection of GII.17 Kawasaki 2014 in Oysters. *Food and Environmental Virology*, 8, 310-312, 2016
- (8) Susan Praise*, Toru Watanabe, Kazuya Watanabe, Hiroaki Ito, Hiroshi Okubo, Impact of closed sabo dams on manganese concentration change in mountainous streams. *International Journal of River Basin Management*, 15(1), 61-68, 2017
- (9) Toru Watanabe*, Takuma Mashiko, Rizki Maftukhah, Nobuo Kaku, Dong Duy Pham and Hiroaki Ito. Nitrogen removal and power generation from treated municipal wastewater by its circulated irrigation for resource-saving rice cultivation. *Water Science and Technology*, 75(4), 898-907, 2017

1-③ 学会発表(国内学会)

- (1) 渡部徹, Pham Duy Dong, 倉島須美子, 堀口健一, 加来伸夫, 佐々木貴史, 浦剣, 下水処理水の掛け流し灌漑による飼料用米栽培に関する研究, 土木学会第71回年次学術講演会, 平成28年9月7~9日, 仙台市
- (2) 金谷祐里, 浦剣, 渡部徹, 3種類の皮膚感染症の用量反応モデルの構築, 土木学会第71回年次学術講演会, 平成28年9月7~9日, 仙台市
- (3) 伊藤絵里香, 伊藤紘晃, Pu Jian, Nguyen T. Gia, 渡部徹, 養殖牡蠣ノロウイルス汚染指標としてのPMMoVとアイチウイルスの利用可能性, 土木学会第71回年次学術講演会, 平成28年9月7~9日, 仙台市
- (4) 三浦逸実, 浦剣, 風間しのぶ, 今田義光, 渡部徹, 抗生物質に耐性を示す活性汚泥細菌の検索, 土木学会第71回年次学術講演会, 平成28年9月7~9日, 仙台市
- (5) 渡部徹, Pham Duy Dong, 蔡佳, 倉島須美子, 浦剣, 下水処理水灌漑による飼料用米栽培で目指す都市と農村の資源循環, 第19回日本水環境学会シンポジウム, 平成28年9月13~15日, 秋田市(招待講演)
- (6) 渡部徹, 下水処理水灌漑による飼料用米栽培~日本有数の穀倉地帯での取組, BISTRO下水道in霧島, 平成28年10月21日, 鹿児島県霧島市(招待講演)
- (7) 市橋永吉, 伊藤紘晃, 浦剣, 梶原晶彦, 渡部徹, 河口域で予想される森林由来土壌有機物の量的・質的变化, 第22回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成29年1月25日, 酒田市
- (8) 蔡佳, Pham Duy Dong, 浦剣, 梶原晶彦, 渡部徹, 下水処理水の連続灌漑による飼料用米栽培の実証, 第22回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成29年1月25日, 酒田市
- (9) 上林稜, 五十嵐優樹, 和田美琴, 金谷祐里, 渡部徹, 水環境中の薬剤耐性菌による皮膚感染症のリスク評価, 第22回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成29年1月25日, 酒田市
- (10) 蔡佳, 渡部徹, Pham Duy Dong, 浦剣, 下水処理水の連続灌漑による飼料用米栽培に関する実証研究, 平成28年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成29年3月4日, 仙台市
- (11) 市橋永吉, 伊藤紘晃, 浦剣, 渡部徹, 森林土壌に由来する溶存有機物の塩分濃度上昇による量的・質的变化, 平成28年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成29年3月4日, 仙台市
- (12) 浦剣, 伊藤絵里香, 風間しのぶ, 三浦尚之, 今田義光, 渡部徹, Temporal genotype variation of Norovirus genogroup II in oysters analyzed by pyrosequencing, 平成28年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成29年3月4日, 仙台市

- (13) 渡部徹, 金谷祐里, Prayoga Windra, 浦剣, 水中の薬剤耐性菌による健康影響評価手法の提案, 平成28年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成29年3月4日, 仙台市

1-④ 学会発表(国際学会)

- (1) Praise, S., Ito, H., Watanabe, K., Jian, P., Watanabe, T.. Manganese concentration and dissolved organic matter composition changes in surface water of mountainous streams with sabo dams. ASLO 2016 Summer Meeting, Santa Fe, New Mexico, USA, June 5-10, 2016
- (2) Y. Kanaya, P. Jian, W. Chiemchaisri, T. Watanabe. Dose-response models for skin infection with three pathogens frequently detected in water environment. The 2nd UWP Seminar, Tokyo, Japan, August 9-10, 2016
- (3) Gia Thanh Nguyen, Yuri Kanaya, Jian Pu, Toru Watanabe. Modified disability weights for diarrhea diseases based on feeling of flood-affected people in Asian developing countries. Water and Environment Technology Conference (WET2016), Tokyo, Japan, September 27-28, 2016
- (4) Ito, E., Ito, H., Masago, Y., Ueki, Y., Watanabe, T.. Investigation of Aichi virus and Pepper mild mottle virus for indicators of Norovirus contamination in oysters. ISFEV2016, Kusatsu, Japan, September 13-16, 2016
- (5) Ermaya Eka Cahyaningrum, Nabila Dhyana Azraini, Hiroaki Ito, Jian Pu, Toru Watanabe. Spatio-temporal distribution of Norovirus GII accumulated in oysters at a farming area in Japan. ISFEV2016, Kusatsu, Japan, September 13-16, 2016
- (6) Nabila Dhyana Azraini, Ermaya Eka Cahyaningrum, Jian Pu, Shinobu Kazama, Yoshimitsu Konta, Takayuki Miura, Tatsuo Omura, Hiroaki Ito, Toru Watanabe. Genotyping of Norovirus GII detected in oysters during 2014 gastroenteritis-epidemic season in Japan. ISFEV2016, Kusatsu, Japan, September 13-16, 2016
- (7) Y. Kanaya, Jian Pu, T. Watanabe. Dose-response models for skin infection with Group A Streptococci, Staphylococcus aureus, and Pseudomonas aeruginosa frequently detected in water environment. International Water Industry Conference, Daegu, Korea, October 18-21, 2016
- (8) T. Watanabe, Y. Takada, H.V. Duong, L.K. Pham, J. Pu, D. D. Pham. Does urban flood fecally contaminate agricultural fields at the downstream? - A case in central Vietnam. 12th International Symposium on Southeast Asian Water Environment, Hanoi, Vietnam, November 28-30, 2016
- (9) Dong Duy Pham, Sumiko Kurashima, Jian Pu, T. Watanabe. Cultivation of rice for animal feeding with continuous irrigation of treated municipal wastewater. 12th International Symposium on Southeast Asian Water Environment, Hanoi, Vietnam, November 28-30, 2016
- (10) Gia Thanh Nguyen, Hiroaki Ito, Jian Pu, Le Van An, T. Watanabe. One-year monitoring of oyster contamination with human norovirus in a lagoon affected by urban drainage in Vietnam. 12th International Symposium on Southeast Asian Water Environment, Hanoi, Vietnam, November 28-30, 2016
- (11) Toru Watanabe, Gia Thanh Nguyen, Jian Pu, Kensuke Fukushi. Fecal contamination of foods cultivated at downstream of urban area affected by seasonal flood - Two cases in central Vietnam - . 2nd International Forum on Sustainable Future in Asia, Bali, Indonesia, January 26-28, 2017

1-⑤ その他の研究活動

- (1) 畜産臭気問題研究会 メンバー(チーフ) (平成27年11月～現在)
- (2) 下水再生水を活用した飼料用米栽培に関する勉強会 メンバー(2016年5月～現在)

花山 奨

1-① 学会発表(国内学会)

- (1) 花山奨・安中武幸(2016): 水田土壌中の窒素動態が土壌表面上の付着藻類の増殖におよぼす影響、平成28年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集
- (2) 安中武幸・花山奨(2016): 電気伝導度・温度依存性評価のための砂層誘電率のモデル化、平成28年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集

渡邊 一哉

1-① 論文

- (1) Yuki Okamoto, Nozomu Muto, Koetsu Kon, Kazuya Watanabe, Takashi Yoshikawa, Jintana Salaenoi, Satoshi Ishikawa. Stable isotope analysis suggests the existence of multiple populations of streaked spinefoot (*Siganus javus* L.) in Bandon Bay, Southern Thailand. *International Aquatic Research*, DOI 10.1007/s40071-016-0132-3
- (2) Susan Praise, Toru Watanabe, Kazuya Watanabe, Hiroaki Ito, Hiroshi Okubo. Impact of closed sabo dams on manganese concentration change in mountainous streams. *International Journal of River Basin Management*. DOI 10.1080/15715124.2016.1209510
- (3) Thongthip Wongsin, Jintana Salaenoi, Kangsadan Boonprab, Takashi Yoshikawa, Yuki Okamoto, Satoshi Ishikawa, Kazuya Watanabe. Protein and Carbohydrate Accumulations in the Sediment of Blood Cockle (*Anadara granosa*) Culture Area at Bandon Bay, Surat Thani Province. *Thammasat Journal of Science and Technology*. 24(2)

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 渡邊一哉・大場梢(2016.9.2) 溪流河川における砂防堰堤スリット化はサクラマスにどのような影響を与えたのか?, 応用生態工学会, PJ-2

プロジェクト教員

中坪あゆみ

1-① 論文

- (1) 田邊大・中坪あゆみ・富樫均仁・本間英治・片平光彦・嶋田浩(2016): UAV(無人航空機)を利用した農作物の生育診断(第1報). 農業食料工学会東北支部報, 63, 33-36

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 田邊大・中坪あゆみ・本間英治・富樫均仁・嶋田浩・片平光彦(2016): UAV(無人航空機)を利用した農作物の生育診断(第1報)-バレイショ畑のモニタリング-. 農業食料工学会東北支部大会研究発表会講演要旨集, 46-47
- (2) 室井智陽・松山裕城・堀口健一・中坪あゆみ・浦川修司(2017): 庄内地域における子実利用を目的としたトウモロコシの生産技術の検討. 日本草地学会誌63別, 35
- (3) 小野恵美・松山裕城・浦川修司・中坪あゆみ・堀口健一(2017): 規格外バレイショサイレージの発酵品質. 日本草地学会誌63別, 71

②学会・社会活動

安全農産物生産学コース

西澤 隆

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会東北支部（支部長 2016）
- (2) 園芸学会（代議員 2016）

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) HortScience（米国）1件
- (2) International Journal of Crop Science and Technology（トルコ）1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) スーパーサイエンスハイスクール事業・鶴岡南高等学校（平成28年4月～平成29年2月）
- (2) ひらめき☆ときめきサイエンス事業（平成28年9月17日）

藤井弘志

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壤肥料学会、日本作物学会
- (2) 日本土壤肥料学会評議員、日本土壤肥料学会東北支部会評議員、日本土壤肥料学会東北支部長

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 日本土壤肥料学会東北支部大会平成28年度山形大会（2016年7月5日～6日）

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県立農業大学校特別講義（土壤肥料）（植物生理）6回：6月5日、7月17日、10月9日
- (2) 山形県立農業大学校「働きながら学ぶ稲作講座」2回：7月30日、8月27日

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 日本土壤肥料学会ポスター賞：松本由美・高橋航平・猿田文平・片桐哲也・安藤和登・森静香・藤井弘志（2016）：ドローンによる圃場生育評価と無人ヘリによる可変追肥システムを利用した水稻の収量・品質改善について、日本土壤肥料学会講演要旨集、62、103

平 智

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会（代議員、2015～現在）
- (2) 日本食品保蔵科学会（理事、学会賞選考委員、2011～現在）
- (3) 人間・植物関係学会（理事、2005～現在）

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡総合研究所所長（2012～現在）
- (2) 鶴岡致道大学学長（2012～現在）
- (3) 鶴岡市森林文化都市研究会会長（2011～現在）

- (4) つるおか森の保育研究会顧問(2014～現在)
- (5) 鶴岡市総合計画審議会委員、同企画専門委員会委員長(2007～現在)
- (6) 山形在来作物研究会副会長(2009～現在)

浦川修司

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本草地学会(編集委員～現在)
- (2) 東北畜産学会(評議員2015～現在)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本草地学会1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「飼料用米の収穫調製技術および地域における耕畜連携の進め方」について講演, 農林水産省,新潟県上越市,2016年8月9日
- (2) 「飼料稲・飼料用米の普及状況と課題」について講演, 日本技術士会,東京都,2016年9月10日
- (3) 「稲発酵粗飼料の収穫調製技術」について講演, 農林水産省,福島県,2016年12月7日
- (4) 「飼料用米の収穫と加工調製技術」について講演, 農林水産省,福島県,2016年12月7日
- (5) 「地域における耕畜連携の進め方」について講演, 農林水産省,福島県,2016年12月8日
- (6) 「飼料作物の収穫調製」について講演, 日本草地畜産種子協会,福島県,2016年12月14日
- (7) 「地域における耕畜連携の進め方」について講演, 千葉県,福島県山武市,2017年1月24日
- (8) 「稲WCS等の自給飼料の広域流通および作業受委託組織の連携と多角化」について講演,岩手県盛岡市,,2017年2月10日

堀口健一

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本畜産学会
- (2) 日本草地学会(国際情報担当委員2011年度～、和文誌編集委員2015年度～)
- (3) 東北畜産学会(評議員2010年度～)
- (4) 日本家畜管理学会
- (5) 肉用牛研究会
- (6) ルーメン研究会(評議員2013年度～)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本畜産学会報 1件
- (2) 肉用牛研究会報 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県試験研究機関アドバイザリー・ボードメンバー 2016年4月1日～2018年3月31日
- (2) 山形県公害審査会委員 2017年1月1日～2019年12月31日
- (3) 群馬県高等学校教育研究会農業部会視察研修 農学部ほか 2016年8月16日～2016年8月17日

小笠原宣好

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会

角田 憲一

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会(副部門長2015~)
- (2) Sago Palm
- (3) 根の研究

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition (日本) 2件
- (2) 日本土壌肥料学雑誌(日本)3件

長谷 修

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本植物病理学会 (東北部会幹事2008~現在)
- (2) アメリカ植物病理学会 会員
- (3) 日本植物生理学会 会員
- (4) 北日本病害虫研究会 会員(評議員2013.4~現在)
- (5) 日本菌学会 会員

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of General Plant Pathology (Japan) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) わんぱく農業クラブ(7回/年):庄内水田農業推進機構
- (2) JICA研修「アフリカ地域稲作振興のための中核的農学研究者の育成」研修員2名受け入れ(平成28年7月)
- (3) JICA研修「アフリカ稲作収穫後処理」研修員18名受け入れ(平成28年8月~9月)
- (4) 鶴岡市有機認定判定委員会委員(平成25年~)

小林 隆

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本植物病理学会
- (2) The American Phytopathological Society
- (3) 北日本病害虫研究会(編集委員2009~)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 北日本病害虫研究会報 4件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県毒物劇物取扱者試験

片平光彦

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業食料工学会東北支部会, 常任幹事, 2009年04月 ~ 継続中
- (2) 農業食料工学会
- (3) 農業施設学会
- (4) 農作業学会
- (5) American Society of Agricultural and Biological Engineers

森 静香

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壤肥料学会
- (2) 日本作物学会
- (3) 日本土壤肥料学会東北支部役員(2016年4月1日~2018年3月31日)

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 日本土壤肥料学会東北支部大会平成28年度山形大会(2016年7月5日~6日)

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県科学技術奨励賞審査委員会委員(2016年6月1日~2018年5月31日)

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 日本土壤肥料学会ポスター賞:松本由美・高橋航平・猿田文平・片桐哲也・安藤和登・森静香・藤井弘志(2016):ドローンによる圃場生育評価と無人ヘリによる可変追肥システムを利用した水稻の収量・品質改善について、2016年9月21日

佐藤 智

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本応用動物昆虫学会
- (2) 日本生態学会
- (3) 日本昆虫学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本応用動物昆虫学会
- (2) 日本生態学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「鶴岡市および庄内町の水田の生き物およびその機能について」の講演:庄内共同ファーム主催・庄内共同ファーム会議室、平成28年7月1日
- (2) 「水田の生き物の発生状況とその役割について」の講演、株式会社ジーピーエス主催:なの花ホール、平成28年8月9日
- (3) 「生態系サービスと水稻栽培」について講演、パルシステム生活協同組合連合会、なの花ホール、平成29年2月12日

- (4) 「水田の生き物調査」の実施補助、庄内共同ファーム主催、平成28年7月1日
- (5) 「水田の生き物調査」の実施補助、庄内共同ファーム主催、平成28年8月9日

松山裕城

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本畜産学会
- (2) 日本草地学会
- (3) 東北畜産学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本草地学会 1件
- (2) Animal Science Journal 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「飼料用米の地域内需給事例と最新の研究知見について」の講演、山形県主催、2016年8月26日、山形中央農業共済組合
- (2) 「飼料設計の基本について」の講演、農林水産省主催、平成28年度中央畜産技術研修会(飼料A・B)、2016年8月31日、家畜改良センター
- (3) 「飼料用イネ(稲発酵粗飼料・飼料用米)の給与技術」の講演、農林水産省主催、平成28年度中央畜産技術研修会(自給飼料 飼料用米・WCS)、2016年12月7日、家畜改良センター
- (4) 「最近の飼料用米の生産、流通、利用に係る動向と課題」の講演、最上総合支庁産業経済部農業振興課主催、飼料用米の利用拡大に向けた研修会、2017年1月26日、最上総合支庁農業技術普及課産地研究室

佐々木由佳

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壤肥料学会、土壤教育委員会委員(2016年4月～)
- (2) 日本作物学会
- (3) 農業農村工学会
- (4) 日本熱帯農業学会
- (5) サゴヤシ学会
- (6) 山形在来作物研究会
- (7) 東北地区自然災害科学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 附属農場開放事業「わんぱく農業クラブ」の運営(2005年～現在)
- (2) 庄内水田農業推進機構委員(2009年4月～現在)
- (3) 山形大学農学部鶴窓会代議員(2011年4月～現在)
- (4) 山形大学東北創生研究所 研究員(食糧生産研究部門) 兼任(2014年6月～2017年5月)
- (5) 山形県科学技術会議 委員(2015年6月1日～2017年5月31日)
- (6) 山形県リサイクル製品認定・リサイクルシステム認証審査会審査員(2016年7月7日～2018年3月31日)
- (7) 山形県農業普及活動外部評価委員会委員(2017年1月16日～2018年3月31日)

- (8) JICA短期研修「アフリカ地域(英語圏・仏語圏)稲作収穫後処理」企画運営及び講師(2016年8月18日～9月28日)

池田和生

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会, 園芸学会東北支部会計幹事
- (2) 日本植物細胞分子生物学会
- (3) 山形在来作物研究会(幹事)
- (4) 日本食品保蔵科学会
- (5) 国際アウトウシンポジウム実行委員会
- (6) 国際園芸学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 園芸学研究1件

松本大生

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Open Biology (英国) 1件
- (2) Nature Plant (英国) 1件

食農環境マネジメント学コース

岩鼻通明

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 歴史地理学会(評議員1990～現在)
- (2) 史学研究会(評議員2004～現在)
- (3) 日本山岳修験学会(理事1990～現在)
- (4) 村山民俗学会(会長2016～現在)
- (5) 山形県民俗研究協議会(副会長2016～現在)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 「人文地理」人文地理学会 1件
- (2) 「東北文教大学紀要」紀要 1件
- (3) 「山形大学紀要 農学」 2件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 大江町文化的景観委員会委員(2008～現在)
- (2) 月山ジオパーク協議会「学術研究・観光」合同部会パネルディスカッションパネリスト(2017/03/17 庄内町)

小沢 互

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経済学会
- (2) 日本農業経営学会
- (3) 東北農業経済学会(会長. 2016～2018)
- (4) 農村計画学会(評議員. 2013～2018)
- (5) 日本フードシステム学会
- (6) 地域活性学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 農業経済研究 1件
- (2) フードシステム研究 2件
- (3) 農村計画学会誌 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県農業・農村政策審議会委員(山形県. 会長代理. 2006年4月～)
- (2) 山形県米政策推進会議委員(山形県. 会長. 2007年9月～)
- (3) 専門家派遣事業にかかる専門家(山形県農業会議. 2008年5月～)
- (4) 鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員(鶴岡市. 2009年11月～)
- (5) 公益財団法人やまがた農業支援センター評議員選定委員会委員(やまがた農業支援センター. 2011年2月～)
- (6) 山形県農村環境保全推進委員会委員(山形県. 座長. 2012年2月～2021年3月)
- (7) 豊かなむらづくり審査会委員(東北農政局. 2014年5月～)
- (8) 米政策等の見直しに係る検討会アドバイザー(川西町農業再生協議会. 2014年5月～)

- (9) 農地中間管理事業評価委員会委員(やまがた農業支援センター. 委員長. 2015年1月～)
- (10) 公設庄内青果物地方卸売市場取引委員会委員(庄内広域行政組合. 2015年3月～)
- (11) 東北農政局事前評価技術検討会委員(東北農政局. 2015年6月～)
- (12) 山形市農政審議会委員(山形市. 委員長. 2015年7月～)
- (13) 果樹王国ひがしね6次産業化推進協議会委員兼アドバイザー(東根市. 2015年9月～)
- (14) 農林水産分野TPP対応検討チーム(山形県. チームリーダー. 2015年10月～)
- (15) 「第6次山形市農業振興基本計画」策定に係る監修(山形市. 2015年12月～)
- (16) 山形市農業戦略本部委員(山形市. 2016年5月～)
- (17) 山形新聞『提言 就農希望者の自立支援』(2016年7月29日)
- (18) 出羽商工会経営発達支援計画・事業評価委員会委員(出羽商工会. 2016年8月～)
- (19) 報徳未来フォーラム講師(報徳町内会. 2016年10月29日)
- (20) 最上農業表彰式・記念講演会講師(最上地域農業・畜産振興協議会. 2016年11月8日)
- (21) ひがしね6チャンネルビジネススクール先進地視察研修講師(果樹王国ひがしね6次産業化推進協議会. 2016年11月17日)
- (22) 果樹王国ひがしね6次産業化推進フォーラム講師(果樹王国ひがしね6次産業化推進協議会. 2017年2月1日)
- (23) 新規就農フォーラムコーディネーター(鶴岡市. 2017年2月21日)
- (24) 水田フォーラム鼎談コーディネーター(庄内水田農業推進機構. 2017年2月21日)

角田 毅

2-① 学会活動

2-①- (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経営学会
- (2) 日本農業経済学会
- (3) 東北農業経済学会・副会長
- (4) 地域農林経済学会
- (5) 日本農業普及学会

2-①- (ii) 論文審査の依頼等

- (1) 農業経営研究(日本)2本
- (2) 農村経済研究(日本)1本
- (3) 農業経済研究報告(日本)1本

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) やまがた6次産業ビジネススクール講師
- (2) 東北農政局国営事業事後評価技術検討会委員(2016.4～2017.3)
- (3) 山形県創意工夫プロジェクト支援事業(最上総合支庁)計画審査委員(2016.4～2017.3)
- (4) 山形県トップランナー育成プロジェクト会議委員(2016.4～2017.3)
- (5) やまがた農業経営塾開催検討会委員(2016.4～2017.3)
- (6) 山形県立農業大学校「新規就農支援研修」開校式講演(2016.4.12)
- (7) 鶴岡市農業委員会農業振興担い手専門委員会・山形大学農学部交流事業(2016.10.19)
- (8) 「6次産業化と実践事例」研修会講演(2016.11.9)
- (9) 秋田県立大学非常勤講師(2017.1)

- (10) JA営農指導実践山形県大会審査委員(2017.1.16)
- (11) 大日本農会地域セミナー(秋田)総括コメント(2017.2.4)
- (12) 金山町農業セミナー講演(2017.3.21)

家串哲生

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 地域農林経済学会(編集委員会委員 2014~2016)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本農業経営学会、論文審査レフリー、2件
- (2) 地域農林経済学会、論文審査レフリー、2件
- (3) 山形大学紀要、論文審査レフリー、1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 食と農のビジネス塾講師:山形大学農学部(2016年12月2、9日、2017年1月13日)

藤科智海

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経済学会
- (2) 日本農業経営学会
- (3) 日本フードシステム学会
- (4) 東北農業経済学会
- (5) 地域活性学会
- (6) 農村計画学会
- (7) システム農学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 東北農業経済学会 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県研究評価委員会委員(2012年6月~継続中)
- (2) やまがた6次産業ビジネススクール講師(2011年08月~継続中)
- (3) 地域定住農業者育成コンソーシアム事務局(2016年04月~継続中)
- (4) 山形県立農業大学校「農産加工マーケティング」講師(2016年10月~12月)
- (5) 庄内地域農林水産業若者賞審査委員(2016年10月27日)
- (6) 山形県卸売市場審議会委員(2016年09月~継続中)
- (7) 最上夜学講師「フードシステムと6次産業化」(山形県最上総合支庁、2016年11月21日)
- (8) 立川有機米研究会30周年記念講演「立川有機米研究会の取組の社会的意義」(立川有機米研究会、2017年3月11日)

渡辺理絵

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本地理学会
- (2) 人文地理学会代議員(2016～2018年)
- (3) 歴史地理学会
- (4) 日本国際地図学会 評議員(2015～2016年)
- (5) 東北地理学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 講演「地図にみる都市社会の変化」松江G空間ミュージアムプロジェクト実行委員会、松江歴史館、平成29年3月26日
- (2) 山形県庄内総合支庁山形海区漁業調整委員会委員(平成24年8月15日から28年8月14日)
- (3) 山形県環境審議会委員(平成25年5月1日～29年4月30日)
- (4) 山形県総合政策審議会特別委員(平成25年7月5日～平成29年4月29日)
- (5) 山形県立山形北高等学校学校評議員(平成27年5月11日～平成30年3月31日)
- (6) 山形県立山形北高等学校学校関係評価委員(平成27年5月11日～平成30年3月31日)
- (7) 米沢市文化財審議員(平成27年7月1日～平成29年6月30日)
- (8) 山形県都市計画審議会委員(平成27年10月6日～平成29年10月5日)
- (9) 「未来に伝える山形の宝」登録審査委員(平成28年2月17日～平成30年2月16日)

食品・応用生命科学コース

三橋 涉

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生化学会(東北支部幹事 2000年～)
- (2) 日本農芸化学会(東北支部参与2013年～)
- (3) 日本植物生理学会
- (4) 日本植物学会
- (5) アメリカ植物科学会、日本分子生物学会

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第151回日本農芸化学会東北支部大会・世話人:山形大学農学部キャンパス(平成28年10月9日)
- (2) 第24回山形分子生物学セミナー・世話人:山形大学農学部キャンパス(平成28年12月3日)

小関卓也

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会(JABEE対応委員会委員2015.3～2017.2、東北支部山形県代表参与2013.7～)
- (2) 日本生物工学会(北日本支部代議員2011.5～2017.3, 北日本支部編集委員2013.5～)
- (3) 日本応用糖質科学会(東北支部理事2010.5～)
- (4) 日本醸造学会
- (5) 日本栄養・食糧学会(東北支部参与2014.2～)
- (6) 糸状菌分子生物学研究会

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 日本農芸化学会東北支部第151回大会・実行委員:山形県鶴岡市(平成28年10月8日～平成28年10月9日)

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Bioresource Technology(英国), 1件
- (2) Journal of Molecular Catalysis B: Enzymatic(オランダ), 1件
- (3) Biotechnology Progress(米国), 1件
- (4) Toxins(スイス), 1件
- (5) Catalysts(スイス), 1件
- (6) AIMS Bioengineering(米国), 1件
- (7) Bioscience, Biotechnology and Biochemistry(日本), 2件
- (8) Journal of Bioscience and Bioengineering(日本), 1件
- (9) Journal of Applied Glycoscience(日本), 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形セレクション会議加工食品分野専門委員会委員(2016.4～2017.3)
- (2) 山形県農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業プロジェクト成果評価審査会委員(2016.4～2017.3)
- (3) 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究課題評価分科会委員(2014.10～2017.3)
- (4) 酒田市新製品および新技術研究開発等助成金審査会委員(2016.4～2017.3)

- (5) 鶴岡南高校スーパーサイエンスハイスクール「鶴南ゼミ」講師(2016.4～2017.3)
- (6) 食生活を支える発酵バイオサイエンス, 平成28年度一日総合大学模擬講義, 山形北高校(2016.6.16)

豊増知伸

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会(和文誌編集委員2015～現在)
- (2) 植物化学調節学会(評議員2010～2016年10月29日、代議員2016年10月29日～現在、学会賞選考委員2016年10月29日～現在)
- (3) 日本植物生理学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Plos One (米国)1件
- (2) New Phytologist(英国)1件
- (3) Plant Cell Physiol. (日本)1件

永井 毅

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本水産学会
- (2) 日本農芸化学会
- (3) 日本食品科学工学会
- (4) 日本食品化学学会等

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) LWT-Food Science and Technology 8編
- (2) European Journal of Medicinal Plants 1編
- (3) Journal of Advances in Biology & Biotechnology 2編
- (4) Journal of Applied Life Sciences International 1編
- (5) Journal of Scientific Research and Reports 1編
- (6) British Journal of Applied Science and Technology 2編
- (7) International Journal of Molecular Sciences 1編
- (8) Biotechnology Reports 1編
- (9) Journal of Advances in Microbiology 1編
- (10) Journal of Medicinal Plant and Herbal Therapy Research 1編
- (11) Asian Journal of Biology 2編
- (12) International Journal of Biochemistry Research & Review 1編
- (13) Journal of Advances in Food Science & Technology 1編

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 加茂水産高校SPH運営指導委員
- (2) 全国水産加工業協同組合連合会 水産加工食品製造業技能評価試験官
- (3) 寒河江市技術振興協会研修講座講師

- (4) 児童養護施設七窪思恩園における食品加工実習 計4回実施
「山形放送ニュース放送1件、荘内日報社新聞掲載3件、コミュニティ新聞掲載4件、山形新聞掲載3件」
- (5) 遊佐産お米のグラノーラ開発、商品化 「テレビユー山形ニュース放送1件、山形放送ニュース1件、螢雪時代掲載1件、大正大学出版「地球人」掲載1件、大学新聞掲載1件、庄内小僧掲載1件、毎日新聞掲載1件、山形新聞掲載1件、鶴岡タイムス掲載1件、コミュニティしんぶん掲載1件等

加来伸夫

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本微生物生態学会
- (2) 日本土壌微生物学会
- (3) 日本農芸化学会(東北支部参与)
- (4) 日本土壌肥料学会
- (5) 日本水環境学会
- (6) 土木学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry (日本) 1件
- (2) Paddy and Water Environment (日本) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県立鶴岡南高等学校科学部の研究活動への支援・協力・連携(平成20年9月～現在)
- (2) 山形県立鶴岡南高等学校SSH授業講師
- (3) 鶴岡市立荘内看護専門学校非常勤講師
- (4) 鶴岡工業高等専門学校非常勤講師

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 平成27年度土木学会東北支部技術開発賞(共同受賞)

塩野義人

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 植物化学調節学会
- (3) 日本薬学会
- (4) マイコトキシン学会

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第17回 日本農芸化学会東北支部 若手の会の主催と実行委員長, 平成28年10月8日(土), 鶴岡市

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Phytochemistry letter (3件)
- (2) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry (2件)

渡辺昌規

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生物工学会
- (2) 日本農芸化学会
- (3) 日本食品工学会
- (4) Journal of Bioscience and Bioengineering (Elsevier publisher) 英文誌編集委員2013~2017
- (5) The 4th International Conference of Food and Applied Bioscience (ICFAB). Scientific Committee member, co-host organaizer.

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 日本生物工学会バイオマス循環利用研究部会日本・マレーシアジョイントセミナー (平成28年9月29日, ANAクラウンプラザホテル富山)

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) British Journal of Nutrition (UK) 1件
- (2) Journal of Nutrition & Food Science (USA) 1件
- (3) Chiang Mai Journal of Science (Thailand) 3件
- (4) Applied Sciences (Switzerland) 1件
- (5) Journal of Food Science (USA) 1件
- (6) Innovative Food Science and Emerging Technologies (Netherland) 1件
- (7) Preparative Biochemistry & Biotechnology (USA) 1件
- (8) Journal of Bioscience and Bioengineering (Netherland) 8件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 寒河江高等学校 出前講義:2016年6月28日
- (2) 新庄北高等学校 出前講義:2016年10月21日
- (3) FROMPAGE主催”夢ナビLIVE2016”プレゼンテーション(2016年10月1日, 仙台(夢めっせ宮城))&プロモーションビデオ撮影(2016年3月30日、本学)
- (4) 農学部公開講座「農学の夕べ」講師:(2016年10月27日、本学)
- (5) 地域定住農業者育成コンソーシアム「食と農のビジネス塾」講師:(2017年1月27日、本学)

井上 奈穂

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 日本栄養・食糧学会
- (3) 日本肥満学会
- (4) 日本油化学会
- (5) 油脂・コレステロール研究会(庶務幹事 2012年~現在)

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第49回油脂・コレステロール研究会 シンポジウム・総会 運営:兵庫県西宮市(平成28年5月14日)
- (2) 第3回国際こめ油会議 実行委員:東京都文京区(平成28年10月24日~25日)

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) J Nutr Sci Vitaminol(日本):4件

(2) J Oleo Sci(日本):4件

2-② 社会活動・地域貢献活動

(1) 農学の夕べ「油脂の科学」講演、平成28年10月20日、山形県鶴岡市(山形大学農学部)

(2) 日本農芸化学会2017年度大会 男女共同参画ランチオンシンポジウム 講師、平成29年3月18日、京都府京都市

2-③ 学会賞受賞等

(1) 2017年度農芸化学女性研究者賞「植物性機能性成分による病態発症改善機能に関する研究」平成29年3月17日

植物機能開発学コース

村山哲也

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会(支部参与)
- (2) 日本薬学会
- (3) 有機合成化学協会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県公害審査会委員(平成28年12月～)
- (2) Nanang Rudianto Ariefta, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Yoshihito Shiono
Secondary Metabolites Produced by *Aspergillus stellatus* T-5 and *Fusarium solani* T-13 Isolated from a Dead Branch
会の名前: First International Symposium on Health-Care Technology 2016 in Yamagata
日時: December 1 (Thu), 2016 (YUCOE)
- (3) Takuma Suzuki, Seiya Yoshida, Tetsuya Murayama, Takuya Koseki, Yoshihito Shiono
New Secondary Metabolites Produced by Fungus *Cylindrocarpus* sp. SY-39 Isolated from a Driftwood
会の名前: First International Symposium on Health-Care Technology 2016 in Yamagata
日時: December 1 (Thu), 2016 (YUCOE)

俵谷圭太郎

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会(東北支部評議員)
- (2) 日本土壌微生物学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition
- (2) Plant and Soil
- (3) Agronomy Journal

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡市環境審議会委員

村山秀樹

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会(代議員2015～現在)
- (2) 日本食品保蔵科学会(評議員2009～現在)
- (3) 国際園芸学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) The Horticulture Journal 2件
- (2) Scientia Horticulturae 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県「ラ・フランス」検討委員会委員(2015)

- (2) 山形県立鶴岡南高等学校「鶴南ゼミでの講師」(2016)
- (3) ひらめきときめきサイエンスプログラム「生物の多様性を考える」の開催、2016年9月、場所：農学部
- (4) やまがた農産物安全・安心取組認証審査委員(2016)
- (5) 「食と農のビジネス塾」講師、2016年10月28日
- (6) 上山市園芸作物産地化研究会委員(2016)

江頭宏昌

2-① 学会活動

2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) エダマメ研究会(幹事2002～2014年、代表2014年～)
- (2) 山形在来作物研究会(幹事2003～2007、副会長2008、会長2009～現在)
- (3) 日本育種学会、園芸学会、人間・植物関係学会、KJ法学会、農耕文化研究振興会、雑穀研究会、民族自然史研究会、生き物文化誌学会、日本DNA多型学会

2-①-② (ii) 学会の主催等

- (1) 山形在来作物研究会公開フォーラム「在来作物を売る一商品化への知恵と工夫」の共催：2016年12月10日、場所：山形大学農学部301講義室 主催：山形大学農学部

2-①-③ (iii) 論文審査の依頼等

- (1) The Horticulture Journal 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡総合研究所企画講師、鶴岡市食育・地産地消推進協議会委員(2008年～)、鶴岡まちづくり塾アドバイザー、鶴岡食文化創造都市推進協議会委員、焼畑かぶブランド力向上プロジェクト協議会アドバイザー
- (2) 山形県農林水産業活性化推進本部委員(2009～)、山形県農林水産技術会議委員(2010～)、山形おきたま伝統野菜振興協議会アドバイザー(2014～)、沖縄県「うちなー島野菜商品化支援技術開発事業」推進会議外部アドバイザー委員(2014～)、山形県えだまめ日本一産地化推進協議会委員(2016～)
- (3) NPO法人荘内松柏会畑作講師(2008～)
- (4) 山形新聞の依頼で石塚亮著『浜から聞こえる豊饒』の書評「庄内浜の食文化見直す」を山形新聞4月6日付朝刊に掲載
- (5) 山形県農林水産部長の依頼で「山形えだまめ日本一フォーラム2016」において「えだまめの魅力と期待されること」と題して講演：2016年7月7日、場所：鶴岡市農村センター
- (6) 米沢市雇用創造推進協議会の依頼で「フードサイエンスセミナー」において講義「地域伝承野菜によるオンリーワン市場の創造」：2016年7月20日 場所：地域産業支援センター
- (7) らでいっしゅぼーやRadixの会の依頼で「在来作物の魅力と活用」と題して講演：2016年7月29日、場所：ホテル満光園(鶴岡市湯野浜)
- (8) 山形県6次産業推進課の依頼で産地めぐりツアーに同行および「山形の在来作物の魅力」と題して講演：2016年8月24-25日、講演場所：ホテルメトロポリタン山形
- (9) 沖縄県農業研究センターの依頼で平成27年度うちなー島ヤサイ商品化支援技術開発事業推進会議にアドバイザーとして出席：2016年9月16日および2017年3月10日、沖縄県農業研究センター本館(糸満市)
- (10) 米沢市雇用創造推進協議会の依頼で「フードサイエンスセミナー」の成果発表と討論においてアドバイザーとして出席：2016年10月18日 場所：地域産業支援センター
- (11) 滋賀県と滋賀の食事文化研究会の依頼で「滋賀のお漬物フォーラム」において「在来作物と漬物の魅力」と題して講演：2016年11月20日、場所：草津市立まちづくりセンター
- (12) 味の素食の文化センターの依頼で食の文化シンポジウム2016「栽培化と家畜化～食べていくための人類の選択」において「人間と作物～農のジレンマをこえて」と題して講演：2016年11月26日、場所：味の素グループ高輪研修センター
- (13) 松本十郎を顕彰する会の依頼で「今を記録することの大切さ」と題して講演：2016年11月28日、場所：第3コミセン(鶴岡市)

- (14) 酒田市立東部中学校の依頼で「在来作物のルーツとこれから」と題して中学生に講義
2016年12月5日、場所:山形大学農学部301講義室
- (15) 鶴岡市食文化推進室の依頼でイタリア食科学大学との交流会において「在来植物はなぜ私たちの暮らしに必要か」と題して講演:2016年12月9日、場所:斎館(鶴岡市)
- (16) 上長井雪菜生産組合の依頼で「雪菜のふすべ漬けにおける辛味成分等の変化について」と題して講演:2016年12月19日、場所:米沢市愛宕公民館
- (17) 京都産業大学の依頼で科目バイオフォーラムにおいて「地域の在来作物をどう保存・継承するか」と題して講義:2017年1月11日、場所:京都産業大学
- (18) 山形おきたま伝統野菜振興協議会の依頼で山形おきたま伝統野菜振興協議会の追加認定にかかわるアドバイザーおよび「山形の在来作物の魅力」と題して講演:2017年1月17日、場所:置賜総合支庁(米沢市)
- (19) 田村蕪式会社プロジェクトの依頼で総会において「在来作物を地域に活かす」と題して講演:2017年1月21日、場所:仁淀川公民館(高知県仁淀川町)
- (20) 青森県在来作物研究会の依頼で「あおもり在来の種をつなごう」というイベントにおいて「在来作物の魅力」と題して講義:2017年1月29日、場所:アピオ青森
- (21) いわきリエゾン・オフィスの依頼で「いわき昔野菜フェスティバル」において「自家採種の魅力とその世界」と題して講演:2017年2月5日、場所:いわき市立中央台公民館(福島県)
- (22) 伊自良の里・食と農推進協議会の依頼で「在来作物の魅力と活用」と題して講演:2017年2月18日、場所:伊自良館(福井市)
- (23) 鶴岡市食文化推進室の依頼でイタリア食科学大学の教員と学生と鶴岡市民に「なぜ在来作物や野生植物が私たちの生活にとって大切なのか」と題して講演:2017年2月20日、場所:グランドエル・サン(鶴岡市)
- (24) 京都府立大学の依頼でシンポジウム「食文化研究の地平を拓く」への出席ならびにパネルディスカッションにおいて「在来作物を地域に活かす」と題して講演:2017年2月28日～3月1日、場所:京都府立大学・歴彩館
- (25) 静岡市中山間地振興課の依頼でオクシズ在来作物シンポジウムにおいて「伝統農法・焼畑のゆくえ」と題して講義:2017年3月20日、場所:道の駅阿倍ごころ(静岡市)

程 為 国

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会
- (2) 日本土壌微生物学会
- (3) 日本作物学会
- (4) 日本気象学会
- (5) Soil Science Society of America

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition 2件
- (2) Biology and Fertility of Soils 11件
- (3) Agriculture, Ecosystems & Environment 6件
- (4) Journal of Wetlands Environmental Management 3件
- (5) Organic Agriculture 1件
- (6) Paddy and Water Environment 1件
- (7) Pedosphere 1件
- (8) Ecological Research 1件
- (9) European Journal of Soil Biology 1件
- (10) Plant Production Science 1件

- (11) Atmospheric Chemistry and Physics (ACP)1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 天津・山形大・東大「都市と農村の融合に基づく持続的発展」セミナーでの講演:「地球温暖化が稲作生産とメタン放出に与える影響」、山形大学農学部 (2016.4.14)

笹沼恒男

2-① 学会活動

2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本育種学会(幹事2012年4月～2016年3月(2016年1月より代議員))
- (2) 日本遺伝学会
- (3) 日本作物学会
- (4) 文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)コムギ小委員会委員(2003～現在)
- (5) 研究情報電子ジャーナル Wheat Information Service (eWIS) 編集委員(2005～現在)

2-①-② (ii) 学会の主催等

- (1) 第11回東北育種研究集会・大会委員長:山形県鶴岡市山形大学農学部(平成28年11月12日)

2-①-③ (iii) 論文審査の依頼等

- (1) Breeding Science (日本) 2件
- (2) Genes and Genetic Systems (日本) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県農業総合研究センター園芸試験場 遺伝子組換え実験安全委員会委員(2013～現在)
- (2) 庄内バイオ研修センターバイオテクノロジー学習会「パプリカの遺伝子解析による色の違いの原因究明」講師(2016年5月28日、6月4日、11日、場所:庄内バイオ研修センター、同学習会内での講義「海外での遺伝資源探索について—シリア、ジョージア、中国での学術調査—」5月28日)
- (3) ホームメイドクッキング機関誌キッチン倶楽部通信にて、コラム「ご存知ですか こんなこと」連載(年4回)(2006年11月～現在)
- (4) 山形大学農学部農学紹介講座 農学のタベ講師「トウガラシ・パプリカの辛味と色の遺伝子を探る」(2016年10月6日、場所:山形大学農学部)
- (5) 山形県紅花生産組合連合会研修会での講演「『もがみべにばな』のルーツについて」(2017年3月24日、場所:山形市)

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 第129回講演会日本育種学会優秀発表賞:「タルホコムギ遺伝資源の製パン性に関する遺伝育種学的評価」(発表日平成28年3月21日、受賞日平成28年6月29日)(発表者:赤池隆亮、柿崎彩佳、笹沼恒男、受賞者は指導学生の赤池隆亮)
- (2) 23th International Pepper Conference Best Poster Award: Biochemical and molecular analyses of white fruit pepper variety “Cheiro White”(平成28年6月16日)(発表者:Keiichi Tsurumaki, Yuki Inaba, Yukiya Matsumoto, Tsuneo Sasanuma)
- (3) 第11回東北育種研究集会優秀ポスター賞:「ベニバナの花弁収量及び花弁色素合成関連遺伝子に関する研究」(平成28年11月12日)(発表者:畠山春奈、青柳沙緒莉、高橋優利佳、相澤由佳里、笹沼恒男、受賞者は指導学生の畠山春奈)

星野友紀

2-① 学会活動

2-①-① (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本育種学会
- (2) 日本植物生理学会
- (3) 東北植物学会

2-①-(ii) 学会の主催等

第11回東北育種研究集会・実行委員：山形県鶴岡市(平成28年11月12日)

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「インテリジェント・コスモス奨励賞 山形大准教授2名に」についての報道：山形新聞(平成28年5月17日)
- (2) 「DNAレベルで枝豆品種改良に成功」についての報道：荘内日報(平成28年7月21日)
- (3) 「ゲノムDNA情報を活用して新しい農作物も創り出す」についての講演：山形県立鶴岡南高等学校主催・鶴翔アカデミア2016・鶴岡南高等学校(平成28年10月5日)
- (4) 「長期継続出荷のためのオリジナル品種の育種」についての講演：山形県主催・平成28年度山形えだまめ日本一産地化プロジェクト 生産、コミュニケーション、販売合同戦略部会・あやこ会館(平成29年2月14日)

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 第15回インテリジェント・コスモス奨励賞：日本一の産地化を目指した新ブランドエダマメ品種の開発(平成28年5月16日)

及川 彰

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 日本食品分析学会
- (3) 国際園芸学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) International Journal of Molecular Science
- (2) Frontiers in Plant Science(3件)
- (3) Analytical Chemistry
- (4) Molecules
- (5) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県 やまがたフードセンシング活用アドバイザー(2015.4～2018.3)

服部 聡

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本微生物生態学会
- (2) 極限環境生物学会
- (3) 日本農芸化学会
- (4) 環境微生物系合同大会実行委員(2016年8月～現在)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Microbes and Environments (日本) 2件
- (2) Environmental Microbiology (英国) 2件

網干貴子

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 日本農薬学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県科学技術会議委員(平成28～30年)
- (2) 山形県科学技術奨励賞審査委員(平成28～30年)
- (3) BS-TBS「知っとくベジライフ2 教えて春日先生！」に出演(平成28年10～12月)
- (4) 海外からみた庄内について「知の拠点庄内」第6回シンポジウムで講演 平成28年12月18日(日)

森林科学コース

野堀嘉裕

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会
- (2) 森林計画学会
- (3) 東北森林学会
- (4) 比較文明学会
- (5) 日本生態学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県森林審議会会長(2014～)
- (2) 山形県環境影響評価審査会委員(2015～)
- (3) 山形県環境審議会環境保全部会長(2015～)
- (4) 山形県環境審議会自然保護部会委員(2015～)
- (5) 鶴岡市林業振興協議会副会長(2015～)
- (6) 鶴岡市景観審議会委員(2014～)
- (7) 鶴岡市公園整備計画懇談会座長(2014～)
- (8) 東北森林管理局計画策定委員会委員(2014～)
- (9) 東北森林管理局保護林設定検討委員会委員座長(2015～)

森 茂太

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) Ecological Processes (Springer), Editorial Board
- (2) Eurasian journal of forest reseach, Referee Board
- (3) 根研究学会評議員
- (4) 根研究学会「根の研究」編集委員
- (5) 日本森林学会 所属
- (6) 日本生態学会 所属
- (7) 東北植物学会 所属
- (8) 熱帯生態学会 所属
- (9) 東北森林学会 所属
- (10) 亜熱帯森林林業研究会 所属

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Regional Studies in Marine Science 1件
- (2) Royal Society open sciece 1件
- (3) ほか 約4件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 青森県平内町林業研究グループ 平内ヒバ研究会顧問

- (2) 青森県平内町林業研究グループ 滝の沢林業研究グループ顧問
- (3) 山形市森林整備推進協議会委員
- (4) 東北森林管理局国有林野管理審議委員(本年度から審議委員長)

林田光祐

2-① 学会活動

2-①-①(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会(代議員 2016～現在)
- (2) 日本生態学会
- (3) 日本海岸林学会(副会長 2008～現在)
- (4) 東北森林科学会
- (5) 植生学会
- (6) 日本鳥学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡工業高等専門学校運営協議会委員(2016～)
- (2) 山形県立鶴岡南高等学校評議員(2016～)
- (3) 山形県立鶴岡南高等学校SSH運営指導委員(2016～)
- (4) 鶴岡市総合計画審議会委員(2016～)
- (5) 鶴岡市総合戦略策定推進会議委員(2016～)
- (6) 鶴岡市農業発展奨励賞表彰審査委員(2016～)
- (7) 庄内水田農業推進機構会長(2016～)
- (8) 庄内地域産業振興センター評議員(2016～)
- (9) 鶴岡市指定天然記念物熊野長峰湿原の保安全管理に関する指導助言、鶴岡市教育委員会(平成28年7月6日)
- (10) 「絆の森・森林保全鼎談 森づくりが育む地域」吉村美栄子山形県知事との対談、山形新聞(平成28年7月19日掲載)
- (11) 活庄会例会での講演「山形大学農学部の新たな挑戦」(平成28年9月29日)
- (12) 農学のタペでの講演「海岸林の生態系サービスの現状と課題」(平成28年11月10日)
- (13) 「東北の野生動物管理を考える」第3回東北野生動物管理研究交流会inせんだいの主催:山形大学 YU-COE (C)人口減少社会適合型野生動物管理システム創成拠点、東京エレクトロンホール宮城(平成28年11月12日)
- (14) JICA課題別研修「自然災害に対する森林の防災機能など生態系を活用した防災・減災(ECO-DRR)」での現地研修講師(平成28年11月25日)

菊池俊一

2-① 学会活動

2-①-①(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会
- (2) 日本生態学会
- (3) 日本地形学連合
- (4) 日本地すべり学会
- (5) 日本緑化工学会

- (6) 森林立地学会
- (7) 日本海岸林学会
- (8) 東北森林科学会(常任理事(総務)、学会誌編集委員2016～2018)
- (9) 北方森林学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本緑化工学会誌 1件
- (2) 東北森林科学会誌 3件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東北森林管理局朝日山地森林生態系保護地域管理委員会委員長(2013年5月～2018年3月)
- (2) 東北森林管理局事業評価技術検討会委員(2016年5月～2018年3月)
- (3) 国土交通省東北地方整備局月山ダム事務所月山ダム水源地域ビジョン推進会委員長(2014年12月～2017年11月)
- (4) 山形県県土整備部山形県公共事業評価監視委員会委員(2016年4月～2018年3月)
- (5) 山形県環境エネルギー部山形県環境審議会委員(2016年5月～2017年4月)
- (6) 山形県環境エネルギー部やまがた緑環境税事業評価・検証プロジェクトチーム委員兼ワーキンググループ(森林整備部門)委員(2015年6月～2017年3月)
- (7) 山形県農林水産技術会議委員(2015年7月～2017年6月)
- (8) 山形県農林水産部ナラ枯れ被害拡大防止検討委員会座長(2016年4月～2017年3月)
- (9) 鶴岡市農林水産部森林公園「ケヤキの森」がっこう実施事業検討委員会アドバイザー(2014年7月～2017年3月)
- (10) 鶴岡市環境つるおか推進協議会監事(2015年5月～2017年3月)
- (11) 「森と水と人とバイカモ」について講演:遊佐町・山形県・やまがた公益の森づくり支援センター主催・酒田市四季の森しらい自然館(平成28年6月4日)
- (12) 「春から初夏の植物観察」について講演:NPO法人公益のふるさと創り鶴岡主催・鶴岡市森林公園ケヤキの森(平成28年6月12日)
- (13) 「熊野長峰の森を知る」について講演:鶴岡市立上郷小学校・鶴岡市主催・鶴岡市熊野長峰(平成28年7月7日)
- (14) 「森づくりのための天然苗のお引越」について講演:鶴岡市立あさひ小学校・東北森林管理局朝日森林生態系保全センター主催・鶴岡市大鳥国有林(平成28年7月14日)
- (15) 「森林ボランティアと森林保全」について講演:山形県森林研究研修センター主催・山形県西川町山形自然博物館(平成28年7月16日)
- (16) 「グリーンベルト(海岸林)に期待される機能と保全の意義」について講演:砂丘地砂防林環境整備推進協議会主催・山形県遊佐町西遊佐まちづくりセンター(平成28年年9月9日)
- (17) 「水源の森づくり」について講演:鶴岡市立あさひ小学校・月山ダム水源地域ビジョン推進会主催・鶴岡市湯殿山スキー場(平成28年年10月3日)
- (18) 「動如山?(動くこと山の如し)ー地面の変化と植物動態の相互関連ー」について講演:新潟明訓高等学校主催・新潟市新潟明訓高等学校(平成28年10月12日)
- (19) 「水源の森づくり」について講演:東北ダム事業促進連絡協議会管理研究部会主催(第8回みちのくダム湖サミット in 月山)・鶴岡市東京第一ホテル鶴岡(平成28年10月13日)
- (20) 「広葉樹の森づくり」について講演:鶴岡市農林水産部主催・鶴岡市熊野長峰(平成28年11月3日)
- (21) 公開シンポジウム「震災6年目のボランティア」を開催:平成28年11月6日、場所:山形大学農学部3号館301講義室、参加人数30人
- (22) 「汀線近くの地表攪乱についての海岸林保全上の懸念」について講演:特定非営利活動法人庄内海岸のクロマツ林をたたえる会主催(第12回クロマツシンポジウム)・酒田市出羽遊心館、(平成28年12月25日)
- (23) 「冬芽観察ー冬のケヤキの森を楽しもうー」について講演:NPO法人公益のふるさと創り鶴岡主催・鶴岡市森林公園ケヤキの森(平成29年2月19日)

- (24) 「市民ボランティアによる「みどり」環境の保全」について講演:公益財団法人山形県みどり推進機構 主催・山形県高度技術研究開発センター(山形市)(平成29年2月27日)
- (25) 公開イベント「6年目のCandle Night」を開催:平成29年3月10～11日、場所:鶴岡アートフォーラム、参加人数:350人

芦谷 竜矢

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本木材学会
- (2) 日本化学会
- (3) 日本木材加工技術協会
- (4) 東北森林科学会, 財務理事
- (5) 国際化学生態学会

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第67回日本木材学会大会・口頭発表座長(抽出成分部門3件):福岡市
- (2) 日本木材学会大会・抽出成分利用研究会講演会座長(1件):福岡市

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal Wood Science (日本), 1件
- (2) Journal of General Plant Pathology (日本), 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県森林研究研修センター アドバイザリーボード 平成28年度
- (2) 東北森林管理局 技術開発委員会委員 平成28年度
- (3) 東北森林管理局 平成28年度森林・林業技術交流発表会 審査副委員長 平成29年2月1日・2日

ロペス・ラリー

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会(2011年～)
- (2) European Geoscience Union (2016年～)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 第4回モンゴル共同シンポジウム・大会委員長International Symposium on “Differentiating the impact of climate and socio-economical changes on natural ecosystems in Mongolia: prevention vs Adaptation”. Ulaanbaatar, Mongolia (平成29年3月6日～平成29年3月8日).

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 農学部附属演習林における一年間三回小・中学生のための森の学校を開催しました。
- (2) ドイツのハノーバー大学の学生交流の受け入れの時に市民のホームステイと交流。

林 雅秀

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会
- (2) 日本社会学会

- (3) 林業経済学会
- (4) 東北森林科学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Forest Policy and Economics(米国) 1件
- (2) 林業経済研究 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県緑県民会議委員(平成28年度)
- (2) 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員(平成28年度)

江成広斗

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本哺乳類学会(哺乳類科学編集委員、哺乳類保護管理専門委員会 委員)
- (2) 日本生態学会(Ecological Research 編集委員)
- (3) 「野生生物と社会」学会(「野生生物と社会」編集委員)
- (4) 日本霊長類学会(保全・福祉担当幹事)
- (5) The Wildlife Society

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第3回東北野生動物管理研究交流会・大会長:宮城県仙台市(平成28年11月12日)

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Ecological Research(日本) 多数 ※編集委員のため
- (2) 野生生物と社会(日本) 多数 ※編集委員のため
- (3) Restoration Ecology(英国) 1本

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県 特定鳥獣保護管理検討委員会委員(2013年～現在)
- (2) 山形県環境科学研究センター アドバイザリー・ボード(2014年～現在)
- (3) 環境省 ニホンザル保護管理検討会 委員(2012年～現在)
- (4) 山形県農林水産部 鳥獣被害指導者養成研究会(2014年～現在)
- (5) 山形県高等学校教育研究会理科部会田川地区研究会(鶴岡市中央高校)2016年5月18日

水土環境科学コース

藤井秀人

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本雨水資源化システム学会 評議員(2007～現在)
- (2) 農業農村工学会(1983～現在)
- (3) 水文水資源学会(1994～現在)
- (4) 日本熱帯農業学会(1987～現在)
- (5) 日本雨水資源化システム学会(1988～現在)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Disaster Research(Japan),1件
- (2) 農業農村工学会, 2件
- (3) 水文水資源学会, 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 西郷北部地区経営体育成基盤整備事業推進委員会環境情報部会座長:西郷土地改良区(2016年4月～2017年3月)
- (2) 平成28年度海外技術協力検討事業(ライフサイクルコスト低減型整備検討調査)委員:日本水土総合研究所(2016年5月～2017年3月)
- (3) 平成28年度 流通加工連携農業農村開発調査業務(アジア地域)国内検討委員会委員:日本水土総合研究所(2016年5月～2017年3月)
- (4) 平成28年度 流通加工連携農業農村開発調査業務(アフリカ地域)国内検討委員会委員:日本水土総合研究所(2016年5月～2017年3月)
- (5) 平成28年度「山形大学農学部公開講座:「庄内を潤す水土里の恵み」講演「庄内平野の農業用水と雪—地球温暖化の影響は?」(2016年6月4日)

奥山武彦

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) (公社)日本地すべり学会(理事H16～, 副会長H28～)
- (2) (公社)農業農村工学会
- (3) (公社)土木学会
- (4) (公社)地盤工学会(災害連絡会議地方連絡委員)

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 財団法人日本水土総合研究所客員研究員(28.5.10～29.3.31)
- (2) 東日本高速道路株式会社東北支社山形地域技術懇談会委員(28.6.30～30.3.31)
- (3) 農林水産省農村振興局 官民連携新技術研究開発事業審査委員会委員(26.8.30～29.8.29)
- (4) 平成28年度地すべり調査意見聴取会委員(28.9.21～29.3.31)
- (5) 平成28年度東北支社地すべり等のり面対策技術検討会委員(28.10.7～29.3.31)
- (6) 平成28年度庄内あさひ地区地すべり対策技術検討委員会委員長(28.10.18～29.3.31)
- (7) 2016年6月18日 山形大学公開講座 庄内の水はどこから?
- (8) 2017年2月21日 出張講義 山形中央高等学校 やまがたの大地

安中武幸

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会(代議員2013～現在)
- (2) 土壌物理学会(評議員2015～現在)
- (3) 日本砂丘学会
- (4) 日本土壌肥料学会
- (5) 地盤工学会
- (6) アメリカ土壌科学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition 1件
- (2) 土壌の物理性 2件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者(2016年度)
- (2) 「庄内砂丘地に発生した長期湛水(2011年夏～秋)を考える」について講演:山形大学農学部公開講座(平成28年6月11日)
- (3) 「土のはなし」について講演:新潟県立新津高等学校文化講演会(平成28年10月6日)
- (4) 第22回庄内社会基盤技術フォーラム開催(平成29年1月25日)

2-③ 学会賞受賞等

- (1) Award of Excellent Poster Presentation at the 8th ICERD: Reducing cadmium and copper uptake of soybeans by controlling groundwater level and its impacts on growth and yield(平成29年2月25日)

石川 雅也

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) ICID(国際灌漑排水協会、国内推進委員会委員 2003年4月1日～現在)
- (2) 農業農村工学会(資源循環研究部会幹事 2003年4月1日～現在)
- (3) 農業農村工学会(水田農業地域の農業用水における有効利用に関する分析調査検討委員会委員 2005年7月1日～現在)
- (4) PAWEES(国際研究集会国内実行委員会委員 2005年2月1日～現在)
- (5) (財)日本水土総合研究所(客員研究員 2006年11月27日～現在)
- (6) 山形県土地改良事業団体連合会・舟形地区集排汚泥利活用検討委員会(委員長 2011年11月29日～現在)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Paddy and Water Environment(ドイツ) 4件
- (2) 農業農村工学会資源循環研究部会研究発表会論文(日本) 2件
- (3) 農業農村工学論文集(日本) 1件
- (4) 農村計画論文集(日本) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県土地改良事業団体連合会主催・土地改良区役職員研修会コーディネータ(平成29年2月1日・2日)

花山 奨

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会
- (2) 土壌物理学会
- (3) 日本土壌肥料科学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 公開講座「庄内を潤す水土里(みどり)の恵みーリンから見た水田の世界ー」の開催
2016年6月11日、場所:山形大学農学部

渡部 徹

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 土木学会(1998～現在, 東北支部幹事2010～現在)
- (2) 日本水環境学会(1998～現在, 東北支部幹事2015～現在)
- (3) Society for Risk Analysis(2009～現在)
- (4) International Water Association(2000～現在)
- (5) 農業農村工学会(2011～現在)
- (6) 日本エコヘルズ研究会(2013～現在, 事務局担当2013～現在)

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 土木学会平成28年度全国大会実行委員会委員:2016年9月7日～9日, 東北大学川内北キャンパス

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) African Journal of Microbiology Research(Academic Journals, モーリシャス) 1件
- (2) BMC Research Notes(BioMed Central, 英国) 1件
- (3) BMC Microbiology(BioMed Central, 英国) 1件
- (4) Journal of Water and Environment Technology(日本水環境学会, 日本) 1件
- (5) Rice Science(Elsevier, オランダ) 1件
- (6) SpringerPlus(Springer, 英国) 3件
- (7) Science of the Total Environment(Elsevier, オランダ) 3件
- (8) Journal of Water, Sanitation and Hygiene for Development(IWA Publishing, 英国) 1件
- (9) Water(MDPI, スイス) 1件
- (10) Water Environment Research(WEF, 米国) 1件
- (11) Water Research(Elsevier, オランダ) 4件
- (12) 土木学会論文集(土木学会, 日本) 3件
- (13) 水環境学会誌(日本水環境学会, 日本) 1件
- (14) International Journal of Environment and Pollution(Inderscience Publishers, 英国) 1件
- (15) Journal of Environmental Engineering(ASCE, 米国) 1件
- (16) Journal of Water and Health(IWA Publishing, 英国) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県立鶴岡南高等学校 スーパーサイエンスハイスクール事業への協力(2013年4月～現在)
- (2) 日本下水道新聞におけるエッセイ「エアレーション」(2016年5月～10月, 計5回)

- (3) 平成28年度山形大学公開講座「庄内を潤す水土里(みどり)資源」の講師:2016年6月4日, 山形大学農学部, 45名
- (4) 日本下水道新聞における座談会「下水道は地域に貢献する産業になりうるのか」(2016年7月20日付)
- (5) 山形県上下水道安全運転管理協議会研修会での講演:2016年7月26日, 鶴岡浄化センター, 約20名
- (6) 平成28年度教員免許状更新講習の講師:2016年8月5日, 山形大学農学部, 9名
- (7) JICA研修「湖沼の環境管理」における講師:2016年8月19日, 地球環境戦略研究機関(IGES)東京事務所, 13名
- (8) JICA課題研修「アフリカ地域稲作処理後コース」における講師:2016年8月23日, 山形大学農学部, 18名
- (9) JA鶴岡平成28年度水稲作柄調査検討会での研究紹介:2016年9月5日, 鶴岡浄化センター, 約50名
- (10) 技術士会山形県支部現場見学会での研究紹介:2016年10月14日, 鶴岡浄化センター, 約20名
- (11) BISTRO下水道in霧島・鹿児島高専における講演:2016年10月22日, 鹿児島工業高等専門学校, 115名
- (12) トピック【GKP広報大賞】=山形県県土整備部下水道課編集「山形県の下水道」(2016年12月発行)での紹介
- (13) 水道産業新聞発行「明日の下水道」(2017年1月号)における特別企画「下水道資源市場における開拓者たち」へのインタビュー記事掲載
- (14) 水道公論における座談会「資源の循環は笑顔の循環」(2017年2月号)
- (15) 鶴岡浄化センターにおける飼料用米栽培研究開始に関するニュース(2016年5月24日放送, NHK, さくらんぼテレビ, テレビユー山形)
- (16) 鶴岡浄化センターの試験水田での稲刈りに関するニュース(2016年10月6日放送, NHK)
- (17) 鶴岡浄化センターにおける飼料用米栽培研究開始に関する記事掲載(2016年5月25日付, 朝日新聞, 毎日新聞, 山形新聞, 河北新報, 荘内日報)
- (18) 鶴岡浄化センターの試験水田での稲刈りに関する記事掲載(2016年10月7日付, 読売新聞, 山形新聞, 荘内日報)
- (19) 下水処理水を用いた飼料用米栽培に関する研究紹介記事掲載(朝日新聞, 2016年6月19日付, 根ほり葉ほり)
- (20) 下水処理水を用いた飼料用米栽培に関する研究紹介記事掲載(朝日新聞, 2016年8月17日付, 秋田さきがけ新報, 南日本新聞他(共同通信社による記事発信))
- (21) 日本下水道新聞における特集「広がる下水道の資源利用」における研究紹介(2016年10月19日付)
- (22) 寄付講座「アジアの水・食・健康リスク講座」開設に関する記事掲載(2017年2月22日付, 山形新聞)

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 平成27年度土木学会東北支部技術開発賞・対象論文『下水処理水の連続灌漑による飼料用米の栽培』(共著者:Pham Duy Dong, 倉島須美子, 加来伸夫)(2016年5月)
- (2) 第4回GKP広報大賞(報道部門賞)・対象事例『下水処理水再利用による飼料用米栽培に関する研究』(渡部徹研究室として)(2016年7月)
- (3) Best Poster Award at The 12th International Symposium on Southeast Asian Water Environment・対象論文『Cultivation of rice for animal feeding with continuous irrigation of treated municipal wastewater』(共著者:Pham Duy Dong, 倉島須美子, 浦剣)(2016年11月)

渡邊 一哉

2-① 学会活動

2-①-①(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会 正会員 農村生態工学研究部会 幹事
- (2) 日本生態学会 正会員
- (3) 環境情報センター 正会員
- (4) 自然復元学会 正会員

(5) 応用生態工学会 正会員

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

(1) 環境情報センター 環境情報論文集 査読依頼1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

(1) 最上川流域委員会 委員 2014.4～

(2) 最上川流域小委員会 委員 2014.4～

(3) 東北リバーカウンセラー(赤川) 委員 2015.4～

(4) 赤川懇談会 委員 2014.4～

(5) 山形県総合評価委員会 委員 2014.4～

プロジェクト教員

中坪あゆみ

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本草地学会
- (2) 農業食料工学会
- (3) 農業食料工学会東北支部
- (4) 日本リモートセンシング学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「スマート・テロワール形成に向けた新たな取組 庄内地域における山形大学の取組について」の講演:山形大学農学部・(一社)山形県農業会議主催:平成28年度庄内スマート・テロワール戦略講演会(平成28年7月21日:鶴岡市)
- (2) 「食料自給圏(スマート・テロワール)形成に向けた山形大学の取り組みについて」の講談と実証展示園視察の受け入れ:鶴岡市食生活改善推進協議会(平成28年9月5日:鶴岡市)
- (3) 「寄附講座「食料自給圏スマートテロワール形成講座」の取り組みについて」の講演:山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会主催:スキルアップ研修会(平成28年12月6日:鶴岡市)
- (4) 「食料自給圏(スマート・テロワール)形成に向けた山形大学の取り組みについて」の講義:(公財)やまがた農業支援センター主催:新規就農者集合研修(平成29年2月22日:山形市)
- (5) 「『スマート・テロワール』実証展示園 ～実践と展望～ 住民の美食革命が畜産の飼料問題を変える」について講演:(公社)農林水産・食品業技術振興協会主催:新品種産業化研究会(平成29年3月3日:東京都)

③産学官など国内他機関との連携研究実績

(研究費を受けていない場合も含む)

安全農産物生産学コース

西澤 隆

- (1) (連携ユニット)ミニトマト研究ユニット・庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室(平成28年4月～平成29年3月)

藤井弘志

- (1) コニカミノルタ、ヤンマー、伊藤電子工業:ドローンによる圃場生育評価と無人ヘリによる可変追肥システムを利用した水稻の収量・品質改善について

浦川 修司

- (1) トヨタ自動車株式会社:寒冷地水田における飼料用イネ新系統の適応性の評価と飼料特性の解明に関する共同研究, 2016年4月～2017年3月

堀口健一

- (1) 鶴岡市「竹粉の効果検証」2016年6月～

小笠原宣好

- (1) 八幡平市:リンドウの生育特性に関する研究, 2015年4月～2018年3月

長谷 修

- (1) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 野菜花き病害研究ユニット, 2012年4月～継続

小林 隆

- (1) 農林水産省革新的技術開発・緊急展開事業「地域戦略プロジェクト」
- (2) 農林水産省委託プロジェクト研究「気候変動対策」

森 静香

- (1) (独)理化学研究所(鶴岡):潮風害を受けた水稻のメタボローム解析に関する連携研究、2016年4月～2017年3月
- (2) 山形県、鶴岡市、香蘭産業(株):未利用資源の資材化に関する連携研究、2016年4月～2017年3月
- (3) (独)理化学研究所:水稻における塩耐性系統の塩分付着害に関する連携研究、2016年4月～2017年3月

- (4) サカタのタネ(株)、(株)サミュエルインターナショナル:「ケイ酸吸収促進液肥」に関する連携研究、2016年4月～2017年3月
- (5) コニカミノルタ、ヤンマー、伊藤電子工業:ドローンによる圃場生育評価と無人ヘリによる可変追肥システムを利用した水稻の収量・品質改善について、2016年4月～2017年3月

佐藤 智

- (1) 株式会社ドーキ・ソリューション:スリップす防除機の評価に関わる研究、平成28年10月～平成29年7月
- (2) 農林水産省:生物多様性を活用した安定的農業生産技術の開発、平成24年4月～平成30年3月

佐々木由佳

- (1) 名古屋大学大学院生命農学研究科:SATREPS(テラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)
- (2) 珪酸石灰肥料協会:水稻のケイ酸吸収に対するケイカルの施用効果試験
- (3) 鶴岡工業高等専門学校:画像解析による植物の生育状況の評価に関する研究
- (4) 真室川町、JA真室川:飼料と稲を用いた畜産を核とする農業生産サイクルの構築

松本大生

- (1) 山形県:サクラ属果樹の自家不和合性機構に関する連携研究、2016年4月～2017年3月
- (2) 朝日町アケビ生産組合:栽培アケビの生殖生理に関する研究、2014年4月～現在

食農環境マネジメント学コース

岩鼻 通明

- (1) 日本遺産認定にともなう羽黒山における観光客実態調査(COC+ 鶴岡市との連携研究)

小沢 亙

- (1) 地域定住農業者育成コンソーシアム事務局長

家串哲生

- (1) 尾碕亨・樋元淳一・家串哲生:青果物の計量販売への転換による物流改革と効果に関する実証的研究、2015-2019年度

藤科智海

- (1) 農林水産省受託研究:多雪平野景観北日本における代表種の選定と生息条件に及ぼす農法の影響解明、2013年06月～継続中
- (2) 平成28年度「地(知)の拠点整備事業」地域志向教育研究経費:耕種農家と畜産農家の耕畜連携による農業生産サイクルの構築—コントラクターの発展過程とオペレーターの畜産経営との関係—(真室川町との連携)、2016年8月～2017年3月

食品・応用生命科学コース

三橋 渉

- (1) 鳥取大学乾燥地研究センター平成28年度共同研究「植物ホルモン・アブシジン酸による植物細胞周期新規制御機構の検討」、平成28年4月1日～平成29年3月31日

永井 毅

- (1) 遊佐町：地域産品を活用した加工食品開発

加来伸夫

- (1) 山形県自動車販売店リサイクルセンター：資源リサイクルに関する研究(2010年～現在)
- (2) (株)エコハイテックコーポレーションおよび(有)拓芯：浄水発生土乾燥物の有効活用に関する研究(2013年～現在)

渡辺昌規

- (1) 株式会社三和油脂：平成28年度JST研究成果展開事業マッチングプランナープログラム「企業ニーズ解決試験」(採択、研究開発費1,700千円)
- (2) 株式会社三和油脂、株式会社サタケ、株式会社岡安商店「米副産物からのリン成分・高純度タンパク質の同時回収・精製プロセスの開発に関する研究」(秘密保持、共同研究契約締結済)
- (3) 広島県立総合技術研究所 食品工業技術センター「米表層タンパク質組成の任意制御による米の高品質化に関する研究」(秘密保持契約準備中)
- (4) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 連携研究ユニット「米の食味・物性評価用マーカー開発研究ユニット」県農業総合研究センター水田農業試験場 水稲部長 中場勝
- (5) 三菱ガス化学株式会社「高純度米由来タンパク質・リン連続回収プロセスの当社開発品への適用可否検討」(受諾研究、研究開発費78千円(平成28年度分))

植物機能開発学コース

俵谷圭太郎

- (1) 農林水産省農林水産技術会議事務局：「イネの低コスト化・省力化・環境負荷低減に資する有用遺伝子の同定とDNAマーカーの開発」
- (2) 科学技術振興機構：「共生ネットワークの分子基盤とその応用展開」

村山秀樹

- (1) 山形県農林水産部と「りんご研究」連携ユニットならびに「西洋なし品種開発・生理研究ユニット」連携ユニットで研究活動

江頭宏昌

- (1) H28～山形県庄内産地研究室、近赤外分光法を利用したエダマメ栽培技術向上支援
- (2) H28～山形県園芸試験場、在来カブのDNA多型分析

- (3) H28～山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会、やまがた日本一えだまめ産地化を目指した新品種開発
- (4) H28～山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会、世界一えだまめ研究

程 為 国

- (1) 山形県農業総合研究センター：農耕地からの温室効果ガス削減技術の研究、2016年4月～2017年3月
- (2) 農業環境技術研究所：地球温暖化に関する研究、2016年4月～2017年3月

笹沼恒男

- (1) 岡山大学資源植物科学研究所；旧ソ連圏及び中国で採集したムギ類遺伝資源の多様性解析と育種利用に関する共同研究、2010年6月～現在
- (2) 岡山大学農学部：東アジアのムギ類遺伝資源の調査研究：2011年4月～現在
- (3) 三栄源エフ・エフ・アイ株式会社：ベニバナの品種内多様性に関する研究、2013年10月～現在
- (4) 農研機構西日本農業研究センター：野生種を含むムギ類遺伝資源の製パン性に関する研究、2016年1月～現在
- (5) 大江町：青苧のルーツを探るゲノム解析、2016年10月～現在

星野友紀

- (1) 山形県農業総合研究センター 水田農業試験、平成25～、「つや姫突然変異集団の作出と高付加価値のための遺伝資源の創出に関する研究」、共同研究
- (2) (公財)不二たん白質研究振興財団 一般研究助成、平成27～28、「エダマメ品種ダダチャマメの良食味を司る遺伝子座の探索・ダイズ-ダダチャマメF2集団を用いたエダマメの食味を左右する糖質制御遺伝子群の同定」、研究代表、2,000千円
- (3) 山形大学「地(知)の拠点整備事業(COC)」地域志向教育研究、平成27～、「日本一の産地化を目指した山形ブランド新エダマメ品種の開発」、研究代表、450千円
- (4) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 連携研究ユニット、平成27～、「やまがた日本一えだまめ産地化を目指した新品種開発ユニット」、研究代表
- (5) 農業・食品産業技術総合研究機構 次世代作物開発研究センター 基盤研究領域 育種素材開発ユニット、平成27～、「イネ穂発芽耐性遺伝子の単離と機能解明に関する研究」、共同研究
- (6) (公財)戸部真紀財団 研究助成、平成28、「非遺伝子組換えによる山形ブランド米「つや姫」の良食味強化」、研究代表、1,000千円
- (7) (公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団 学術研究助成、平成28、「メタボローム解析を用いたエダマメの香りを制御する分子メカニズムの解明」、研究代表、1,500千円
- (8) (公財)タカノ農芸化学研究助成財団 研究助成若手研究者部門、平成28、「非遺伝子組換え法を用いたダイズ開花期の改良によるエダマメ生産力強化」、研究代表、500千円
- (9) (公財)インテリジェント・コスモス学術振興財団 第15回奨励賞、平成28、「日本一の産地化を目指した新ブランドエダマメ品種の開発」、研究代表、200千円
- (10) (公財)浦上食品・食文化振興財団 学術研究助成、平成28～29、「日本人の食嗜好に最適化した水稻品種「つや姫」の良食味ファインチューニング」、研究代表、3,000千円
- (11) 丸善食品(株)山形大学農学部地域産学官連携プロジェクト事業 平成28～、「循環型地域社会の実現を目指した豚肉骨粉施肥によるエダマメ食味向上の検討」 研究代表、450千円

及川 彰

- (1) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会・おうとう良食味成分育種研究ユニット(2016.6～2017.3)
- (2) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会・西洋なしの渋味に関するDNAマーカー開発研究ユニット(2016.6～2017.3)

網干 貴子

- (1) 山形県農業総合研究センター: スイカの瓜臭制御技術開発のための瓜臭発生および抑制機構の研究

森林科学コース

野堀嘉裕

- (1) 野堀嘉裕(2016)「森林整備によるクロマツ林内へのショウロの誘導と特産品化」学校法人天真学園ボランティアサークルとの共同調査、平成27年度
- (2) 野堀嘉裕(2016)銀杏栽培樹木の年輪情報からの樹齢特定及び着果年特定、農事組合法人つくば銀杏生産組合との共同調査

森 茂太

- (1) 青森県平内町林業研究グループ 平内ヒバ研究会、滝の沢林業研究グループとのヒバの持続的省力化施業に関する研究
- (2) 弘前大学遺伝子研究施設の赤田辰治氏とのブナ実生のストレス誘導遺伝子に関連した個体生理の共同研究
- (3) 山形大学農学部村山秀樹教授との個体生理学に関する共同研究、果実の研究で科学研究の分担を行う。
- (4) 豊橋技術科学大学足立忠晴教授との「呼吸速度と組織強度の関係解明」の共同研究
- (5) 京都大学生態学研究センター 石田厚教授との科研共同研究(分担1課題)
- (6) 静岡大学 吉村仁教授、横沢正幸教授との生物多様性に関する理論の共同研究。共著論文が掲載された。
- (7) 筑波大学環境科学研究科 山路恵子准教授との共同研究でエンドファイト感染による個体呼吸シフトのメカニズム解明に関する研究。
- (8) 山形大学農学部 星野准教授との共同研究でイネ品種間の呼吸特性の比較研究。

林田光祐

- (1) やまがた絆の森(楽天の森)協定書に基づき、楽天株式会社と山形県林業公社・山形県と連携して、烏海山麓のイヌワシ保全を目的とした森林整備を行い、その効果を検証する役割を担う研究責任者(2014.7～2019.3)

菊池 俊一

- (1) 一般財団法人前田一步園財団: 阿寒川水系の水と森林に関わる調査研究、2004年6月～2017年3月

芦谷竜矢

- (1) 山形県: 竹林管理とタケノコ成分についての研究, 継続中
- (2) 九州大学: 樹木成分化学についての研究, 継続中
- (3) 秋田県立大学木材高度加工研究所: 木質材料の化学加工についての研究, 継続中
- (4) 九州環境管理協会: 樹木成分によるアオコ抑制についての研究, 継続中
- (5) 大江町: 精油成分の分析, 継続中

江成 広斗

- (1) 森林研究研修センター: 森林野生獣類の総合的管理研究交流活動ユニット 平成26年度から現在

水土環境科学コース

石川雅也

- (1) 大規模灌漑事業の持続性および農村地域社会の開発効果に関する共同研究(海外科研B、東大・筑波大・北里大・弘前大・山形大・三重大)

渡部 徹

- (1) 東北大学, 宮城県保健環境センター, 東京大学, 熊本大学: 迅速・高精度・網羅的な病原微生物検出による水監視システムの開発, 2011年10月～2017年3月
- (2) 東京大学, 愛媛大学: 気候・社会・生態系の変動に対応した感染症リスク評価モデルの構築, 2014年4月～2017年3月
- (3) 金沢大学, 岩手大学: 水中の薬剤耐性菌による健康影響評価手法の開発と水再利用へのその適用, 2014年4月～2017年3月
- (4) 東京工業大学, 熊本大学: 持続可能な養殖漁業を支える森から海への有機物と微量必須金属の輸送メカニズム, 2015年4月～現在
- (5) 金沢大学, カセサート大学: 遺伝子解析にもとづく熱帯アジアの下廃水処理施設における薬剤耐性菌の挙動解明, 2015年4月～現在
- (6) 東京工業大学, カンボジア工科大学: トンレサップ湖における環境保全基盤の構築, 2015年6月～現在
- (7) 東京工業大学, カセサート大学(タイ), カンボジア工科大学: 都市の水資源管理に関するアジアの研究教育基盤モデルの構築, 2015年9月～現在
- (8) 愛媛大学, 京都大学, 筑波大学: 多剤耐性遺伝子の環境中残存機構と人への暴露リスク評価, 2016年4月～現在
- (9) 鈴鹿医療科学大学, 広島文化学園大学, 国際連合大学, 東北大学: タートルアン湿原の自然浄化作用がラオス首都圏の環境衛生に果たす役割, 2016年4月～現在
- (10) 鶴岡市, JA鶴岡: 下水処理水再利用による飼料用米栽培に関する研究, 2016年4月～現在
- (11) 東京大学, 愛媛大学: 開発途上国大都市の健康課題解決: デング熱発症警報システムの構築を中心として, 2016年12月～2017年3月

渡邊 一哉

- (1) Yell-Stream プロジェクト : 山形県内水面水産試験場と連携研究

④海外研究者との研究活動

安全農産物生産学コース

西澤 隆

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) シエレバングラ農業大学(バングラデシュ) Tuhin Suvra Roy:「バングラデシュに於ける種子生産性ジャガイモに関する研究」
- (2) チェンマイ大学科学技術研究所(タイ) Wilawan Kumpoun:「マンゴーの生理障害に関する研究」

堀口 健一

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2016年7月 中国(延辺大学) 研究交流

長谷 修

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2017年3月 モンゴル(ウランバートル):岩手連大、モンゴル生命科学大学国際シンポジウム(International Symposium on "Differentiating the impact of climate and socio economical changes on natural ecosystems in Mongolia: prevention vs. adaptation")で講演発表。タイトル:Beneficial microbes for crop protection

佐々木由佳

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2016年6月18日～6月30日、ケニア:SATREPS(テラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)に関する大学院生研究指導、現地研究打ち合わせ
- (2) 2015年1月4日～1月14日、ケニア:ベトナム国家農業大学、食-農-環境連携を担うグローバル人材育成事業 オータムスクール・ベトナム
- (3) 2016年11月29日～12月18日、ケニア:SATREPS「テラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト」に関する大学院生研究指導と現地研究打ち合わせ、食-農-環境連携を担うグローバル人材育成事業 ケニア・ウインタースクール引率

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) ケニア、SATREPS(テラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)、共同研究者:Ministry of AgricultureのMr. Johnson Irungu Waithaka, Kenya Agricultural Research Institute (KARI), MweaのMr. John Kimani, Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology (JKUAT)のMr. Hunja Murage, Maseno UniversityのMr. John Collins Onyango, Natinal Irrigation Board (NIB), Mwea Irrigation Agriculture Development Centre (MIAD)のMr. Raphael Wanjogu、2012年～

食農環境マネジメント学コース

岩鼻通明

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2016年4月 韓国・釜山において伝統文化を通じた地域活性化に関する調査

- (2) 2016年5月 韓国・ソウルにおいて映画を通じた地域活性化に関する調査
- (3) 2016年10月 韓国・釜山において映画を通じた地域活性化に関する調査

角田 毅

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2016年10月 ベトナム:オータムスクール
- (2) 2016年12月 ケニア:ウィンタースクール
- (3) 2017年3月 ベトナム:日本の農業法人の海外進出に関する調査

食品・応用生命科学コース

塩野義人

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2016年8月 インドネシア:熱帯植物から分離した菌類の生理活性物質の探索源の可能性について

渡辺昌規

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2016年7月27, 28日 JASSO留学フェア(Study in Japan Fair 2016)バンコク 出展担当
- (2) 2016年7月29-31日 タイ・チェンマイ大学:ショートステイプログラム事前打ち合わせ、学生面談の実施
- (3) 2016年9月13-21日 タイ・チェンマイ大学:ショートステイプログラムの実施(教職員3名、学生8名)
- (4) 2016年9月13-21日 タイ・チェンマイ大学:農産廃棄物の再資源化に関する研究打ち合わせ(日本学術振興会(JSPS-CCP)派遣研究員として, Chonburi, Thailand)

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) バイオマスエネルギー生産に関する共同研究(三菱ガス化学(株)北原義孝氏、チェンマイ大学学科長 Noppol Leksawasdi氏との共同研究)
- (2) 亜熱帯性微生物を用いた新規発酵技術の開発とその事業化に関する共同研究(JSPS研究拠点形成事業Core to core (CCP) Program, チェンマイ大学農工学部長Charin Techapun氏、神戸大学農学部教授竹中慎治氏との共同研究)(2014~2018)(平成26年3月採択)
- (3) 山形大農学部・チェンマイ大学農産学国際共同研究契約締結(締結日:平成29年1月4日)

4-③ 国際研究集会の開催

- (1) The 4th International Conference of Food and Applied Bioscience (ICFAB). Scientific Committee member, co-host organaizer

植物機能開発学コース

俵谷圭太郎

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2016年9月 インドネシア:日本学生支援機構平成28年度外国人留学生研究指導事業

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2016年11月 インドネシアの熱帯林の修復に関する共同研究(インドネシア環境林業省Turjaman博士との共同研究)

村山秀樹

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2016年4月 ドイツ・ライプニッツ・ハノーヴァー大学とダブルディグリーに関する打ち合わせ
- (2) 2016年8月 インドネシア・ガジャマダ大学, タイ・チェンマイ大学と大学間交流

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2016年11月 インドネシアの熱帯林の修復に関する共同研究(インドネシア環境林業省Turjaman博士との共同研究)

程 為国

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 中国・華中農業大学、2016年9月10日～16日
- (2) 中国・安徽省農業科学院と西南林業大学(昆明)、2016年10月8日～14日

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2013年01月から、中国科学院大気物理研究所XU Xingkai教授と一緒に「森林生態系における炭素・窒素の動態に及ぼす土壌凍結の影響」共同研究を行なっている

笹沼恒男

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2016年7月 アルメニア: ムギ類及び野生ペニバナを中心とする植物遺伝資源調査

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) ロシア・旧ソ連圏のムギ類を中心とする植物遺伝資源の多様性解析と育種利用に関する共同研究(バビロフ研究所T.N.Smekalova博士、O.N. Kovaleva博士との共同研究): 2010年6月～現在
- (2) 中国におけるムギ類を中心とする植物遺伝資源の多様性解析と育種利用に関する共同研究(中国科学院 龍春林博士との共同研究): 2015年8月～現在
- (3) イネの健康成分の分析とその増加法に関する共同研究(シエラレオネNjala大学 J.S.Kamara博士との共同研究): 2015年12月～現在

網干貴子

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) ストレスにより誘導されるイネの防御代謝物の研究(コーネル大学教授ジェンダー氏との共同研究)

森林科学コース

野堀嘉裕

4-① 国際研究集会の開催

- (1) 国際交流協定に基づくシンポジウムの実施、モンゴル生命科学大学、2016年3月6-7日

森 茂太

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) ミニューメキシコ大学のJH Brownよりデータ送付依頼を受けた。これは個体呼吸の系統間差を検討するUKのReading大学のプロジェクトの分析に利用するためである。
- (2) スペイン レリダ大学との共同研究の継続をすすめている。

芦谷竜矢

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2017年1月 スウェーデン:テルペノイドの分析と生物活性に関する研究打ち合わせ

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2017年1月 テルペノイドの分析と生物活性に関する研究打ち合わせ(ストックホルム大学Mozuraitis博士, 王立工科大学 Borg Karlson教授)

ロペス・ラリー

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)(JST) 代表者
課題名: 東北地方の農業と林業の開発と管理・期間: 平成28年1月 金額: 2,400千円
- (2) 2016年8月、モンゴルにおけるモンゴル生命科学大学とのサマー・スクールに山形大学の教職員2名 学生8名参加。

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2016年7月 モンゴル南部の砂漠化に関する共同研究(モンゴル生命科学大学、教授Byambasuren氏との共同研究)
- (2) 2016年4月 日本の庄内地方における雪解けのモデルに関する共同研究(ハノーバー大学、教授 Bukhard氏との共同研究)

4-③ 国際研究集会の開催

- (3) 第4回モンゴル共同シンポジウム・大会委員長International Symposium on “Differentiating the impact of climate and socio-economical changes on natural ecosystems in Mongolia: prevention vs Adaptation”. Ulaanbaatar, Mongolia (平成29年3月6日～8日). の開催(会場: Ulaanbaatar、参加国数: 2、参加人数: 60)

水土環境科学コース

藤井秀人

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2016年8月 カンボジア: SATREPS「トンレサップ湖における環境保全基盤の構築」プロジェクト会議
- (2) 2016年9月 カンボジア: SATREPS「トンレサップ湖における環境保全基盤の構築」国際シンポジウム 発表
- (3) 2017年3月 カンボジア: SATREPS「トンレサップ湖における環境保全基盤の構築」現地調査

石川雅也

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2016年12月 台湾大学・甘俊二名誉教授、醒吾技術学院(中華民国)・張煜權准教授との研究調査

- (2) 2017年2月 ブラビィジャヤ大学・Eri Suhartanto准教授との研究調査

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2016年7月 大規模灌漑事業の持続性および農村地域社会の開発効果に関する共同研究(台湾大学・甘俊二名誉教授、醒吾技術学院(中華民国)・張煜權准教授・ボゴール農科大学(インドネシア)・Budi 副学部長、ブラビィジャヤ大学・Eri Suhartanto准教授との共同研究)

渡部 徹

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2016年6月, 8月, 2017年3月 カンボジア: トンレサップ湖における環境保全基盤の構築に関する研究打合せ
- (2) 2016年6月, 8月, 2017年3月 タイ: 遺伝子解析にもとづく熱帯アジアの下廃水処理施設における薬剤耐性菌の挙動解明に関する研究打合せ及び現地調査
- (3) 2016年10月 ベトナム: 国立農業大学でのオータムスクール, フェ大学との交流打合せ
- (4) 2017年1月 中国: 天津農学院との研究交流
- (5) 2017年1月 インドネシア: 2nd International Forum on Sustainable Future in Asiaにおける研究発表(口頭)
- (6) 2017年2月 ラオス: タートルアン湿原の自然浄化作用がラオス首都圏の環境衛生に果たす役割に関する現地調査

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2008年4月～現在 病原微生物による感染症リスクの定量評価に関する共同研究(米国ドレクセル大学Charles Haas教授との共同研究)
- (2) 2009年4月～現在 熱帯地域における水環境汚染に関する研究(タイ王国カセサート大学Wilai Chiemchaisri准教授, Chart Chiemchaisri准教授, カンボジア工科大学In Sokneang講師との共同研究)
- (3) 2011年4月～現在 途上国都市における洪水起因の健康リスクに関する研究(ベトナム・フェ大学Pham Khac Lieu講師, インドネシア・パジャジャラン大学との共同研究)

4-③ 国際研究集会の開催

- (1) 2016年4月19日 日中共同セミナー「都市と農村の融合に基づく持続的発展」の開催(会場: 山形大学農学部, 参加国数: 2, 参加人数: 14)

渡邊 一哉

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) タイ国 タマサート大学との協働研究(SuratThani県Bandon湾)

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) タイ国 タマサート大学との連携研究(SuratThani県Bandon湾)

⑤ 研究員等の受け入れ状況

安全農産物生産学コース

西澤 隆

- (1) チェンマイ大学科学技術研究所(タイ) Wilawan Kumpoun: タイ政府「マンゴーの生理障害に関する研究」(平成28年3月1日～平成28年4月30日)
- (2) タルカ大学農学部(チリ) Jorge B. Retamales: 国際共同研究及び学生の国際交流打ち合わせ

食農環境マネジメント学コース

岩鼻 通明

- (1) 関口健、岩手連大研究員、2016年10月～2017年9月

角田 毅

- (1) 山形県西置賜総合支庁 土門薫: 専門技術研修による研究員の受け入れ、「集落営農組織の経営展開方向の考察」(平成28年5月1日～平成28年10月31日)

食品・応用生命科学コース

塩野義人

- (1) カメルーン・ヤウンデ第一大学理学部・助教 アブドウ チョウコウア: 日本学術振興会「論文博士号取得希望者に対する支援事業「カメルーン産薬用植物からの有用物質の探索」平成28年5月9日から9月25日
- (2) インドネシア共和国・インドネシア共和国・パジャジャラン大学・数学・自然科学部・大学院生、Mr Kindi Farabi (キンディ ファラビ): インドネシア政府の援助による支援事業「インドネシアにおける薬用植物資源からの生理活性物質の探索研究」平成28年8月1日から～平成28年11月1日
- (3) カメルーン・マルタ大学・教員養成専門学校・化学科・上席講師, Dr Meli Lannang (メリ ランナング), 「カメルーン産薬用 Kniphofia Reflexa の内生菌の生産する化学物質について」平成28年6月1日から～平成28年11月30日, 松前国際友好財団.

渡辺昌規

- (1) タイ・チェンマイ大学 N. Puangkhankham, W. Srisuwan: JASSO海外留学支援制度(協定受入)による大学院生の受け入れ, 「未利用バイオマス再資源化技術研究者育成支援プログラム」(平成27年3月24日～平成28年6月22日)
- (2) タイ・チェンマイ大学農産学学部 S.Sriwattana学部長, P.Poonlarp副学部長, N. Leksawasdi学科長: 表敬訪問&国際共同研究打ち合わせ(平成28年11月13～16日)
- (3) タイ・チェンマイ大学農産学学部 T.Chaiyaso博士: JSPS研究拠点形成事業Core to core (CCP) Program派遣研究員受け入れ, 「亜熱帯性微生物を用いた新規発酵技術の開発とその事業化に関する共同研究」(平成29年1月17日～平成29年2月15日)

植物機能開発学コース

俵谷 圭太郎

- (1) 東南アジア熱帯生物学センター研究員 Dewi Wulandari: 日本学生支援機構平成28年度帰国外国人留学生短期研究制度(平成28年12月19日～平成29年3月20日)

村山秀樹

- (1) Student Exchange Support Programでガジャマダ大学より学生2名受け入れ

程 為国

- (1) カナダのUniversity of Saskatchewan教授Sina M. ADL先生を受け入れ、「カナダと日本の有機農業の比較」に関する共同研究を行なった。2016年8月10日～2016年8月21日)
- (2) フランスのUniversity of BurgundyからDr Julien GUIGUE をJSPS外国人特別研究者として受け入れ、「Response of soil organic matter to elevated CO2 concentrations in rice paddy: verification of water-extractable organic matter dynamics by 13C」の共同研究を行なった。2015年6月16日～2016年5月31日)
- (3) Gadjahmada University, Indonesia 学部生2名をJASSO(留学生交流支援制度(短期受入れ))の支援制度で受け入れ、土地利用変化と有機農業に関する研究を行なっている(2016年11月1日～2017年8月31日)
- (4) ケニヤからのSamuel Munyaka KIMANI君をABEイニシアティブ研修生として受け入れ、2016年4月に大学院修士課程を進学させて、「節水農業と土壌について」の研究を行なっている(2015年10月1日～2018年3月31日)
- (5) 中国出身のShuirong Tang君を文部省国費外国人留学生として受け入れ、Tang君が2017年3月に農学博士の学位を取得し、中国に帰り、研究者の職を探している帰国した。(2013年10月1日～2017年3月31日)
- (6) ベトナム出身のNguyen Sy Toan君を文部省国費外国人留学生として受け入れている。(平成26年10月1日～)

森林科学コース

森 茂太

- (1) インドネシアガジャマダ大学からのJASSO短期留学生の受け入れ

水土環境科学コース

渡部 徹

- (1) インドネシア・ガジャマダ大学学生 Ermaya Eka Cahyaningrum, Nabila Dhyana Azraini: JASSOによる短期留学生の受け入れ(2015年9月～2016年8月)
- (2) インドネシア・ガジャマダ大学学生 Windra Prayoga, Agnes Hoki Briliana Suhono: JASSOによる短期留学生の受け入れ(2016年11月～現在)
- (3) カンボジア工科大学講師In Sokneang博士: JICA研修「定量的微生物リスク評価技術」(2016年8月22～24日)

⑥その他

安全農産物生産学コース

片平 光彦

- (1) JICAアフリカ地域 稲作収穫後処理研修, 2011年08月 ~ 継続中
- (2) 秋田県農業研修センター, 2010年07月 ~ 継続中水田転換ほ場の営農排水対策

食農環境マネジメント学コース

小沢 亙

- (1) 副学部長(2016年4月~2018年3月)
- (2) 入学試験実施会議(2016年4月~2018年3月)
- (3) 障がい学生支援センター運営会議(27年10月~29年9月)
- (4) 次世代形成・評価開発機構運営会議(28年4月~30年3月)
- (5) 次世代形成・評価開発機構FD部門会議(29年2月~30年3月)
- (6) 山形大学COC推進委員会(28年4月~)
- (7) IR会議(28年5月~30年3月)

食品・応用生命科学コース

三橋 渉

- (1) 山形大学 大学院 農学研究科 生物資源学専攻 専攻長

渡辺昌規

- (1) (全学委員)
山形大学国際交流コーディネーター(タイ国担当)
- (2) (学部内委員)
入試実施委員会(H28-29)、オープンキャンパス実行委員会(H28-29)、食農環境連携を担うグローバル人材育成事業専門部会委員(H28-29)
- (3) (オープンキャンパス)
模擬講義の実施(平成28年7月31日)
- (4) (企業見学会)
JA庄内みどり精米センター、阿部ベイコク(酒田市)施設見学・研修会の実施(平成28年8月19日、食応コース3年4名)
- (5) (技術指導)
丸善食品(鶴岡市)、果香(寒河江市)、三菱ガス化学(東京都)、三和油脂(天童市)、ちとせ研究所(川崎市)、サタケ(東広島市)、SANSTAR(大阪府)、岡安商店(越谷市)
- (6) (JASSO関連)
平成27年度海外留学支援制度(協定派遣・受入)申請プログラム(採択、平成27年1月29日)申請代表者、留学生受入(タイ・チャンマイ大学大学院修士学生2名、平成28年3月4日-6月22日)

- (7) (外部資金)
科研費:基盤(C)採択(H27-29)
JST 研究成果展開事業マッチングプランナープログラム「企業ニーズ解決試験」:採択(H28月6月1日)
三菱ガス化学株式会社「高純度米由来タンパク質・リン連続回収プロセスの当社開発品への適用可否検討」(受諾研究、研究開発費78千円(平成28年度分))
- (8) (その他)
平成28年度山形大学研究推進報奨受章

森林科学コース

森 茂太

- (1) 現在、大学院生5名、うち2名が博士取得希望であり取りまとめに非常に多くの時間を要した。
- (2) 授業が昨年度よりも実習15コマ、基礎生態学2コマ、3年前に食料生命環境学入門2コマ、大学院必修授業 生物環境学特論の代表を務めており担当授業が極めて多く、明らかに過重である。今後は授業分担の偏りが生じないように全体を調整できるように強く望みます。29年度はさらにここに連合大学院の授業が2コマ追加された。今後はゼミなどを他研究室に開放して自由に聴講できるようにすることで単位認定するなど、負担を軽減する授業構成が不可欠と考えます。
- (3) 欧米からの植物個体呼吸データに関する問い合わせがあり、対応した。
- (4) 経済産業省プロジェクト休廃止鉱山緑化対策研究調査の分担メンバーへの参加依頼があり、準備をすすめている。

3. 国際交流状況について

(1) 学部間国際交流協定締結大学一覧

国名	機関名	締結年月日
インドネシア	ガジャマダ大学農学部	2002年 3月11日
インドネシア	ガジャマダ大学林学部	2002年12月19日
中華人民共和国	浙江省農業科学院	2003年 8月 1日
モンゴル	モンゴル生命科学大学	2004年 5月 5日
バングラデシュ	シエレ・バングラ農業大学	2005年 8月31日
ラオス	ラオス国立大学工学部	2006年 3月 9日
スリランカ	ペラデニア大学農学部	2006年 7月 5日
中華人民共和国	中国農業大学食品科学栄養工学部	2006年11月22日
中華人民共和国	瀋陽農業大学	2006年12月26日
中華人民共和国	延辺大学農学院	2006年12月27日
バングラデシュ	ハジエ・モハマト・ダグネ科学技術大学	2007年 3月 7日
タイ	キング・モンクット工科大学トブリ校	2008年 6月24日
フィリピン	ビサヤ大学	2008年 7月24日
インドネシア	インドネシア林業省森林研究開発庁森林自然保護研究開発センター	2008年 7月25日
インドネシア	ムラワルマン大学林学部	2008年11月25日
インドネシア	ガジャマダ大学農業工学部	2010年 7月 7日
インドネシア	ランブンマンクラート大学林学部	2010年 7月 7日
中華人民共和国	南京農業大学	2011年 3月24日
インドネシア	パジャジャラン大学	2011年 3月31日
中華人民共和国	華中農業大学	2011年 9月16日
ドイツ	ライプニッツ・ハノーヴァー大学	2012年 3月26日
中華人民共和国	東北林業大学	2012年 7月27日
インドネシア	ボルネオ大学	2012年10月12日
バングラデシュ	バングラデシュ農業大学	2013年 2月 4日
タイ	カセサート大学	2014年 4月 9日
インドネシア	ジェンデルアルアチマドヤニ大学数学・自然科学部	2014年 9月 5日
インドネシア	ガジャマダ大学数学・自然科学部	2014年11月11日
インドネシア	東南アジア熱帯生物学センター	2015年 3月16日
インドネシア	ボゴール農科大学	2015年 5月20日

(2) 大学間国際交流協定締結大学一覧（農学部が提案したもの）

国名	機関名	締結年月日
チリ	タルカ大学	2005年 8月26日
ベトナム	ハノイ農業大学	2008年 4月21日
大韓民国	忠北大学校農業生命環境大学	2008年 6月 5日
中華人民共和国	北京林業大学	2009年 2月25日
モンゴル	モンゴル生命科学大学	2012年 3月26日
中華人民共和国	延辺大学	2012年 3月26日
ペルー	ラモリナ国立農業大学	2012年12月 3日
ペルー	カトリカ大学	2012年12月 4日
タイ	チェンマイ大学	2013年 1月30日
インドネシア	ガジャマダ大学	2013年 2月 6日
中華人民共和国	黒竜江八一農墾大学	2014年 3月12日
ドイツ連邦共和国	ライプニッツ・ハノーヴァー大学	2014年 5月 8日
スペイン	リエイダ大学	2015年11月 5日

(3) 外国出張一覧

氏 名	渡航国名	渡航期間	渡航目的
村山 秀樹	ドイツ	H28. 4. 11～H28. 4. 19	研究打合せ
俵谷 圭太郎	インドネシア	H28. 5. 10～H28. 5. 21	研究指導
岩鼻 通明	韓国	H28. 5. 26～H28. 5. 31	調査研究
渡部 徹	タイ	H28. 6. 5～H28. 6. 10	研究打合せ・調査
渡部 徹	カンボジア	H28. 6. 5～H28. 6. 10	研究打合せ・調査
笹沼 恒男	ペルー	H28. 6. 13～H28. 6. 20	国際会議出席
西澤 隆	スペイン	H28. 6. 17～H28. 6. 27	研究打合せ・学会発表
豊増 知伸	カナダ	H28. 6. 18～H28. 6. 27	国際会議出席・発表
佐々木 由佳	ケニア	H28. 6. 18～H28. 6. 30	研究指導・打合せ
俵谷 圭太郎	アイルランド	H28. 6. 26～H28. 7. 2	学会出席・発表
江成 広斗	シンガポール	H28. 6. 27～H28. 7. 4	国際会議出席
笹沼 恒男	アルメニア共和国	H28. 7. 11～H28. 7. 23	学術調査
塩野 義人	台湾	H28. 7. 20～H28. 7. 24	大学間協定打合せ
堀口 健一	中国	H28. 7. 24～H28. 8. 1	研究指導・打合せ情報交換
ロペス・ラリー	モンゴル	H28. 8. 18～H28. 8. 26	サマースクール
俵谷 圭太郎	インドネシア	H28. 8. 20～H28. 8. 30	研究・調査

塩野 義人	インドネシア	H28. 8. 21～H28. 9. 2	研究打合せ
藤井 秀人	カンボジア	H28. 8. 25～H28. 8. 29	学会出席・発表
渡部 徹	タイ	H28. 8. 25～H28. 9. 1	シンポジウム・打合せ・調査
渡部 徹	カンボジア	H28. 8. 25～H28. 9. 1	シンポジウム・打合せ・調査
浦 剣	カンボジア	H28. 8. 25～H28. 9. 2	シンポジウム・現地調査
渡辺 昌規	タイ	H28. 8. 27～H28. 8. 31	日本留学フェア・大学間交流
俵谷 圭太郎	イギリス	H28. 9. 5～H28. 9. 11	学会出席・発表
片平 光彦	チェコ	H28. 9. 5～H28. 9. 14	学会出席・発表
林田 光祐	中国	H28. 9. 10～H28. 9. 13	学部間交流
村山 哲也	中国	H28. 9. 10～H28. 9. 13	学部間交流
程 為国	中国	H28. 9. 10～H28. 9. 17	学部間交流
渡辺 昌規	タイ	H28. 9. 13～H28. 9. 21	サマースクール
金 成学	韓国	H28. 9. 27～H28. 10. 2	青果物流の実施調査
俵谷 圭太郎	中国	H28. 10. 8～H28. 10. 11	交流・現地視察
程 為国	中国	H28. 10. 8～H28. 10. 14	学術交流
渡部 徹	ベトナム	H28. 10. 10～H28. 10. 16	サマースクール
角田 毅	ベトナム	H28. 10. 10～H28. 10. 17	オータムスクール
佐々木 由佳	ベトナム	H28. 10. 10～H28. 10. 17	オータムスクール
平 智	スペイン	H28. 10. 15～H28. 10. 23	シンポジウム・研究発表
小沢 亙	ベトナム	H28. 10. 17～H28. 10. 25	青果物流の実施調査
岩鼻 通明	韓国	H28. 10. 7～H28. 10. 10	調査研究
渡辺 昌規	タイ	H28. 11. 13～H28. 11. 16	学術交流
俵谷 圭太郎	インドネシア	H28. 11. 23～H28. 12. 1	研究開発
岩鼻 通明	韓国	H28. 11. 27～H28. 12. 5	調査研究
佐々木 由佳	ケニア	H28. 11. 29～H28. 12. 18	研究打合せ・調査
片平 光彦	ケニア	H28. 12. 3～H28. 12. 11	サマースクール
塩野 義人	インドネシア	H28. 12. 4～H28. 12. 11	研究打合せ・セミナー
塩野 義人	カメルーン	H29. 1. 4～H29. 1. 14	研究
渡部 徹	中国	H29. 1. 5～H29. 1. 8	共同セミナー
芦谷 竜矢	スウェーデン	H29. 1. 21～H29. 1. 26	研究打合せ・調査
渡部 徹	インドネシア	H29. 1. 24～H29. 1. 28	国際会議出席
金 成学	韓国	H29. 1. 31～H29. 2. 5	研究調査
俵谷 圭太郎	インドネシア	H29. 2. 2～H29. 2. 5	調査研究
渡部 徹	ラオス	H29. 2. 10～H29. 2. 14	研究調査
野堀 嘉裕	モンゴル	H29. 3. 3～H29. 3. 10	シンポジウム
角田 毅	ベトナム	H29. 3. 6～H29. 3. 10	研究調査

渡部 徹	タイ	H29. 3. 8～H29. 3. 12	研究調査
金 成学	オーストラリア	H29. 3. 14～H29. 3. 23	研究調査
藤井 秀人	カンボジア	H29. 3. 18～H29. 3. 26	研究打合せ・調査
村山 秀樹	スペイン	H29. 3. 25～H29. 4. 1	共同研究

(4) その他の国際交流の実施

○留学生の受入

西澤隆教授、森茂太教授、小沢互教授、俵谷圭太郎教授、村山秀樹教授、角田毅教授、塩野義人教授、芦谷竜矢教授、渡部徹教授、金成学教授、角田憲一准教授、程為国准教授、片平光彦准教授、佐藤智准教授、藤科智海准教授、佐々木由佳准教授

○研究者の受入

- ・タイ チェンマイ大学 (大学間協定校)

研究者の受入

西澤隆教授 (H28. 3. 1～H29. 4. 30)

- ・チリ タルカ大学 (大学間協定校)

西澤隆教授 (H29. 1. 19～H29. 1. 20)

- ・インドネシア パジャジャラン大学 数学自然科学部 (学部間協定校)

研究者の受入

塩野義人教授 (H28. 8. 1～H28. 11. 1)

- ・インドネシア 東南アジア教育大臣機構熱帯生物学センター (学部間協定校)

研究者の受入

俵谷圭太郎教授 (H28. 12. 21～H29. 3. 20)

- ・カメルーン ヤウンデ第一大学理学部

研究者の受入

塩野義人教授 (H28. 4. 25～H28. 9. 23)

- ・カメルーン マルダ大学教員養成専門学校

研究者の受入

塩野義人教授 (H28. 6. 1～H28. 11. 30)

4. 社会活動・地域貢献

(1) 地域連携推進室に寄せられた事項一覧

番号	類別	件 名	研 究 者
1	相談	野菜を漬ける際に出る液について	企画広報室
2	相談	水稲に対する日照不足条件下におけるケイ酸の効果について	藤井 弘志
3	相談	庭木玉椿について	企画広報室
4	相談	植物の名前について	企画広報室
5	相談	米の栄養分析について	藤井 弘志
6	その他	東桜学館高校大学訪問	平 智
7	その他	山形東高校大学訪問	学部長、村山秀樹、 附属施設担当
8	その他	鶴岡工業高校教員研修	村山秀樹、西澤 隆
9	その他	鶴岡北高校大学訪問(国際交流)	学務担当
10	その他	村山産業高校研究指導	俵谷 圭太郎
11	その他	山形北高校大学訪問	学部長、小沢副学部長、 佐々木由佳、村山秀樹
12	その他	寒河江高校大学訪問	小沢副学部長、藤井弘志
13	その他	鶴岡市立朝暘第三小学校体験学習	平 智
14	その他	酒田市立東部中学校大学訪問	江頭 宏昌

(2) 平成28年度 社会・地域等の要請により派遣した職員一覧

所属	教員名	依頼先	職 名
安全農産物生産学コース	西澤 隆	鶴岡南高等学校	「鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探索活動）」での講師
	藤井 弘志	鶴岡市	庄内水田農業推進機構委員
		国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター	「革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト）」に係る専門PO
		酒田氏	酒田産業・交流創造会議委員
		鶴岡氏	鶴岡ホストタウン推進委員会委員
	平 智	鶴岡市	鶴岡市上下水道部料金収納等包括的業務委託プロポーザル選定委員
		鶴岡市	平成28年度鶴岡総合研究所所長
		鶴岡市	庄内自然博物館構想推進協議会委員
		国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター	「革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト）」に係る専門PO
		鶴岡市	平成28年度社会資本総合整備計画（下水道事業）に係る鶴岡市事後評価委員会委員
		鶴岡市	鶴岡市上下水道事業経営審議会委員
	堀口 健一	山形県	アドバイザー・ボードメンバー
		山形県環境エネルギー部	山形県公害審査会委員
	角田 憲一	鶴岡市	鶴岡市農産物認証事業に係る判定委員会委員
		鶴岡市	庄内水田農業推進機構委員
片平 光彦	福島県農業総合センター	福島イノベーション・コースト構想に基づく先端農林業ロボット研究開発事業のアドバイザー	
	公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会	平成28年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業におけるコーディネーター	
佐々木 由佳	鶴岡市	庄内水田農業推進機構委員	
食農環境マネジメント学コース	小沢 亙	鶴岡市	庄内水田農業推進機構委員
		東根市	果樹王国ひがしね6次産業化推進協議会委員
		山形県農業会議	平成28年度専門家派遣事業に係る専門家
		山形市	「山形市農業戦略本部」部員
		一般社団法人日本草地畜産種子協会	平成28年度飼料稲給与畜産物認証基準作成事業に係る専門委員
		川西町農業再生協議会	米政策等の見直しに係る検討会アドバイザー
		出羽商工会	経営発達支援計画・事業評価委員会委員
		山形県農林水産部	山形県農村環境保全推進委員会委員
		鶴岡市	鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員
		山形県	山形県米政策推進会議委員
	山形県農林水産部	山形県農業・農村政策審議会委員	
	山形市	「第6次山形市農業振興基本計画」策定に係る監修	
	角田 毅	山形県農林水産部	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師
	藤科 智海	山形県	山形県研究評価委員
		山形県	卸売市場審議会委員
山形県立農林大学校		講師	
渡辺 理絵	山形県農林水産部	やまがた6次産業ビジネス・スクール講師	
渡辺 理絵	山形北高等学校	学校評議員兼学校関係者評価委員	
食品・応用生命科学コース	小関 卓也	山形県村山総合支庁	平成28年度農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業プロジェクト成果評価審査会審査委員
	木村 直子	鶴岡南高等学校	「鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探索活動）」での講師
	加来 伸夫	鶴岡南高等学校	「鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探索活動）」での講師
植物機能開発学コース	村山 哲也	山形県環境エネルギー部	山形県公害審査会委員
	村山 秀樹	鶴岡南高等学校	「鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探索活動）」での講師
		鶴岡北高等学校	平成28年学校評議員兼学校関係者評価委員
	江頭 宏昌	鶴岡市	鶴岡市食育・地産地消推進協議会委員
		山形県	「食の至宝 雪国やまがた伝統野菜」PR大使
山形県農林水産部		平成28年度山形えだめ日本一産地化推進協議会委員	
公益財団法人味の素の文化センター	食の文化フォーラム会員		

所属	教員名	依頼先	職名	
		鶴岡市	焼畑温海かぶブランド力向上対策協議会オブザーバー	
		沖縄県	平成28年度「うちなー島ヤサイ商品化支援技術開発事業（沖縄振興特別推進交付金）」推進会議外部アドバイザー委員	
		山形県おきたま伝統野菜振興協議会	山形おきたま伝統野菜振興協議会アドバイザー	
	笹沼 恒男	山形県農業総合研究センター園芸試験場	「遺伝子組換え実験安全委員会」委員	
	及川 彰	文部科学省	文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員	
		高校生バイオサミット実行委員会（慶応義塾大学先端生命科学研究所）	第6回高校生バイオサミットin鶴岡表彰審査員	
	網干 貴子	山形県	山形県科学技術会議委員	
	森林科学コース	野堀 嘉裕	山形県	山形県森林審議会委員
			東北森林管理局	東北森林管理局保護林等設定管理委員会委員
			山形県農林水産部	総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者
東北森林管理局			森林計画等に関する検討会委員	
鶴岡市			鶴岡市林業振興協議会	
鶴岡市			鶴岡市総合計画審議会委員	
林田 光祐		鶴岡市	鶴岡市総合戦略策定推進会議委員	
		鶴岡南高等学校	学校評議員及び学校関係者評価委員	
		庄内地域産業振興センター	評議員	
		鶴岡市	庄内水田農業推進機構会長	
		鶴岡工業高等専門学校	鶴岡工業高等専門学校運営協議会委員	
		公益財団法人マエテクノロジーリサーチファクト	理事	
		山形県教育庁	鶴岡南高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員	
		公益財団法人山形大学産業研究所	顧問	
		鶴岡市	鶴岡市農業発展奨励表彰委員会委員	
		芦谷 竜矢	山形県	アドバイザー・ボードメンバー
柳原 敦		東北森林管理局	東北森林管理局技術開発委員会委員	
		山形県最上総合支庁	最上小国川流域環境保全協議会	
菊池 俊一		山形大学生活協同組合	平成28年度第57期生協役員（副理事長）	
		東北森林管理局	東北森林管理局事業評価技術検討会委員	
		山形県	山形県公共事業評価監視委員会委員	
		山形県	山形県環境審議会委員	
		山形県	やまがた緑環境税事業評価・検証ワーキンググループ（森林整備事業部門）の外部アドバイザー	
		山形県	やまがた緑環境税事業評価・検証プロジェクトチームの委員	
林 雅秀		山形県森林研究研修センター	平成28年度山形県森づくり支援人材育成研修の講師	
		山形県	やまがた緑県民会議委員	
		山形県庄内総合支庁	「地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業」に係るアドバイザー	
		国立研究開発法人森林総合研究所	客員研究員	
江成 広斗		特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター	調査研究委員	
		山形県	アドバイザー・ボードメンバー	
	山形県庄内総合支庁	「地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業」に係るアドバイザー		
	一般財団法人自然環境研究センター	平成28年度特定鳥獣に係る保護管理施策推進のための人材育成研修及び対応等調査・検討業務における委員		
水土環境科学コース	藤井 秀人	一般財団法人日本水土総合研究所	平成28年度海外技術協力促進検討事業（ライフサイクルコスト低減型整備検討調査（基礎調査））検討委員会委員	
		一般財団法人日本水土総合研究所	平成28年度流通加工連携農業農村開発調査業務（アジア）国内検討委員会委員	
		一般財団法人日本水土総合研究所	平成28年度流通加工連携農業農村開発調査業務（アフリカ）国内検討委員会委員	
	奥山 武彦	日本水土総合研究所	客員研究員	
		東日本高速道路株式会社	山形地域技術懇談会委員	
		農林水産省農村振興局	平成28年度地すべり調査意見聴取会委員	
		株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北	平成28年度東北支社地すべり等の面対策技術検討会委員	
	安中 武幸	一般財団法人日本水土総合研究所	平成28年度庄内あさひ地区地すべり対策技術検討会委員長	
		山形県農林水産部	総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者	
渡部 徹	鶴岡南高等学校	「鶴南ゼミ（総合的な学習の時間での探索活動）」での講師		
	鶴岡市	鶴岡市ごみ焼却施設整備運営事業者選定委員会委員		

所属	教員名	依頼先	職名
	渡邊 一哉	国土交通省東北地方整備局 及び山形県	赤川水系河川整備学識者懇談会委員
		国土交通省東北地方整備局	リバーカウンセラー（最上川）
職員	菅原 一彰	山形大学生協同組合	平成28年度第57期生協役員（理事）
	佐久間 拓也	鶴岡市	鶴岡市消防団員（鶴岡第2方面隊第5分団）

（3）平成28年度 他大学等の非常勤講師として派遣した職員一覧

氏名	依頼元	職名
岩鼻 通明	山形県立米沢女子短期大学	非常勤講師
加来 伸夫	鶴岡工業高等専門学校	非常勤講師
	鶴岡市立荘内看護専門学校	非常勤講師
井上 奈穂	東北生活文化大学	非常勤講師
村山 秀樹	放送大学	非常勤講師（面接授業担当）
笹沼 恒男	鶴岡工業高等専門学校	非常勤講師
星野 友紀	学校法人新潟総合学園	非常勤講師
及川 彰	慶應義塾大学	非常勤講師
	東京大学	非常勤講師
野堀 嘉裕	山形県立農林大学校	非常勤講師
梶原 晶彦	鶴岡市立荘内看護専門学校	非常勤講師

(4) 外部資金等の受け入れ状況

平成28年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	氏名	直接経費	間接経費	合計額	課題名
基盤研究 (B) 海外	渡部 徹	4,100,000	1,230,000	5,330,000	遺伝子解析にもとづく熱帯アジアの下 wastewater 処理施設における薬剤耐性菌の挙動解明
基盤研究 (B) 海外	俵谷 圭太郎	3,100,000	930,000	4,030,000	インドネシアの熱帯雨林からのエンドファイトの分離と鉱山跡地の修復への利用
基盤研究 (B) 一般	渡部 徹	3,600,000	1,080,000	4,680,000	水中の薬剤耐性菌による健康影響評価手法の開発と水再利用へのその適用
基盤研究 (B) 一般	我妻 忠雄	3,600,000	1,080,000	4,680,000	膜脂質層の分子的改変による、イオンストレスマルチ耐性植物の創生
基盤研究 (B) 一般	村山 秀樹	5,300,000	1,590,000	6,890,000	ナシ属果実成熟期に起こるデンプンの蓄積から代謝へのダイナミックな転換の意義
基盤研究 (B) 特設分野	渡部 徹	4,800,000	1,440,000	6,240,000	持続可能な養殖漁業を支える森から海への有機物と微量必須金属の輸送メカニズム
基盤研究 (C)	安田 弘法	800,000	240,000	1,040,000	温暖化が自然共存型水田淡水生物の相互作用とその多様性及びイネの生育に及ぼす影響
基盤研究 (C)	藤井 弘志	1,300,000	390,000	1,690,000	新規開発された高機能デジタルカメラによる作物診断システムの開発
基盤研究 (C)	小関 卓也	1,200,000	360,000	1,560,000	ポリフェノールの高度利用のための酵素の機能解析と開発
基盤研究 (C)	小沢 互	900,000	270,000	1,170,000	消費者の能動的行動が生産者に与える影響
基盤研究 (C)	角田 毅	1,500,000	450,000	1,950,000	雇用型大規模法人経営における人材定着マネジメントに関する研究
基盤研究 (C)	片平 光彦	100,000	30,000	130,000	施肥溝切り機を用いた新型作業技術が長ネギ栽培の作業性と生育に与える影響の解析
基盤研究 (C)	服部 聡	400,000	120,000	520,000	庄内沿岸極浅海域に生息する嫌氣的メタン酸化古細菌の多様性・活性評価および培養化
基盤研究 (C)	森 静香	800,000	240,000	1,040,000	環境保全・維持と調和したケイ酸資源「ヨシ」の水稲栽培への利用システムの確立
基盤研究 (C)	西澤 隆	1,400,000	420,000	1,820,000	トマトの生理障害「つやなし果」の発生機構の解明と選果方法の開発に関する研究
基盤研究 (C)	平 智	700,000	210,000	910,000	アケビの後発型自家不和性機構の解明と果実生産に及ぼす影響
基盤研究 (C)	長谷 修	600,000	180,000	780,000	病害誘導抵抗性を活性化する根圏生息性卵菌の評価と生物防除への応用
基盤研究 (C)	俵谷 圭太郎	1,300,000	390,000	1,690,000	アーバスキュラー菌根菌による有機態リン酸の獲得機構の解明
基盤研究 (C)	豊増 知伸	1,300,000	390,000	1,690,000	イネのモミラクソン排出輸送体の探索と排出活性機構に関する研究
基盤研究 (C)	芦谷 竜矢	1,400,000	420,000	1,820,000	樹木成分の自動酸化を利用した生理活性物質の合成
基盤研究 (C)	花山 奨	400,000	120,000	520,000	動物プランクトンおよび水生生物を利用した水田からのリン回収
基盤研究 (C)	渡辺 昌規	900,000	270,000	1,170,000	非加熱・無殺菌米副産物を単一原料とした環境調和型光学活性乳酸生産法の開発
基盤研究 (C)	塩野 義人	2,000,000	600,000	2,600,000	樹木内生菌類を利用したナラ枯れ防止のための基盤研究
基盤研究 (C)	加来 伸夫	1,400,000	420,000	1,820,000	微生物燃料電池を利用した水田からの電気回収と水田からのメタン放出の抑制
基盤研究 (C)	佐藤 智	1,900,000	570,000	2,470,000	マルタニシを活用した環境保全型水稲栽培技術の開発
基盤研究 (C)	井上 奈穂	1,900,000	570,000	2,470,000	自発運動と食品因子によるメタボリックシンドローム改善の相加・相乗効果に関する研究
挑戦的萌芽研究	松本 大生	500,000	780,000	1,280,000	自家不和合性を利用した、サクラ属果実における花粉媒介形質転換技術の開発
挑戦的萌芽研究	森 茂太	800,000	360,000	1,160,000	根を含む樹木の光合成・呼吸の正確な多個体実測によるシステム生理学分野の開拓
挑戦的萌芽研究	池田 和生	1,400,000	1,560,000	2,960,000	果皮培養によるセイヨウナシ周縁キメラ特異的果実形質の分離とその育種的利用法の確立
挑戦的萌芽研究	石川 雅也	2,000,000	240,000	2,240,000	人類の繁栄に資する温室効果ガス除去と地力増進の特性強化持続メカニズムの実学的解明
若手 (A)	江成 広斗	2,000,000	600,000	2,600,000	多雪地における大型哺乳類の分布回復が生態系に及ぼす影響の評価とリスク低減策の提示
若手 (A)	松本 大生	10,100,000	3,030,000	13,130,000	サクラ属自家不和合性に特異な「自己認識」システムの分子機構解明
若手 (B)	渡辺 理絵	600,000	180,000	780,000	近世日本の産物データをを用いた動植物の分布域に関する地理情報の基礎的研究
合計		64,100,000	20,760,000	84,860,000	

分担金一覧(平成28年度)

研究種目	氏名	分担金の配分額	直接経費	間接経費	研究課題名
基盤(B)	及川 彰	780,000	600,000	180,000	イネにおけるセロトニン蓄積の制御機構の解明:アブラムシによる抵抗性の制御と利用
新学術領域	及川 彰	650,000	500,000	150,000	植物個体発生を支える代謝ネットワークの解明
基盤(B)	井上 奈穂	1,300,000	1,000,000	300,000	食事成分の量と質がエネルギー代謝および内臓脂肪蓄積に与える影響
挑戦的萌芽	江成 広斗	247,000	190,000	57,000	農山村地域の空洞化回避を主目的に据えた鳥獣害の動向予測と実効的管理体制の提言
基盤(A)	井上 奈穂	650,000	500,000	150,000	食品メイラード反応産物の抗肥満・抗炎症など新規生理機能の解明
基盤(C)	林 雅秀	130,000	100,000	30,000	林業経営の信託化を実現させる諸条件の解明:日本の特殊性と一般性
基盤(A)	笹沼 恒男	130,000	100,000	30,000	東アジアに渡来・起源した作物資源の遺伝的評価と開発的研究(第2次)
基盤(B)	村山 秀樹	260,000	200,000	60,000	ナシ自殖F2集団を利用した果実有用形質に関するMASの開発と新規機能性食品の開発
挑戦的萌芽	及川 彰	390,000	300,000	90,000	種子と果肉の情報伝達機構の解明と高品質果実生産技術の開発
基盤(A)	渡部 徹	910,000	700,000	210,000	多剤耐性遺伝子の環境中残存機構と人への暴露リスク評価
基盤(C)	渡辺 理絵	130,000	100,000	30,000	長久保赤水の地図製作プロセスに関する研究
基盤(S)	及川 彰	3,900,000	3,000,000	900,000	摂食シグナル胆汁酸の分子栄養学的機能解明と食品成分による接触応答制御
基盤(B)	程 為国	585,000	450,000	135,000	有機無農薬水稲栽培年数の経過に伴って土壌・水稲・雑草・動物はどう変化するか?
基盤(A)	渡部 徹	4,329,000	3,330,000	999,000	気候・社会・生態系の変動に対応した感染症リスク評価モデルの構築
基盤(B)	浦 剣	390,000	300,000	90,000	発展する中国華北地方農村の環境保全に関わる要因の調査
基盤(B)	林 雅秀	455,000	350,000	105,000	林業遺産の保存と持続的な活用による林業教育・地域づくりの可能性
基盤(C)	家串 哲生	130,000	100,000	30,000	青果物の計量販売への転換による物流改革と効果に関する実証的研究
基盤(B)	池田 和生	130,000	100,000	30,000	ゲノミクス・トランスクリプトミクスのアプローチによる異形花型不和合性の機構解明
基盤(A)	俵谷 圭太郎	2,600,000	2,000,000	600,000	土壌中の有機物に含まれる放射性セシウムの挙動に及ぼす生物的要因の解明
基盤(B)	渡部 徹	260,000	200,000	60,000	タートルアン湿原の自然浄化作用がラオス首都圏の環境衛生に果たす役割
基盤(B)	ロペス・ラリー	845,000	650,000	195,000	樹木年輪の幅・酸素・炭素および窒素安定同位体比を用いた生態系総合環境変動解析
基盤(A)	渡辺 理絵	260,000	200,000	60,000	GISを用いた近世城下絵図の解析と時空間データベースの構築

平成28年度 奨学寄附金・受託研究・共同研究の受け入れ状況

	件 数	金 額
奨学寄附金	46	43,666,841 円
受託研究	35	72,780,060 円
共同研究	11	6,009,100 円

(5) 公開講座等大学開放実施状況

1 市民交流農園

- 4月15日(金) 開園式
- 8月1日(月) 夏の交流会
- 11月17日(木) 秋の交流会

2 公開講座

「庄内を潤す水土里の恵み」

第1回目

- 6月4日(土) 開講式(ガイダンス)
「水が結ぶ生活環境と農・畜・水産業」
「庄内平野の農業用水と雪 -地球温暖化による影響は?-」

第2回目

- 6月11日(土) 「リンから見た水田の世界」
「庄内砂丘地に発生した長期湛水(2011年夏~秋)を考える」

第3回目

- 6月18日(土) 「庄内の水はどこから? -地下水の起源を探る-」
「ため池は今後も必要なのか? -現状と保全に向けての課題について-」

第4回目

- 6月25日(土) 「サクラマスを繋ぐ庄内の水土里」
「現在の汚水処理で充分か? -赤川と森林とわたしたちの生活の密接な関係-」
修了式(修了証書授与)

3 農学部オープンキャンパス

- 7月31日(日) 会場: 山形大学農学部

4 女性研究者裾野拡大セミナー2016 in 農学部 会場: 山形大学農学部

- 7月31日(日) 「農学部女子!研究者になる!! ~それってどんな?何するの?~」

5 夏期セミナー

- 8月1日(月) 会場: 山形大学農学部

○食料系コース

「そこにある小宇宙~生物多様性ノ魅力伝エマス」

○生命系コース

「生物間相互作用を化学の目で見てみよう」

○環境系コース

「新しい森林資源の利用-化学の目で観る森林資源-」

- 6 ひらめき☆ときめきサイエンス
「生物の多様性を考える」
9月17日（土） 会場：山形大学農学部
○生物の多様性を考えるー土壤微生物・植物・昆虫間の相互作用ー（講義）
○土壤微生物を観察するー菌根菌の役割（実験）
○植物を分析するーポリフェノールの役割（実験）
○昆虫を観察するー植食者と捕食者との関係（実験）
- 7 山形大学農場フェスティバル
10月8日（土）
会場：山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場
- 8 農学紹介講座「農学のタベ」 会場：山形大学農学部
第1回目
10月6日（木）「トウガラシ・パプリカの辛味と色の遺伝子を探る」
第2回目
10月14日（木）「ドローンと無人ヘリを活用した近未来の稲作システムの開発～未来の豊かな農業を先進技術でサポート～」
第3回目
10月20日（木）「油脂の科学」
第4回目
10月27日（木）「米由来副産物、廃棄物の再資源化に関する最近の動向」
第5回目
11月10日（木）「海岸林の生態系サービスの現状と課題」
- 9 研究シーズ説明会・ビジネスマッチ
1月24日（火）会場：山形大学農学部
- 10 日本酒シンポジウム 「Oh!酒落に日本酒 de Night 5時限目」
12月16日（金）会場：山形大学農学部
- 11 山形大学農学部・県立農業大学校・県内農業高校連携シンポジウム
第7回「農業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム」
11月22日（火）会場：山形県高度技術研究開発センター多目的ホール
- 12 山形大学農学部・慶應義塾大学先端生命科学研究所・東北公益文科大学・鶴岡工業高等専門学校との連携事業
知の拠点庄内第6回シンポジウム 『海外からみた庄内-SHONAIはいいのお-』
12月18日（日）会場：鶴岡市先端研究産業支援センター レクチャーホール
- 13 山形大学農学部・鶴岡市連携事業「庄内水田フォーラム2017」
2月21日（火） 会場：グランド・エル・サン
○卒業論文修士論文発表会
○基調講演「若手農業者を地域全体で支えていく仕組みづくり」
○トークセッション「地域全体で支えあう庄内農業の在り方」

- 14 6年目のキャンドルナイト
3月11日(土) 会場：鶴岡アートフォーラム
- 15 附属やまがたフィールド科学センター実施
- (1) 鶴岡市との共催事業 農業体験「わんぱく農業クラブ」の実施
5月14日(土)～11月12日(土)
 - (2) 演習林開放行事「森の学校」の実施
7月23日(土)、10月15日(土)、2月4日(土)

エコ農業部門

平成28年度課題の総括

1. エコ農業部門の組織機構整備を行う。
 - ・教育研究、技術、業務の3部門体制による組織機構の整備を行うように努力した。
 - ・学生等外部委託における農場運営の整備強化を図った。
2. 生産現場における教育研究活動を強化する。
 - ・フィールドサイエンス実験実習Ⅰ、Ⅱ及び野外科学、安全農産物生産学実験を安全農産物生産学コース教員と共同で行った。
 - ・技術検討会議、農場開放への取り組みについてはほぼ計画とおり実施した。
3. 山形在来作物系統保存センターを充実させる。
 - ・展示圃場及び展示室を充実させた。
4. 農場予算について
 - ・技術職員の研修費等について、必要な経費は支出するようにした。
法人化後の労基法に定める免許・資格及び作業従事に係る研修等が増加していることに鑑み、学部共通及び農場運営経費より支出し、技能・技術の充実を図った。また、各業務上有益と判断される研修等についても予算化し、同様の充実を図った。
他機関（大学他）に派遣し、情報や技術交換、施設・装置の共同利用による商品開発等は非常に有益であり、今後も継続して予算措置を図りたい。
5. 農場生産物販売のあり方を検討する。
 - ・各生産物の販売目標と課題については、概ね明確にして販売を行った。
配置人員や生産計画について大きな変更は不可能なため、前年の収穫量・販売額を目標値として設定していたが、前年度と比較し減収となった。農場の畑の整備で啓翁桜の生育場所を一か所にまとめて行ったが、十分に収穫することができず、販売数が減少したことが要因と推測される。
 - ・6月下旬～12月上旬の毎週木曜日に「農場市」を開場し、好評を得ることができた。
 - ・地域イベントに積極的に参加し、農産物の販売及びPRを行った。
6. 生産基盤の点検・強化
 - ・環境保全型汎用水田を整備するため、暗渠の稼働状況確認や農薬の管理を徹底し、省力栽培による良質米の生産に努めた。
 - ・黒毛和種の繁殖成績及び繁殖技術の向上を目指し、分娩前後の健康管理や発情の早期回帰、さらには疾病や事故等の予防と早期発見に努めた。
7. その他
 - ・国際協力機構（JICA）の短期研修(平成28年8月18日～9月28日)の研修プログラムの一部として、研修生18名が、農場での研修を行った。

I. 教 育

1. 実習教育等

(1) カリキュラム

農場で担当した授業科目は、以下のとおりである。

表 1-1 農場関係授業カリキュラム

	授 業 科 目	必修・選択	単位数	開講学年・学期
専門基礎科目	基礎農学セミナー	必修	1	1年・前期
	安全農産物生産学概論	必修	2	1年・後期
基盤教育科目	やまがたフィールド科学	選択	2	全学年・前期
学科共通科目	食料生命環境学実験実習	必修	2	2～4年・前期
	環境保全型エコ農業論	必修・選択	2	2～4年・後期
コース必修科目	安全農畜産物生産論	必修・選択	2	2～4年・前期
	畜産学	必修・選択	2	2～4年・前期
	野外科学	必修	1	2～4年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅰ-A	必修	2	2～4年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅰ-B	必修	2	2～4年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅱ	必修	2	3～4年・前期
	安全農産物生産学研究調査演習	必修	2	3年・前期
	安全農産物生産学研究準備演習	必修	2	3年・後期
	安全農産物生産学コース実験実習	必修	2	3～4年・前期
	コース選択科目	果樹園芸学	選択	2
安全農産物生産学特講Ⅰ		選択	2	3～4年・後期

(2) 基礎農学セミナー

履修者:159名

農学部1年次学生が鶴岡キャンパス、農場、演習林での体験を通して各コースの概要を理解すると共に鶴岡キャンパスでの生活をイメージできるようにすることを目的に1泊2日の日程で実施された。

(3) 安全農産物生産学概論

履修者:159名

食料生命環境学科・専門基礎科目として、安全・安心な農畜産物の生産について総合的な視点から考えさせることを目的に行った。

(4) やまがたフィールド科学

履修者:15名

全学部、全学年を対象にした基盤教育科目の講義として実施した。山形県金峰少年自然の家に宿泊し、農場で水稻の生育過程の学習、水稻収量調査、稲刈り体験、水田昆虫の観察、庄内柿の樹上脱渋、鶏の解体等を行った。

(5) 食料生命環境学実験実習

履修者:158名

農学が対応しなければならない幅広い内容を総合的に理解する目的で、食料系・生命系・環境系に分かれて実施した。農場では食料系の実習（田植え、果樹管理、牧草収穫、植物病害調査、鶏解体等）を実施した。

(6) 環境保全型エコ農業論

履修者:77名

循環型農業の1事例として堆肥の生産・利用技術を軸にして、飼料作物の栽培と給与、園芸作物への堆肥利用法、水稲への施用技術および食品残さの飼料化等について、講義を行った。

(7) 安全農畜産物生産論

履修者:71名

安全な農畜産物を生産する視点から、植物病理学、作物学、畜産学関連の知識習得を目指した安全な農畜産物を生産するのに必要な考え方と最新情報の理解を深める講義を行った。

(8) 畜産学

履修者:81名

家畜の生産から畜産物の利用までの基礎理論を習得することを目的として、畜産学の基礎知識、家畜家禽の定義、分類、起源、家畜の育種、繁殖、飼養管理、草地、衛生、利用等を総合的に学習し、今日の畜産業が直面する飼料問題、畜産物の安全性などの課題が理解できるよう講義を行った。

(9) 野外科学

履修者:39名

安全農産物生産学コースのフィールドサイエンス実験実習ⅠA、ⅠBと関連付けて、野外調査及び農作業の基本的な知識を概説した。

(10) フィールドサイエンス実験実習ⅠA、ⅠB

履修者:39名

各農業分野のフィールドを通じた体験的な実験実習から、安全な農畜産物の安定生産に取り組んでいくための総合的、多面的な考え方や技術を習得することを目的とし実施した。

(11) フィールドサイエンス実験実習Ⅱ

履修者:41名

卒業論文研究に準ずる小テーマのもとで、各農業分野のフィールドを通じた体験的な実験実習から、安全な農畜産物の安定生産に取り組んでいくための総合的、多面的な考え方や技術を習得することを目的とし実施した。

(12) 果樹園芸学

履修者:10名

良品実果の安定生産に必要な基礎知識とそれを実践する技術、さらには最新の知見も盛り込み、研究の現状が理解できるよう実施した。

2. 山形在来作物系統保存センターの充実

エダマメ 18 系統、サトイモ 9 系統、キュウリ 3 系統、インゲン 2 系統、雑穀 11 系統、ナ

ス3系統、ベニバナ、タデアイ、カボチャ、マクワウリ及びツケナをそれぞれ1系統ずつ展示栽培した。ナスについては、青枯病を避け採種を確実にするために接木を行った。

3. 農場開放

(1) 収穫体験「大学農場に行こう」

鶴岡市およびその近郊の保育園、幼稚園を対象に春のお花見から、リンゴ、クリの収穫体験、動物見学、農場内の散策等に農場施設を開放した。案内・説明等は学生アルバイトを併用して行った。

実施時期：平成28年9月12日～10月21日

(2) 農業体験「わんぱく農業クラブ」

庄内農業水田推進機構の事業の一つとして、学部教員、農場教職員、鶴岡市の三者共催で平成11年度から実施してきたものである。農場の水田を利用して田植えから稲刈り、わら細工の加工まで総合的な学習を行った。

実施時期：平成28年5月14日～11月12日

参加対象：小学3～6年生の親子30組

実施内容：

- 5月 田植え、野菜を植える、バケツ稲を育てる
- 6月 稲の生育調査、農業用水の学習、カブトムシの幼虫とり
- 7月 稲の生育調査、田んぼの生きもの探し、土遊び
- 8月 稲の調査、枝豆の収穫
- 9月 稲刈り、バケツ稲コンテスト
- 10月 脱穀から精米、新米の試食
- 11月 わら細工づくり、もちつき、収穫感謝祭

(3) 「山形大学農場フェスティバル」

昨年度に引き続き、農場産米のPRを目的として、新米を食しながら若手音楽グループの野外演奏や各種催しを楽しむイベントを開催した。開催にあたり近隣市町村からも、米の提供や出店があり、地域との連携も深めることができた。当日は悪天候にもかかわらず、約700名の来場者があった。

実施日：平成28年10月8日（土）

Ⅱ. 研究

1. 研究課題

農場及び学部教職員の農場を利用した研究課題は、表Ⅱ－1のとおりである。

農場教職員が科学研究費等を申請した課題は、表Ⅱ－2のとおりである。

表Ⅱ-1 農場及び学部教職員の研究課題

No	担当者	研究課題	利用施設等	利用期間
(水田関係)				
1	浦川 修司	WCS用イネおよび飼料用米の品種特性の解明と給与技術の検討	水田30a	28.5～28.10
2	加来 伸夫	水田微生物燃料電池における発電ならびに電流発生微生物に関する研究	水田20a	28.4～29.3
3	角田 憲一	水稲栽培における窒素施肥管理に関する研究	水田180a	28.4～29.3
4	片平 光彦	水稲直播栽培に関する研究	水田30a	28.4～28.11
5	片平 光彦	水田転換ほ場での野菜・畑作の栽培作業技術に関する研究	水田4a	28.4～29.3
6	小林 隆	イネ紋枯病の被害が収量および品質に及ぼす影響	水田10a	28.5～28.9
7	佐々木由佳	画像解析による植物の生育状況の評価に関する研究	水田30a	28.4～29.3
8	佐々木由佳	イ酸質資材の長期連用が水稲および土壌のケイ酸含有量に与える影響	水田30a	28.4～28.9
9	佐々木由佳	安全農産物生産学コース学生実験	水田60a	28.4～28.9
10	佐藤 智	持続的新水田農法の開発	水田30a	28.4～29.3
11	佐藤 智	マルタニシの生態と水稲栽培におよぼす影響	水田8a	28.4～29.3
12	藤井 弘志	育苗試験、ケイ酸資材試験、デジタルカメラ用	水田60a	28.4～28.10
13	星野 友紀	つや姫突然変異変異集団の構築と利用	水田10a	28.5～28.10
14	星野 友紀	イネ穂発芽耐性遺伝子のマップベースクローニング	水田10a	28.5～28.10
15	星野 友紀	世界のイネコアコレクションを用いた呼吸能力の測定	水田10a	28.5～28.10
(畜産関係)				
16	松山 裕城	ウシにおける飼料用米等の地域飼料資源を活用した飼養技術の開発	牛舎	28.5～28.12
17	松山 裕城	ブタにおける飼料用米等の地域飼料	豚舎	29.1～29.3

			資源を活用した飼養技術の開発		
18	松山 裕城		飼料特性を評価するために用いるルーメンフィステル装着牛の更新	牛舎	28.4～29.3
			(蔬菜関係)		
19	池田 和生		山形在来なすの果実特性に関する研究	畑3a	28.4～28.11
20	池田 和生		ベニバナアマにおける異型花型自家不和合性に関する研究	畑3a ガラス室	28.4～29.3
21	江頭 宏昌		エダマメRIL系統の維持と山形県内外の在来カブの特性解析	畑5a ガラス室	28.5～28.12
22	片平 光彦		露地野菜の機械化栽培に関する研究	畑5a	28.4～28.12
23	笹沼 恒男		ムギ類、ベニバナ、トウガラシの多様性解析及びその育種学的応用研究	畑6a	28.4～29.3
24	藤井 弘志		熱カメラ、NDVIカメラを用いたダイズの栄養診断技術の開発	畑5a	28.5～28.11
25	星野 友紀		山形日本一エダマメ産地化を目指したエダマメ新品種の開発	畑6a	28.5～28.11
26	星野 友紀		ダダチャマメの良食味を制御する遺伝子座の隔離	畑6a	28.5～28.11
			(果樹関係)		
27	池田 和生		バラ科果樹の果皮における着色遺伝子の同定とその遺伝様式	果樹園20a	28.4～29.3
28	池田 和生		ヤマブドウ在来系統群の特性解明	ヤマブドウ 10本	28.4～29.3
29	池田 和生		庄内柿への石灰肥料効果に関する研究	果樹園10a	28.4～29.3
30	平 智		渋ガキ果実の貼りはけ式脱渋法に関する研究	果実50果	28.10～28.11

表Ⅱ-2 科学研究費

No.	区分	担当者	研究課題
1	挑戦的萌芽	池田 和生	果皮培養によるセイヨウナシ周縁キメラ特異的果実形質の分離とその育種的利用法の確立
2	基盤 (B) (分担)	池田 和生	ゲノミクス・トランスクリプトミクスのアプローチによる異形花型不和合性の機構解明
3	基盤 (C) (分担)	池田 和生	アケビの後発型自家不和合性機構の解明と果実生産に及ぼす影響

表Ⅱ－3 その他経費
受託研究

No.	担当者	研究課題
1	池田和生	鶴岡市農業振興協議会 竹粉の効果検証
2	佐々木由佳	珪酸石灰肥料協会 水稻のケイ酸吸収に対するケイカルの施用効果試験

共同研究

No.	担当者	研究課題
1	浦川修司	トヨタ自動車株式会社 寒冷地水田における飼料用イネの新系統の適応性の評価と 飼料特性の解明
2	佐々木由佳	一般財団法人リモート・センシング技術センター 水稻計測に関する研究

JST-JICA 地球規模課題対応国際科学協力プログラム（分担）

No.	担当者	研究課題
1	佐々木 由佳	テーラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト

地（知）の拠点整備事業

No.	担当者	研究課題
1	佐々木 由佳	飼料と稲を用いた畜産を核とする農業生産サイクルの構築 良質な飼料用米及び稲わら生産のための肥培管理方法の確立

2. 研究業績（2016年4月～2017年3月）

学報等

1. 笹沼恒男（2016）「ベニバナの食品単価色素収量の増加及び安定化に向けた遺伝育種学的研究」日本食品化学研究振興財団第22回研究成果報告書、51-58.

口頭発表

1. 加来伸夫 2016：微生物燃料電池-電流発生微生物を利用した発電装置-、日本化学会東北支部講演会、いわき市
2. 佐々木由佳・高橋里沙・角田憲一 2016：地力窒素を活用した施肥法による栄養生長期間の施肥窒素の削減。日本土壤肥料学会東北支部大会講演要旨、5
3. 赤池隆亮、柿崎彩佳、笹沼恒男 2016：「タルホコムギ遺伝資源の製パン性に関する遺伝育種学的評価」、日本育種学会第129回講演会（横浜市立大学）
4. 笹沼恒男、小寺真純、Tamara N. Smekalova、Olga N. Kovaleva 2016：「コーカサス及びキルギスで収集した野生ベニバナ属遺伝資源の系統・多様性解析」、日本育種学会第130回講演会（鳥取大学）、2016年9月25日
5. 川上珠恵・吉田拓也・後藤元・阿部洋平・中場勝・星野友紀 2016：「つや姫」突然変異集団から単離した *waxy* 突然変異体の利用による食味評価向上への試み、東北植物学会第6

回大会研究発表記録、L04、pp24.

6. 星野友紀 2016 : 山形ブランド米「つや姫」の良食味強化、平成28年度戸部眞紀財団交流発表会、招待講演、pp11.

ポスター発表

1. 角田憲一・Aime Mutabazi Minc・佐々木由佳 2016 : 水稻栽培の場所特異的養分管理と側条施肥の組み合わせによる施肥窒素削減. 日本土壤肥料学会講演要旨集 62, 103
2. 日本育種学会第 129 回講演会 (横浜市立大学)
鶴巻啓一、稲葉有紀、松本幸也、笹沼恒男「トウガラシ白色果実系統“チェイロホワイト”の *Psy*、*Ccs* の変異解析と TLC によるカロテノイド組成分析」
3. 2016 年 6 月 15 日-17 日 23rd International Pepper Conference (ペルー・トルヒーヨ市)
Tsuneo Sasanuma、Yuki Inaba 「Reconsideration of inheritance of pepper fruit color based on three loci model of *y*, *c1* and *c2*」
4. 2016 年 6 月 15 日-17 日 23rd International Pepper Conference (ペルー・トルヒーヨ市)
Keiichi Tsurumaki、Yuki Inaba、Yukiya Matsumoto、Tsuneo Sasanuma 「Biochemical and molecular analyses of white fruit pepper variety “Cheiro White”」
5. 2016 年 9 月 25 日 日本育種学会第 130 回講演会 (鳥取大学)
平山可奈、赤池隆亮、高田兼則、Tamara N. Smekalova、Olga N. Kovaleva、笹沼恒男「コーカサス地方で収集したパンコムギ遺伝資源の基本農業の形質及び製パン性関連形質の評価」
6. 2016 年 9 月 25 日 日本育種学会第 130 回講演会 (鳥取大学)
鶴巻啓一、稲葉有紀、松本幸也、笹沼恒男「トウガラシのカロテノイド生合成経路遺伝子 *Psy*、*Ccs* の変異型アリル特異的な DNA マーカー」
7. 2016 年 11 月 12 日 第 11 回東北育種研究集会 (山形大学農学部)
平山可奈、赤池隆亮、高田兼則、Tamara N. Smekalova、Olga N. Kovaleva、笹沼恒男「コーカサス地方で収集したパンコムギ遺伝資源の製パン性及び収量に関する評価」
8. 2016 年 11 月 12 日 第 11 回東北育種研究集会 (山形大学農学部)
畠山春奈、青柳沙緒莉、高橋優利佳、相澤由佳里、笹沼恒男「ベニバナの花弁収量及び花弁色素合成関連遺伝子に関する研究」
9. 2016 年 11 月 12 日 第 11 回東北育種研究集会 (山形大学農学部)
齋藤美帆、田中裕之、佐藤和広、朱明婧、龍春林、笹沼恒男「中国青海省チベット高原で採集した *Elymus* 属遺伝資源の遺伝的特徴の解明
10. 2016 年 11 月 12 日 第 11 回東北育種研究集会 (山形大学農学部)
鶴巻啓一、笹沼恒男「トウガラシ新規辛味欠失系統の遺伝学的解析」
11. 飯島信繁・畑昌和・渡辺杏里・滝口可菜・上村千穂・川上珠恵・穴井豊昭・星野友紀 2016 : X 線照射によって得られた高ステアリン酸ダイズ突然変異体における *GmSACPD* 遺伝子の転写後発現抑制、日本育種学会第 130 回講演会要旨集、P043、pp159.
12. 川上珠恵・吉田拓也・後藤元・阿部洋平・中場勝・星野友紀 2016 : TILLING 法による「つや姫」突然変異集団からの低アミロース変異体の単離、日本育種学会第 130 回講演会要旨集、P073、pp189.
13. 川上珠恵・吉田拓也・後藤元・阿部洋平・中場勝・星野友紀 2016 : 「つや姫」の食味評価向上を目指した突然変異集団からの低アミロース変異体の探索、第 11 回東北育種研究集会要旨集、P04、pp13.
14. 飯島信繁・畑昌和・渡辺杏里・滝口可菜・上村千穂・川上珠恵・穴井豊昭・星野友紀 2016 : *GmSACPD-2a* 遺伝子の 1 塩基欠損によって生じた重複遺伝子群の転写後発現抑制、第 11 回東北育種研究集会要旨集、P05、pp14.

15. 畑昌和・飯島信繁・上村千穂・川上珠恵・太田千恵・五十嵐徹・石山秀峰・星野友紀 2016 : エダマメ生産力強化に向けた突然変異による「秘伝」開花期の改変、第11回東北育種研究集会要旨集、P06、pp15.
16. 飯島信繁・川上珠恵・畑昌和・栗野莉奈・高橋弘紀・杉本和彦・星野友紀 2016 : コシヒカリとノナボクラの染色体断片置換系統群から見出された穂発芽耐性 *qSdr6* のファイナマッピング、東北植物学会第6回大会研究発表記録、P14、pp52.
17. 畑昌和・飯島信繁・上村千穂・川上珠恵・太田千恵・五十嵐徹・石山秀峰・星野友紀 2016 : エダマメ品種「秘伝」突然変異集団の作出と開花期突然変異体の単離、東北植物学会第6回大会研究発表記録、P15、pp53.
18. 星野友紀 2016 : 北植物学会第5回大会研究発表記録、74.
19. Taira,S., M.Awa and D.Matsumoto. 2016. Comparison between the astringency removal of 'Hiratanenashi' and 'Denkuro' persimmon applying ethanol treatment on-tree and after harvest. Abstr. 6th Int. Symposium on Persimmon, 16-20 October 2016, Valencia, Spain. p.88.

雑誌への発表

1. 平智・丹野ゆか・山本貴子 2016 : 着果姿勢がリンゴおよびカキ果実の発育と品質に及ぼす影響、農業および園芸、91:628-633.
2. 平智・山本貴子・丹野ゆか 2016 : 数種果実における果肉の部位の違いが品質に及ぼす影響、農業および園芸、91:711-717.

流域保全部門

流域保全部門は、「森林計画」を基本に、教育研究、社会連携、森林管理等を実施している。

平成28年度の報告は、第8次森林計画（平成26年～35年）に基づき立案された「平成27年度森林計画」の実行に関する概況である。

I. 教育・研究林としての利活用

1. 教育

演習林に関連する授業科目を表1に示す。

表1 演習林に関連する授業科目

科目名	対象学科コース等	学年	開講期	単位数
<学士課程>				
やまがたフィールド科学Ⅲ	全学部学科	1～4	後期	2
流域保全論	森林科学コース	2～4	前期	2
森林科学総合実験実習	森林科学コース	2～4	前期	2
森林測量学	森林科学コース	3～4	前期	2
森林科学応用演習-I	森林科学コース	3～4	後期	2
森林科学応用演習-II	森林科学コース	4	前期	2
流域保全実習	水土環境科学コース	2～4	前期	2
生物多様性保全学実験実習	森林科学コース	2～4	前期	2
雪山実習	全コース	2	後期	1
自然環境調査実験実習	森林科学コース	3～4	前期	2
森林測量学実習	森林科学コース	3～4	前期	2
河川環境調査実験実習	水土環境科学コース	3	前期	2
森林資源利用学実験実習	森林科学コース	3～4	後期	2
<大学院修士課程>				
森林雪氷学特論	生物環境科学専攻	1～2	前期	2
森林雪氷学特別演習	生物環境科学専攻	1～2	前期・後期	1・1

このうち、流域保全部門が主体となって実施した学部科目の授業概要を以下に記す。

(1) やまがたフィールド科学Ⅲ（雪との共生－雪国の自然と生活－）

基盤教育科目の教養科目「山形に学ぶ」領域の教養セミナーとして、全学部学生を対象に開講しており、演習林における教科の全学開放の1つとしても位置づけられている科目である。今年度は、1月中旬に3泊4日の日程で上名川演習林の宿泊施設を利用し実施した。

(2) 流域保全論

森林科学コース必修科目として開講されている。持続可能な森林管理と流域の保全に向けて、森と川と海は縫い目のないひとつながりの生態系であるという観点から、私たちの暮らしを守り、快適に、豊かにしてくれる森林のはたらきについて広い視野でとらえ、森林の恵みを将来にわたって上手に利用していくためには何が必要か、自然と人間の共生、森林との上手なつき合い方、流域保全のありかたにつ

いて学習することがねらいである。授業は講義と上名川演習林におけるエクサカーションとにより、グローバルな環境問題と深い関わりをもっている森林資源の実状について、わが国内外の様子を紹介したあと、森林の環境形成作用、森林と環境との相互作用、森林の有する多岐にわたる公益的機能のしくみ等について明らかにし、環境保全的な森林の取り扱い方に関する理論と実践について学習した。

(3) 流域保全実習

水土環境科学コースの選択科目として開講している。今年度は2泊3日の日程で上名川演習林の宿泊施設を利用し実施した。授業のねらいは、森林の多面的な働きの理解と森林流域の保全のために、森林・土壌調査、樹木生態、育林、森林整備に関する実習を通じて、森林の多面的な働きについて理解を深め、森林の循環利用、森林流域の保全に関する技術を習得することである。

(4) 雪山実習

学科共通科目として開講している。授業のねらいは、積雪環境と森林・樹木の生理・生態的応答関係を理解すること。また、雪国の森林・樹木に多大な影響を及ぼす積雪環境について理解を深め、雪と森林の相互作用について学ぶことである。

2. 卒業論文・修士論文・博士論文の指導

流域保全部門の研究室に所属している学生を受け入れ、指導教職員と共同で論文指導等を行った。

3. 研究

上名川演習林および生物多様性保全研究園を利用して実施された研究テーマを表2に示す。

表2 上名川演習林及び生物多様性保全研究園を利用して実施された研究テーマ

No.	研究代表者	共同研究者	研究テーマ	場所
1	沼澤 葉月		山形県内スギ人工林における未利用バイオマスの推定に関する研究	演習林
2	森 茂太	石田 厚 (京都大・生態学研究センター) ほか	高齢スギ林の個体呼吸に関する研究	演習林
3	森 茂太	山路 恵子 (筑波大)	植物個体呼吸スケーリングのシフトに関する研究	生物多様性保全研究園
4	森 茂太	石田 厚 (京都大・生態学研究センター) ほか	モウソウチク林の呼吸研究	生物多様性保全研究園
5	森 茂太	石田 厚 (京都大・生態学研究センター) ほか	根を含む樹木の光合成・呼吸の正確な多個体実測によるシステムック生理学研究	生物多様性保全研究園
6	森茂太	石田 厚 (京都大・生態学研究センター) ほか	陸上植物の地上/地下呼吸分配システム	演習林・生物多様性保全研究園
7	渡邊 一哉	内水面水産試験場	サクラマス親魚の動態と産卵環境	演習林

8	渡邊 一哉		砂防堰堤スリット化後の河川環境の現状と課題	演習林
9	藤井 秀人		早田川流域の流出特性	演習林
10	藤井 秀人		大徳沢の積雪・融雪と標高との関係	演習林
11	服部 聡	新井 大輔、 飯塚 禎明	各種野生植物に内生する新規放線菌の探索	演習林
12	高橋 孝悦、 芦谷 竜矢	鈴木 佑梨	スギ成分の藍藻類 <i>Microcystis aeruginosa</i> に対する増殖抑制効果	演習林
13	高橋 孝悦、 芦谷 竜矢	田中 駿耶	針葉樹葉成分の植物発芽生長抑制効果	演習林
14	高橋 孝悦、 芦谷 竜矢	久保 智裕	スギ樹皮の PEG・バイサルファイト法による液化	演習林
15	高橋 孝悦、 芦谷 竜矢	二宮 七海	スギ科ノルリグナンの分析	演習林・生物 多様性保全研 究園
16	高橋 孝悦、 芦谷 竜矢	井上 里咲	オオバクロモジとタムシバの成分分析	演習林
17	高橋 孝悦、 芦谷 竜矢	渡部 大寛	スギ針葉の化学成分分析	生物多様性 保全研究園
18	高橋 孝悦、 芦谷 竜矢	益田 明佳	ブナ葉成分の単離と同定	演習林

II. 生涯学習林としての利活用および地域との連携

1. 演習林施設開放事業

上名川演習林の施設開放事業の一環として、鶴岡市内の小学生を対象に、「森の学校」を7月23日(土)、10月15日(土)、2月4日(土)の3回実施し、植樹、炭焼き、バウムクーヘン作り、木の実・きのこ採取、落ち葉や草花のしおり作り、雪の特徴と雪で遊び等を行った。

2. 地域との交流（国内と国際）

- (1) 地元の上名川・下名川自治会が主催して、毎年5月6日に定期的で開催される入山式に参加するとともに、同日に入山式懇談会を開催し、鶴岡市、庄内総合支庁及び出羽庄内森林保護組合等の地元関係者並びに学長をはじめとする多数の学内関係者が参集し、地元と大学関係者との交流を深めた。
- (2) さくらサイエンスプランに採択されたプログラムで、モンゴル生命科学大学の学生、ベトナム・フエ大学、中国東北林業大学及びハノーバー大学の学生が、豪雪に関する農業と林業の開発を理解するために演習林を訪問し、施設見学や本学の学生との共同ゼミ等を実施した。

III. 教育研究支援および森林管理

1. 実習支援

演習林で実施される実習計画に基づき、事前に実習用具の準備・点検整備、刈払い、および試料提供等を行った。実習時には指導教員の指示に従い実習指導支援を行った。

2. 研究支援

学生・教員等からの研究支援の要請に応えるよう、森林管理作業と調整を図りながら研究支援を行った。大徳沢林道への温度センサー設置、大気成分調査、自然生態系保全モニタリング調査への協力（山形県環境科学研究センター）、卒論・修論研究に関する調査の支援を行った。

3. 調査

平成 28 年度伐採地である 5 林班ニ施業班枝番 5 の毎木調査を行った。

4. 収穫事業

1) スギ直営生産

スギ素材生産を 5 林班ニ施業班枝番 5 にて実施し、販売した。計画量 80 m³に対し、78.7 m³の販売実績であった。採材に当たっては販売委託先である木材流通センターと連絡を取り、需要の多い寸法となるよう努めた。

2) キノコ生産

シイタケ・ナメコ・ヒラタケの生産を行った。販売実績はそれぞれ 0kg、25.9kg、18kg であった。シイタケのほだ木の腐朽に加え、一昨年まで災害のため原木の確保が出来ず、また発生まで時間を要するためまとまった収量が得られなかった。

3) カブ生産

5 林班ニ施業班枝番 5 において焼払い地拵えを行い、その後赤カブを栽培した。播種直後に強雨があり、その影響で発芽率が上がらず販売実績は 40kg となった。

4) 製炭

製炭実績はなく、前年度製作の炭 10kg を販売するに留まった。

5. 育林作業

1) 地拵え

5 林班ニ施業班枝番 5 (0.20ha) に対し焼払い地ごしらえを行った。

2) 新植・補植

本年度実施せず。

3) 下刈り

新植～3 年目の植栽地に対し 2 回/年、4～6 年目の植栽地に対して 1 回/年行った。一部、学生実習にあわせ実施した。

樹種	林班	面積 (ha)	植栽年
スギ	12 林班へ施業班	0.32	2011
スギ	4 林班ソ小班 (枝 3)	0.2	2014

6. 土木作業

1) 林道

早田線沿いの沢について、降雨後流下した土砂によるつまりが発生したため、土砂の撤去・排水の確保を行った。芦沢・大徳沢林道に関しては、土砂撤去、排水路の確保を行い、被害の拡大、新たな災害の発生抑止に努めた。

2) 歩道

要請がなかったため実施しなかった。

3) その他

降雨後の林道の巡視、積雪時の橋幅員の確認用支柱の設置、各橋の雪下ろし、冬期通勤路における補

修、雪崩の復旧作業等を行った。

7. 管理作業

1) 車両

車両の点検・整備は事故防止につながることから、使用前に点検・整備を行った。

2) 建物

管理棟・格納庫・仮設物および分室等の維持管理のための雪下ろしおよび補強、雪下ろし後の除雪および除雪機具の手入れ等を行った。

3) 整理

実習前・後に特に管理棟内外の整理・清掃を行った。

4) その他

入山式関連の諸準備、案内板・表示板を設置および撤去、入林者の送迎を行った。
送電線への支障木の除去を行い、断線・漏電防止に努めた。

8. 製炭作業

他作業との兼合いもあり、実施しなかった。

9. 苗畑作業

1) 樹木管理

見本林、樹木園の草刈り、道路・隣地との境界の支障木除去・枝払いを行った。

2) その他

学生や教員の要請に応じて耕耘作業等を行った。

10. 会議等

実習打合せ、健康診断、各種行事・委員会、センター試験補助、業務説明会等への出校。

11. 演習林開放事業

演習林施設開放事業として、鶴岡市内の小学生を対象とした『森の学校』を夏季（7月）、秋季（10月）、冬季（2月）に開催した。

12. 調書作成等

作業計画・実績、作業・運転日誌等の整理、報告等を行った。

【 本年度特徴 】

- ・公開森林実習として、雪山実習への受け入れを行った。
- ・伐採跡地に火入れを行い、赤カブの栽培を行った。
- ・大徳沢林道に温度センサーを取付けた支柱を設置した。
- ・災害復旧工事が完了した。

社会教育部門

1.H28年度の総括

【国際貢献部門】

- JICA 短期研修生の受け入れについて（8年目の受け入れ）
 - ・ アフリカ稲作収穫後処理コース（英語圏・フランス語圏）
 - ・ 平成28年8月18日～9月28日
 - ・ アフリカ12ヵ国18名の研修生
 - ・ 受け入れのコーディネーター：角田憲一准教授

- 教育強化
 - ・ 関連授業の実施（国際フィールド協力論、国際理解）
 - ・ 国際農業経済論（2011年度後期～）

2.H29年度の計画

【国際貢献部門】

- H29年度 JICA 短期研修生の受け入れ
 - ・ 内容：アフリカ稲作収穫後処理コース/英語圏
 - ・ 期間：平成29年 8月 日()～9月 日(水)
 - ・ 地域（国家）別研修生 計18名
Sudan (1), Ethiopia (1) Ghana (1), Madagascar (2), Liberia (1) Uganda (1),
Tanzania (1), Zambia (1), Mali(1), Nigeria(2), Rwanda(1), Senegal (5)
 - ・ 受け入れコーディネーター
角田憲一・片平光彦・佐々木由佳・角田毅

- 教育強化
 - ・ 関連授業の実施（国際フィールド協力論、国際理解）
 - ・ 国際農業経済論（2011年度後期～）

6. 農学部図書館の概要等

昭和24年 5月	山形大学附属図書館農学部分館	発足
昭和47年12月	〃	竣工
平成3年 4月	受入業務を最後に全面的に電算化へ移行	
平成8年 4月	平日の時間外開館20時までとなる	
平成10年10月	土・日の時間外開館開始（13時～17時）	
平成15年 3月	山形大学附属図書館農学部分館	改修・増築
	面積 969 m ²	収容可能冊数 58,000冊 座席数 120席
平成17年11月	土・日の時間外開館拡大（10時～17時）及び祝・休日の開館開始（10時～17時）	
平成20年 1月	平日の開館時間延長（8時45分～21時15分）	
平成21年 4月	平日の開館時間短縮（8時45分～21時）	
平成21年10月	「山形大学農学部図書館」に名称を変更	

開館時間

曜日	通常期	休業期(※)	
月～金	8時45分～21時	8時45分～17時	※夏季休業 8.5～9.30
土・日・祝・休日	10時～17時	閉館	冬季休業 12.25～1.10 春季休業 2.20～

蔵書数 (29.3.31 現在)

和書	83,306	洋書	17,219	計	100,525
----	--------	----	--------	---	---------

入館者数 (カッコ内は1日平均)

年度	平日	土・日・祝・休日	計
26	42,656 (178)	4,641 (59)	47,297 (149)
27	42,762 (179)	5,546 (69)	48,308 (151)
28	35,047 (146)	4,223 (54)	39,270 (123)

文献複写件数

年度	学内からの受付	学外からの受付	学外へ依頼
26	42	123	263
27	27	109	151
28	9	92	135

7. 大型設備の設置状況

年度	一般設備費	特別設備費	特別教育研究経費	施設整備補助金	設備補助金	備考
昭和62年度		作物群落生理測定装置				
平成2年度	エネルギー分散形X線分析装置					電子顕微鏡
3年度	物性精密計測試験装置					人工気象装置
6年度	ガスクロマトグラフ質量装置					
7年度		高性能質量分析装置				
		栽培環境条件設定装置				ファイトロン
8年度	フリーラジカルモニタ					
9年度	3次元データビジュアル化解析システム	遺伝情報解析装置				
11年度		農業用ロボット実験システム				
15年度		環境負荷軽減物質成分分析システム				
21年度			地域在来作物の高度化利用研究 (質量分析装置)	微量成分解析装置	N・C安定同位体比測定用質量 分析システム	
22年度			地域在来作物の高度化利用研究 (共焦点レーザー顕微鏡)			
23年度					積雪寒冷地農林業気象観測システム 植物・土壌成分分析システム	
24年度			新・里山生態系管理システムの構築 (ガスクロマトグラフ質量分析装置) (高所作業台車)		卓上走査型電子顕微鏡 開放型光合成蒸散測定システム	
26年度				高分解能核磁気共鳴装置		NMR

8. 鶴岡キャンパスの名称・所在地，土地・建物の概要

山形大学農学部

〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23
 TEL 0235-28-2805
 FAX 0235-28-2812
 ホームページアドレス <http://tdsl.tr.yamagata-u.ac.jp/>

山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場

〒997-0369 鶴岡市高坂字古町5-3
 TEL 0235-24-2278
 FAX 0235-24-2270

山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林

〒997-0405 鶴岡市上名川字早田川10
 TEL 0235-53-2755
 FAX 0235-53-2755

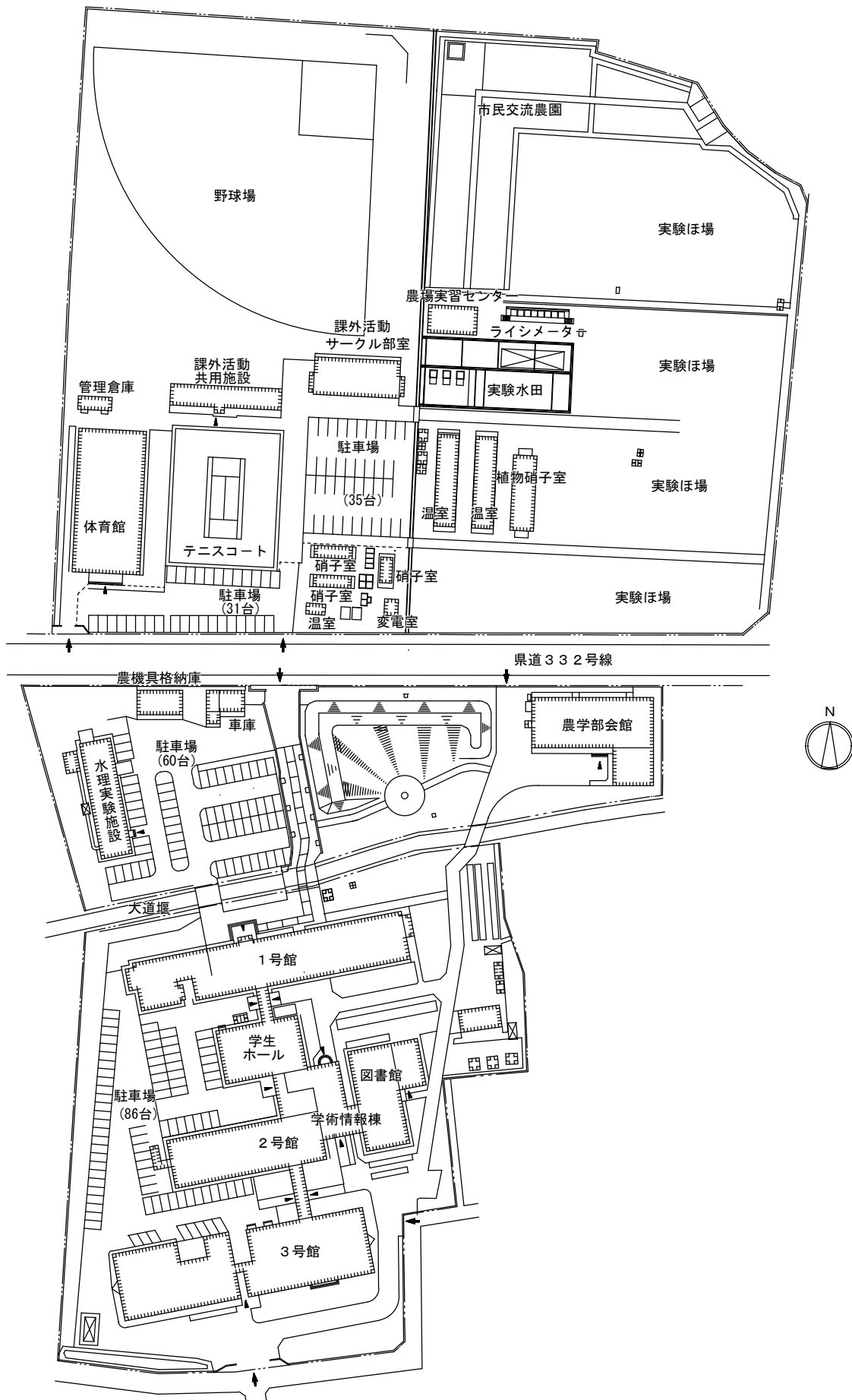
土地

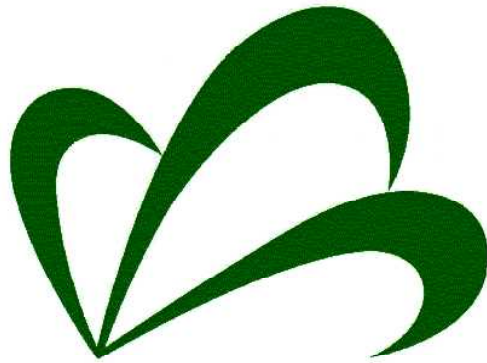
区分	面積 (㎡)
農学部	62,506
農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場	240,655
農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林	7,530,908
農学部附属やまがたフィールド科学センター生物多様性保全研究園	7,871
学生寮 (啓明寮)	6,756
職員宿舎	4,319
計	7,853,015

建物

区分	構造	築年度	面積 (㎡)
水理実験施設	S1	平成17	321
3号館	SR6	平成15	3,266
3号館	SR6	平成12	3,103
2号館	R5	昭和47	3,429
学生ホール棟	R1	昭和46	429
1号館	R5	昭和44	5,742
図書館	R2	昭和47	820
学術情報棟	S2	平成14	384
学術情報基盤センター	R1	昭和61	112
農学部会館	R2	昭和51	1,090
体育館	S2	昭和45	1,083
課外活動施設棟	R2	昭和57	406
	S2	平成20	572
その他			1,041
計			21,798

配置図





Yamagata University
Faculty of Agriculture